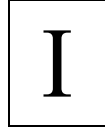


令和6年度 年次報告書

目 次

I. 子ども学科	1 ～ 4
II-(1). キャリア育成学科オフィスワークコース	5 ～ 8
II-(2). キャリア育成学科介護福祉コース	9 ～ 12
III. 仏教教育研究センター	13 ～ 17
IV. 育児文化研究センター	18 ～ 25
V. 介護福祉研究センター	26 ～ 28
VI. 自己点検・評価委員会	29 ～ 35
VII. 学務委員会	36 ～ 40
VIII. 入試広報委員会	41 ～ 53
IX. キャリア支援委員会	54 ～ 60
X. 図書委員会	61 ～ 112
X I. 学生支援委員会	113 ～ 115
X II. 仏教行事委員会	116 ～ 118
X III. ネットワーク委員会	119 ～ 123

XⅣ. 外国人留学生支援委員会	124 ～ 127
XⅤ. 研究倫理委員会	123 ～ 134
XⅥ. ボランティア活動支援室運営委員会	135 ～ 138
XⅦ. 事務局	139 ～ 149



子ども学科

年次報告書

学科長 福西 朋子

I 昨年までの課題

令和5年度子ども学科年次報告にて挙げた課題は以下である。

1. 子ども学科中長期計画の遂行（継続）

目標に基づくプランの検討・計画と遂行できる体制づくりと実施であった。新任教員3名を迎えるということもあり、新たな体制づくりによる実施を目指した。

2. 学生募集のための方策（継続）

「受験生に選ばれるための学科教育活動等の掘起こしと見直し」と「受験対象を広げるための方策の検討」を掲げ、他大学との差別化を図ることのできる教育活動と社会人及び委託訓練生の入学に繋がる広報等、具体化に向けて考えることとした。

3. 学生指導や支援に関すること（継続）

学生支援体制の構築が進捗中であることを受けて「学生支援委員会との連携による学生支援の充実」と近年の入試選抜による入学生が見込めない中での学生指導・支援が必要である現状を受けて「実習の実施や免許・資格取得の有無を見定めた指導・支援の積み重ね」を課題とした。

4. 学科運営体制の構築

令和5年度末で2名の教員退職、令和6年度に3名の教員着任のため、新たな学科運営の構築が必要であることから掲げた課題である。また、各教員の職位に応じた主体的且つ協働した学科運営体制づくりも目指すこととした。

II 本年度（令和6年度）改善されたこと

Iに挙げた課題に対する改善

1. 子ども学科中長期計画の遂行

「1教育」の「学科DP（学科別学習成果）の見直し」については、学科DPの見直しには大学全体として掲げるポリシーの見直しの動きと連動する必要がある。ポリシーに関わる自己点検・評価委員会において見直しについて問うているが、本目標を掲げ3年目の今年度も大学として見直しの必要性は挙げられなかった。「キャリアイメージの明確化」では、「学びの図」に沿って学生が各期に自己分析を行うこととその自己分析方法の策定を目標とした。今年度は令和6年度生の「学びの図」に学科DPを加えて作成しこの図を「カリキュラム・マップ」と位置付けることとなった。令和6年度生においては、全学的なDPループリックアンケート実施の際に学科の「カリキュラム・マップ」を提示し学科DPと各期の目標について説明、共有することを行った。このDPループリックアンケートを学生が行うことが自己の振り返りに繋がるとも考える。学科独自の自己分析方法の策定には至らなかったが、各期末における履修カルテ作成、「キャリアスタディ」科目における履歴書作成のために行う自己分析など、各期の自己分析に繋がる取組みは行っている。学生の自己分析の目的は、DP（到達目標）を見据えて学習、取組みを行い知識・技能、表現力や協働力等を身につけ、学生それぞれが望む進路実現のために行うものである。そのために必要であることを改めて確認し、各期の自己分析方法の策定の有無の再検討を行いたい。「特色ある保育者養成教育の構築」については、令和5年度生カリキュラムに設置した「たかたん保育特別演習」

の3科目が2年次後期に開講した。今年度の学生の受講のようすなどから2年目開講に向けさらに内容の充実をしていく。

「2 研究」においては、外部資金獲得を見据えた共同研究プロジェクトチームの編成と研究計画の検討、育児文化研究センターのグループ研究との連動も視野に入れることを目標に掲げたが着手できなかった。

「3 社会連携・社会貢献」の「卒業生との学び合いの機会の促進」については、取組みの主体は地域貢献を目的とする育児文化研究センターとの連携で行うことを前提とし、今年度は令和7年度実施に向けて取組みの検討を行った。

「4 その他」は、「教員の業務見直し・改善」である。今年度も昨年に引き続き学科共有フォルダに課題提案シートをアップし随時書き込みできる体制づくりと年度半ばと年度末の協議会で議題に挙げて意見を交わす機会を創出し、必要に応じて関係部署に発信し改善に向かうよう働きかけた。

2. 学生募集のための方策

「受験生に選ばれるための学科教育活動の掘起こしと見直し」に関しては、学科教員着任1～2年目の者の前任校等での取組み報告からアイデアを得て新たな教育活動等に繋げることを目的に学科FD研修を行った。「受験対象を広げる方策」としては、子ども学科独自には行わなかった。令和7年度委託訓練生募集に関しては、受け入れ数の増加があり受験生もその数に見合う応募があった。募集期間が短いことが課題であり入試広報課による広報（募集チラシを津市に協力を得て関係部署に配布）によるともいえる。

また、高田学苑高田高校からの入学者減少が続いていることから、さらに連携して保育職に対する理解や魅力を伝える方策を教員間で様々に挙げた。令和7年度には具体的取組みを行う予定である。

3. 学生指導や支援に関すること

学生の支援には専門的知見等が必要であること、支援主体は学科であるが然るべき部署、人員と連携して行うものであることを踏まえ、学生支援を行った。令和6年から学生相談室専属スタッフが加わり学生相談室内での連携も模索するなかでの支援であった。支援に関わった教員からは、学生対応のアドバイスを求める声や支援の仕組みができたことでスムーズに支援を進めることができたとの声が寄せられた。認識するとともに、免許・資格取得に係る実習とそれに連動する進路選択に関わる支援ケースの積み重ねが必要であることも改めて認識できた。

また、今年度から成績不振者への指導が内規で定められ、各期終了時に該当学生はアドバイザー担当教員が指導面談を行うこととなった。卒業、免許資格取得のための個別的な指導・支援を要する学生が昨年に引き続き一定数存在する。学生自身の自律した態度を尊重しつつ、適宜、関わる必要があった。近年は、学力の低い学生も散見され学習支援も必要であることが窺える。

4. 学科運営体制の構築

学科教員それぞれの任務、役割を遂行し、学科の運営、教育活動等が滞りなく行われた。令和7年度は学科長交代であるが学科教員の異動はないので、これまでのことを土台に体制の構築に努める。

Ⅲ 新たな課題

全国的に短期大学の閉学が進んでいる。ほとんどが保育者養成を担う短大であるため本学科も危機感がある。オープンキャンパス参加者数減とともに受験者数減は昨年に続く現象であった。これまで以上に学生募集の戦略が必要ではあるが、大学の自助努力には限りがある。一方、三重県内の保育者不足はこれまでと変わらず喫緊の課題である。各市町、保育現場から多くの保育者輩出が求められている。今後は「三重県の保育者不足解消」を目的に各市町、保育現場と連携した取組みを具体化し実施していくことが必要である。

入試の選抜による入学生が見込めず、学力の低い学生や目的意識の薄い学生が一定数入学する。そのために成績不振学生が増加傾向、免許・資格取得しない学生も増加傾向である。昨年も記述したが、「卒業」と「免許・資格」取得において学科 DP を踏まえながら、どのような教育内容・方法で質を担保していくのか、令和 7 年度においても継続の課題である。

令和 8 年度生カリキュラムを令和 7 年度に検討する。主に実習時期、実習内容の見直しの必要を共有したことによる。学生の実習経験からの学びと大学での学習が効果的に連動するカリキュラム再編を目指す。

育児文化研究センターが令和 7 年度は業務縮小するとともに新たな位置づけに向けて検討を行う。地域と連携し主に子育て、子育て支援に寄与する事業を行っており、学科教員も研究員として各事業に携わってきた。保育者養成校として、地域の子育て支援に寄与することも大きな使命であるため、今後についてはセンターとともに協議し然るべき方向を見出す必要がある。

4. 次年度（令和 7 年度）取り組むべきこと

① 令和 8（2026）年度生カリキュラムの検討

実習とそれに伴う専門科目との連動の検討を中心とした再編。

② 子ども学科中長期計画の遂行（継続）

目標に基づくプランの検討・計画と遂行できる体制づくりと実施。

③ 学生募集のための方策（継続）

- ・市町や保育現場と連携した取組みの具体化と実施
- ・高田高校と連携した取組みの具体化と実施

④ 学生指導や支援に関すること（継続）

- ・学生相談室との連携による学生支援の充実。
- ・実習の実施や免許・資格取得の有無を見定めた指導・支援の積み重ね。

Ⅱ - (1)

キャリア育成学科 オフィスワークコース

年次報告書

学科長兼コース長 野呂 健一

I 昨年度からの課題

1. 学科・コースの魅力のより積極的な発信

令和5年度入学生から改訂されたカリキュラムの魅力をより積極的に発信していく。男子学生の増加など、新たな層へのアピールも必要となる。

2. 各種検定試験合格者増に向けた取り組み

企業や医療機関等の事務職として求められるスキルを高めることや、対外的なアピールのために、各種検定の受験者、合格者をさらに増やす必要がある。今年度1年生は前年度より合格者が増えたが、3年前の資格取得率と比べるとまだまだ低い状態である。

3. 就職活動への意識向上

入学当初から就職活動への意識を持たせるとともに、充実させたキャリア育成科目により、意識、知識、スキルを高める。また、前向きになれない学生への支援を継続する。

4. 地域連携活動の継続

地域連携活動を担ってきたキャリア研究センターが廃止され、その役割をオフィスワークコースで引き継ぐことになった。連携先と協力しながら事業を展開することが求められる。

5. 多様な学生への対応

課題を抱えた学生が毎年入学してきており、関係機関と連携しながら、きめ細かに対応していく必要がある。

II 本年度改善されたこと

1. 学科・コースの魅力のより積極的な発信

オフィスワークコース独自のA4判リーフレットを作成し、オープンキャンパスや高校ガイダンス等で配布した。リーフレットには、コースの魅力のほか、卒業生・在校生の声も掲載した。近年、男子学生も学んでいることを伝えるため、男子学生の声も含めた。

オープンキャンパスにも工夫をした。卒業生や在学生の生き生きとした姿を見せることが効果的と考え、コースの全体説明で話してもらう機会を増やした。そのほか、スタンプカードを配布して、参加者に次回の参加を呼び掛けたり、参加者に対するお礼状を教員による手書きで作成したりした。

2. 各種検定試験合格者増に向けた取り組み

昨年度までの秘書検定と日商簿記検定に加え、サービス接遇検定についても直前対策講座を実施した。サービス接遇検定は2級の合格率が9割を超えた。

日商簿記検定については、簿記の専任教員が退職後も、カリキュラム担当と非常勤講師が連携し、検定前の対策講座を2級、3級それぞれで開講した。積極的な受験も促して約半数が受験し、一定の合格者を出した。

情報系検定については、ワープロ検定、表計算検定、データベース検定に加え、新たに文書デザイン検定を取り入れ1級合格者も輩出できた。ワープロ検定合格率が低かったことを踏まえ、正しいキーボード操作方法の動画教材を作成し、Google クラ

スルームにて配信することで自宅で練習できるようにした。

3. 就職活動への意識向上

就職活動に関する科目のうち、キャリアデザインⅡ、キャリアガイダンスⅠ・Ⅱについては選択科目であるものの、履修指導において、オフィスワークコースの学生には必ず履修させることとした。

就職講座を授業化して2年目の本年度は、安易な欠席が生じないように、15回を3期に分けて到達点を明確に打ち出した。また、授業の連続性を可視化するため、学生に面接ノートを持たせるとともに、合同企業説明会等の参加を早期化させた。その結果、3月のエントリー開始まで実施した15回中12回で出席率が前年度を上回った。また、合同企業説明会等の参加状況は、33名から60名にほぼ倍増した。

4. 授業と連動した地域貢献の推進

湯元榊原館や一身田商工振興会の連携協定に基づき、3つのゼミナールにおいて、地域活性化に関する活動を実施した。それぞれ関係者を招き、学生が地域活性化に関するアイデアや施策についての調査報告や意見交換を行った。

「チームプロジェクト演習Ⅱ」では、新入生研修で利用している白山ヴィレッジを訪問し、ロストボールを活用した地域内経済循環のプランを報告した。

1年生に「地域実践」の積極的な履修を呼び掛け、1人で3回以上の活動に参加する学生が増えた。また、内容に連続性を持たせることによって、学生の資質・能力を熟練させることができた。

5. 多様な学生への対応

オフィスワークコースでは、例年以上に多い男子学生や数年ぶりの留学生（2名）が入学したことを受けて男女や留学生についてゼミの割り振りを行い、ゼミごとで学生の偏りが生じないように配慮した。教員間で学生情報の共有を図るとともに適切な対応について検討するなど細かな対応を進めた。

内向的な学生が増えていることから、友人作りの機会とするために新入生オリエンテーションの際に交流会を実施したところ、学生からは知らない人と話す機会ができて良かったと好評であった。

心身に不安がある学生への支援や合理的配慮を要する学生に関しては、学生支援委員会を通じたケース会議を開催し、関連する部門で学生状況の共有を図るなど対応した。

Ⅲ 新たな課題

1. カリキュラムの点検

令和5年度入学生から改定したカリキュラムが今年度で2年次科目まで実施されたことから、次年度は新科目を含めた点検を行い、その後のカリキュラム改定の必要性を検討する必要がある。

2. 短大の強み及び本学の魅力の積極的な発信

四年制大学や専門学校と差別化した短大の強み及び本学の魅力を積極的に発信する必要がある。そのためにWebやSNSによる情報発信の強化に努める。また、昨年度、高田高校からの入学者が激減したことを踏まえ、入試広報課と協議しながら対策を講

じる。

3. 地域貢献活動、ボランティア活動への積極的な参加

就職活動で求められる主体性や協働力を高めるために、学生が、地域貢献活動やボランティア活動へ積極的に参加するように働きかける必要がある。

4. 資格取得に対する意欲の向上

2年間で資格を全く取得しない学生も少なからずいることや、2年間でぜひ取得してほしい目標として設定しているオフィスマスターを取得する学生が年々減少していることを踏まえ、オフィスワークコースの学生全体に対して資格取得への意欲を高めることに努める。

IV 次年度取り組むべきこと

1. カリキュラムの点検

授業評価アンケートや学習到達度調査の結果、各種検定試験の受験者数・合格者数、履修状況等を踏まえ、現在のカリキュラムの点検を行う。その結果を踏まえ、科目の統廃合や新設の要否について検討を始める。

2. 短大の強み及び本学の魅力の積極的な発信

公式 Web に地域貢献活動のページを作成することを検討する。また、学生が作成した学校紹介の動画等を SNS 等で発信することを検討する。オープンキャンパスでは、今年度に引き続き、卒業生や在校生によるプレゼンや学生主体での運営などの取り組みを行う。

3. 地域活動、ボランティア活動への積極的な参加

ボランティア活動への参加を行う「地域実践」や、チームで地域活性化のためのプロジェクトに取り組む「チームプロジェクト演習」の受講者を増やす。新入生に対してボランティア活動の意義を説き、特にボランティア経験の少ない学生には「地域実践」の履修を強く勧める。

4. 資格取得に対する意欲の向上

年度当初に資格取得についての計画表を作成させた後、各期末に点検を行い、次の半期の計画を立てさせる。重要な検定については、各担当者が申し込み状況を確認、コース教員に周知し、必要に応じてゼミ教員から受験を促す。

5. 多様な学生への対応

次年度もゼミナールの振り分けは教員主導で行うが、事前に把握した新入生についての状況や入試やオープンキャンパス等での様子を踏まえ、心配な学生が各ゼミナールに分散するように配慮する。心身に不安を抱えた学生に対しては、学生相談室等と密に連携しながら対応する。

6. 学修成果の可視化

現在、入学時、1年終了時、卒業時の DP 達成度については全学的にループリックによる自己評価が行われているが、各科目についても学修成果の可視化を進める。科目レベルやレポートレベルでのループリック導入や、試験や提出物についての学生へのフィードバックを増やす。

Ⅱ－(2)

キャリア育成学科 介護福祉コース

年次報告書

コース長 中川 千代

I. 昨年までの課題

令和 6 年度入学生は、日本人学生 30 名、留学生 8 名、委託訓練生 2 名であり多様な学生を受け入れ介護福祉士養成が始まって以来、初めての 40 名定員充足ができた。令和 5 年度入学生も日本人学生 23 名、留学生 6 名、委託訓練生 5 名で 34 名という過去にない多さであった。そのような学生状況のなか 1 名の教員が育児休暇を取得したことにより 1 年間だけの期間限定の特任講師と新任教員、コース長の 3 名体制で運営した。特任講師がゼミを持たないことにより 1 年ゼミの担当人数が 1 ゼミ 17 名という学生数となり学生の把握、ゼミナール運営、学生指導など非常に困難を極めた。一部学生が家庭環境や心理面での課題を抱え、クラス内での人間関係がこじれ休学や授業科目の制限などを行う必要が生じた。学生支援委員会やカウンセラーとの情報共有を密に行う必要があった。

留学生の日本語能力の低さも課題であった。思った以上に必要な情報が伝わらず、留学生支援室との連携がさらに必要であった。国家試験対策の授業は必須科目でなくても全員受けるように指導し、模擬試験も 3 回行ってはいるものの国家試験合格者は、留学生 17 名のうち非漢字圏からの者は 1 名のみという厳しい結果であった。

また、東海北陸ブロック介護福祉士養成施設協議会の実行委員を担う必要があり教職員研修会や日本介護福祉教育学会の運営等コース長への負担も大きかった。

II. 本年度改善されたこと

令和 6 年度は 1・2 年生合計 73 名の学生のうち留学生 14 名 (19.2%) と留学生の占める割合が減少し、授業運営は日本人中心に行われる傾向にありグループワークが成立するようになった。今年度 1 年生の留学生は日本語能力も N3 程度の学生がほとんどで理解力があつた。

介護福祉コース教員は 1 名増員となり育児休暇を終えた教員も含め 4 名体制となった。ゼミナール運営や介護実習先のスムーズな確保、就職先の支援など新たな課題が山積していたが、事務局や各委員会、各部署と情報共有、連絡を密にとり学生に不利益のないように進めていく体制が整った。

今年度は昨年度に引き続き、三重県介護福祉士養成施設協議会が国の地域医療介護総合確保基金事業の一環として、FM 三重の生放送での介護福祉士の魅力発信を行ったり、「介護の座談会」事業を行い高校生や保護者、高等学校教員等とはもとより一般県民に向けて介護福祉士養成校の現状を PR した。事務局入試広報課の活動に加えこれらが日本人学生確保の一助になると願い活動した。

また、介護福祉士資格取得を目指さない方向になった学生も望む進路に進めるようにきめ細かい指導を行い退学することなく卒業につなげることができたことは、本コースおよびキャリア育成学科の汎用性のあるカリキュラム編成にあると思われる。

III. 新たな課題

令和 6 年度 1 年生は、日本人学生のなかに学習面での課題や体調面の課題を持った学生、発達特性のある学生が含まれており、授業欠席者がこれまでになく目立ち、積み上げていく必要のある技術や知識を習得できにくい学生が出ており授業の進行がシラバス通りにいかず、工夫をした科目が多かったように思われる。令和 6 年度から新たに設置された学生相談室との連携や役割分担、学生支援委員会やカウンセリング室・保健室との連携もこれまで以上に活発に行われたものの、各部署との情報共有のためのメールや記録に膨大な時間がかかった。ケース会議の回数も多く、本人や保護者を含めての面接も多くゼミ担当はもとよりコース長は 4 つのゼミの学生すべてに関係しているため時間の捻出が難しかった。

令和 6 年度 1 年生は、退学者が平成 7 年 2 月時点で 4 名、また、すでに介護福祉士資格を目指さない学生も 2 名となっている。また、それ以外の学生の中にも適性の弱さが懸念される学生も 2 名ほどみられ、退学者も含めこれらの学生には非常に濃く多くの関わりを教員は行っており、時間の確保が課題である。

令和 6 年度は 1 学年が 40 名となり定員充足したことにより、演習系の授業を担当する教員は TT 体制となり指導体制は整ったものの、介護実習室の広さや演習ベッドの数や物品に余裕がなくなり、限られた時間の中で学生が十分に演習できる環境になっていないことが新たな課題である。となりの入浴実習室を有効活用するよう学習活動を工夫することで教育の質を保つ必要がある。

特に、「医療的ケア演習」に関しては演習項目が多いこと、喀痰吸引、胃瘻・経鼻経管栄養等の演習の合格点を出す回数が厚生労働省で基準が設定されていることから 5 台の人形を使用しても非常に時間的にタイトな状況が予測される。令和 7 年度は教員を 3 名に増員できることとなり質の確保が期待される。

今年度、新規の実習施設を大幅に増やした。実習区分Ⅱの施設は「登録実習指導者」が必要なためその育成にも協力を求めているところだが、その「登録実習指導者」が産前産後休暇に入ることによって実習受け入れができなくなった施設が 2 施設あり、新たな課題である。また、実習指導が不十分だと思える施設については、お断りができるように体制を整えてく必要がある。

さらに 4 月より新しいコース長を迎えることから他大学での経験者ではあるがコース運営や各委員会での役割が遂行できるようにコース会議を充実させこれまで以上の情報共有・確認が必要となる。

その上、令和 7 年度は三重県介護福祉士養成施設協議会の幹事校として 2 年目となる。本学学長を代表に本コースが担う役割でありコース長を中心にそのスムーズな運営にも注力していく必要がある。

IV. 次年度取り組むべきこと

Ⅲに挙げた新たな課題を新コース長に綿密に引き継ぎ、状況把握ができるようコースの共有フォルダの整理整頓、介護準備室の整理整頓が必要である。

そして、安定した学生確保につながるように出前講座や魅力あるオープンキャンパスの内容づくり、また、何よりも在学生の指導・支援に力をいれ、本学介護福祉コースの評判をさらに上げていきたい。

そのためには国家試験合格率のアップを図る必要があり、「介護福祉演習Ⅰ」を2年前期に設置することで学生の意識づけを図り、さらに「国家試験対策補習講座」をカリキュラム外で2年後期に設置し、希望する学生はもとより学力の低い学生は必ず受講しなければならない体制を整えたい。ゼミナールで取り組んでいる卒業レポートも継続していくが、完成させる時期を2年前期にすることで2年後期に国家試験対策に注力できるように次年度から新たに取り組む。

様々な発達特性を抱える学生の増加により、介護実習を継続することが困難な学生や本人の意欲・意思とは別の原因により実習生にふさわしい行動のとれない学生に対し実習中止の条件を整備し、学生に周知して運用できるようにしたい。

また、三重県介護福祉士養成施設協議会幹事校として令和6年度から2年目となるが、コース長が交代するにあたり誰も経験したことのない役割であるため不安があるものの、過去の資料などを参考に取り組んでいきたい。まずは、6月に開催予定の総会をスムーズに開催できるように進めていきたい。これらの事業は介護福祉士養成に携わる他の養成校と連携・協働することにより教育の質と学生の量を確保するために欠かせない取り組みであると理解しているため尽力していきたい。



仏教教育研究センター

年次報告書

センター長 松山 智道

I. 昨年までの課題

1. 運営委員会について

令和5年度の運営委員会はすべてWeb会議で実施され、特に問題は生じていないが、委員間交流、意思の疎通を考慮する場合、対面の会議に戻る時期、および一部委員によるWeb参加の可能性を、今後検討しなければならない。

2. 各講座について

(1) 公開講座について

令和5年度の公開講座は、外部講師に比べ、研究員の講座への参加者が少なかったため、令和6年度は、参加者を増やす工夫が必要である。

(2) 専門講座について

令和5年度の専門講座は、前年に引き続き、Web活用を希望する受講者が多かった。また、本山行事および会場の都合により、1回実施できなかった。会場も高田会館から宗務院二階会議室に変更することが2回あった。令和6年度は学内実施の予定であるが、公開講座も含め外部会場を使用する場合の問題点を運営委員会で検討しておく必要がある。

(3) 基礎講座について

家庭の事情により一日だけ欠席した教師検定受講者がいた。その一日分は次年度で一日受講となるが、一般受講者が欠席する場合も含め、Webを有効に活用し、多くの受講者が安心して申し込めるよう、広報内容を運営委員会で検討していきたい。

3. 研究会について

現在の研究会でもZOOMを使用したWeb活用で、愛知からも参加できる状況であるが、ZOOMの無料使用は40分に限定されており、さらに運営会議同様に、研究員間の交流、意思の疎通が十分ではないと思われる。

4. センター蔵書の整備について

作業は、金信昌樹研究員に一任しているが、金信研究員より新たな課題の報告は受けていない。

II. 本年度改善されたこと

1. 運営委員会について

令和6年度の運営委員会（3回）は、すべてWeb会議で実施されたが、各委員の意見が各講座に反映された。

2. 各講座について

(1) 公開講座について

令和6年度、会場は昨年度と同じで、高田会館ホールを使用し、第1回の公開講座の出席者は41名、第2回の公開講座の出席者は43名であった。出席した方々のアンケートは二回とも概ね好評であった。

(2) 専門講座について

令和6年度、会場は高田短期大学の教室をを使用して実施した。予定通り年11回の開催であった。Zoomでの受講者も最終試験は本学の教室で臨むことになった。

(3) 基礎講座について

令和6年度は、コロナ感染も五類となったため、従来のような感染防止対策を取り入れなかった。通常通りの五日間の講座で、出席者は一般13名、教師検定9名であった。

3. 研究会について

令和6年度の研究会は、『西方指南抄』の翻刻に取り組んだ。Zoomも含め、毎月の研究会には多くの研究員が参加していた。

4. センター蔵書の整備について

令和6年度も、金信昌樹研究員に一任し、作業が進められた。

Ⅲ. 新たな課題

1. 運営委員会について

令和6年度の運営委員会はすべてWeb会議で実施され、特に問題は生じていないが、委員間交流、意思の疎通を考慮する場合、対面の会議に戻る時期、および一部委員によるWeb参加の可能性を、今後も検討しなければならない。

2. 各講座について

(1) 公開講座について

令和6年度の公開講座は、前期の外部講師の講座、後期の研究員の講座ともに参加者がまだまだ少ないと思われるので、令和7年度は、参加者を増やす工夫が必要である。

(2) 専門講座について

令和6年度の専門講座は、前年に引き続き、Web活用を希望する受講者が多かった。講師の都合で休講になったケースがあったが、振り替えの授業

は実施しなかった。同様の事例に対して今後どのように対応するかを、令和7年度の運営委員会で検討しておく必要がある。

(3) 基礎講座について

令和5年度までは全講師が五日間、一日一講座を担当していたが、令和6年度は全講師が二日で五講座を担当することになり、最終講座で試験を実施した。特に問題は起こっていないが、今後、講師の都合で休講となる場合もあるので、その対応なども検討しておく必要がある。

3. 研究会について

昨年度同様、現在の研究会でもZOOMを使用したWeb活用で、愛知や京都からも参加できる状況であるが、ZOOMの無料使用は40分に限定されており、再接続にも時間を要するので、研究員間の交流、意思の疎通が十分ではないと思われる。

4. センター蔵書の整備について

作業は、金信昌樹研究員に一任しているが、金信研究員より新たな課題の報告は受けていない。

IV. 次年度に取り組むべきこと

1. 運営委員会について

今年度最後の運営委員会で、次年度からの運営委員会開始時間が午後4時からと30分早まることが決議されことにもない、事前準備やWebの活用も含め、議事がスムーズに開始進行され、運営委員の意見が十分に反映された協議になるように工夫したい。

2. 各講座について

(1) 公開講座について

令和6年度は、コロナ感染症対策で利用していなかった、中日新聞「人生のページ・宗教トピックス」への掲載を再開し、県内外からの参加を広く呼びかけたが、それに加えて、その他の広報充実も運営委員会で検討したい。

(2) 専門講座について

課題に挙げたように、Webを有効に活用する受講者も多いので、Webの使用方法など、講座が一層充実したものになるように運営委員会で検討したい。

(3) 基礎講座について

公開講座と同様に、一般受講者への広報活動に力を入れたい。

3. 研究会について

令和6年度から『西方指南抄』の翻刻に取り組んでいるが、課題に挙げたように無料でのZoom利用には時間制約もあり、スムーズに共同作業を進めることができない。有料でのZoom利用の場合、その資金をどのように調達するか。研究員が研究会へ参加しやすい環境の整備、さらに共同研究しやすい環境の整備を模索していかねばならない。

4. センター蔵書の整備について

作業は、金信昌樹研究員に一任しているので、金信研究員が作業しやすい条件や作業上の課題など、金信研究員と話したい。

IV

育児文化研究センター

年次報告書

センター長 青木 信子

1. 昨年度までの課題

1. 運営委員会について

今までの事業内容を今まで通り実施するという考え方ではなく、その内容や方法についていねいに検討しつつ進めていきたいと考えている。しかし、新たな切り口や発想ということに難しさを感じるが、その中でも会議や事業の重要な部分は残し、統合できる部分はまとめ、必要な新規内容は増やすという視点をいつも持ち続けたいと考えている。

2. 地域開放事業

(1) おやこひろば「たかたん」

第1木曜日は初妊婦の参加がまったくなかったこと、また「0.1歳児と妊婦」に限定すると第1子が2歳児の場合は参加が難しいと捉えられることなどが見えてきた。

8月には就園児も参加できることについては好評であったが、12月や1月の冬休み期間や3月の春休み期間などの中途半端な日程については設定しにくい。

多くの親子が参加する中で、子どもの発達を心配する声や同年齢の子どもの様子との比較をして気にする声がしばしば聞かれる。

(2) 子育て講座

近年、8月の講座の参加が少なく、家族の夏季休暇による帰省等の影響もあるのではないかと考えられる。

様々な講座内容を実施できるように、いろいろな分野の研究員を増やしたが、講座の計画を年度末に立てたため新研究員には依頼できなかった。

(3) 子育て相談

相談の多くは子どもの発達についてであり、他の内容に関してはほとんどない状況である。さらに、発達についての相談は予約が取りにくい月もある。

(4) 主催事業

毎年実施しているため（新型コロナウイルス感染症拡大期間を除く）、じっくりと検討する時間を持たないまま事業内容を決定することが多い。もう少し多くの研究員からの意見や希望を聴取し、幅広い学びにつながるよう検討することが必要である。そのため主催事業は隔年とし、次年度は事業内容を検討する一年とする。

3. 研究活動

(1) 定例研究会

年度当初に定例研究会での発表希望の意思を一人ずつ確認することで、自ら言い出しにくい研究員に研究発表の機会を広げていく。

また研究会では幅広く研究員の意見や提案を聞くことができるように研究会運営方法を工夫する。

(2) グループ研究会

4つのグループが各テーマに沿ってそれぞれ研究を進めてきた。この年度末でグループ研究④「乳幼児親子の生活と支援」が閉じられる。個人ではなくグループで研究を行うことで、専門分野の違う者同士の意見交換ができる貴重な機会である。新たなテーマのグループ研究会を募りたい。

4. 学生支援事業

(1) 地域保育関連の学生ボランティア活動支援

前年度まで育児文化研究センター事業「子育て応援隊」をボランティア支援室事業へ引き

継ぐにあたり、ボランティア自体の定義や外部からのボランティア依頼の受け入れ方で意見の相違があった。その都度「子ども学科の学生につけたい力」に照らし合わせ意見を伝えるようにした。

もう一つの課題は、前年度までできていた活動（実習先からの手伝い依頼やこどもの城からのボランティア要請等）も先方からの正式な文書が必要となり、学生のボランティアの場が減少したことである。

(2) おやこひろば保育ボランティア

一部ではあるが、個人で参加する場合、急な欠席を連絡しなかったり、身だしなみに不注意な学生がいたりした。

(3) おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

1年生と2年生という学年の違いやクラスごとの時間割の都合上、固定した時間に活動日を設定することは難しい。本人の了解のもと、グループLINEを使用し、意見交換した。しかし、このアプリはあくまでも個人の携帯を使用するものであるため、他の手段があれば模索する必要がある。

5. 地域連携事業

(1) 三重県立みえこどもの城連携協定による事業支援

内容は、ゼミごとに一任した。劇「ももたろう」「クレヨンたちのクリスマス」・製作「お面を作りダンス」「クリスマスリース」・ゲームコーナー「的当て、ボーリング、輪投げなど」・音楽「ファミリーコンサート」であった。学生主体としても、教員の指導が必要なことは否めない。

(2) 地域連携自然保育推進事業

令和6年（2024）年は、「自然保育」と「子どもの育ち」をキーワードとした意見交流や実践事例研究をみえ自然保育協議会に関わる理事や事務局、会員間で行うことを主な取組みと掲げ、協議会で行える取組み、期待される役割についても共有し、以後の事業実施計画に繋げることを期待した。また、協議会運営の持続的なあり方も課題に挙げ、そのしくみづくりを検討していくこととした。

Ⅱ. 本年度改善されたこと

1. 運営委員会について

毎月1回実施する計画は立ててあったが、事項内容によってはメールのやりとりでの協議や連絡を行った月もあった。会議自体も、短時間で終了できるように事前に担当者からの提案を依頼しておくようにした。

2. 地域開放事業

(1) おやこひろば「たかたん」

第1木曜日は妊婦及び0・1歳児親子、第3木曜日は2歳児以上の親子を参加対象者という設定は外し、月曜日と同様に第1・3木曜日にも年齢制限なしの参加を募った。

今まで就園児は8月や12月等の幼稚園の休み期間のみ受け入れていたが、就園児からのニーズも高いことや日頃の参加人数にも余裕があることなどから、年間を通して就園児も受け入れることとした。

昨年度以上に、ゼミやボランティアでの学生の参加が増えるように声をかけ、また参加するだけではなく自主的に自分たちで計画を立てたり実践したりするように意識づけをした。

参加する学生の意識が高まりつつある。

(2) 子育て講座

昨年度好評であった内容に加えて、いろいろな分野の講座ができるように、新たな研究員の方に依頼し実施した。

(3) 子育て相談

相談のニーズが多い子どもの発達のための相談を受けることとした。また、相談の予約が取りやすく、教員にとっても時間の拘束負担の軽減につながるように、対応教員を2人体制とした。さらに、空き研究室の環境を整え、相談室として利用することとした。

(4) 主催事業

今まで運営委員が中心に主催事業を決定していたが、意見が偏ることも考えられるため、本年度学内研究員全員に対して意見を聴取した。その結果今までにない多くのアイデアを得ることができ、その中から次年度の主催事業について検討することができた。

3. 研究活動

(1) 定例研究会

年度当初に全員に定例研究会の発表について意向調査を行った。この調査にて発表の意思がある研究員を把握しやすくなり、発表者の決定がスムーズになった。

またセンター会議と定例研究会を同一日に設定することで研究員が参加しやすくなった。

(2) グループ研究会

新たなグループ研究として、グループ研究④「発達障がいのある子どもへの支援について」の申請があり、4グループそれぞれの研究を進められた。

4. 学生支援事業

(1) 地域保育関連の学生ボランティア活動支援

「子ども学科の学生につけたい力」をボランティア支援室委員へ伝えたことが、外部からのボランティア依頼を受け入れる際に判断材料となった。

実習先からの手伝い依頼やこどもの城からの要請は、就職に直結しないことを条件にゼミ担当教員の判断で「社会貢献活動」として認めることにした。このことで、学生は社会を知る体験の場を得ることとなるだろう。

(2) おやこひろば保育ボランティア

無断欠席や場にふさわしくない服装等の学生には指導するとともに、子ども学科協議会で話題にした。

(3) おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

第1回定例会を5月9日（木）の昼休みに開催した。その後は部長からの発信で年間6回の定例会を開いた。（実習期間と長期休業期間をのぞくと1か月に1回の頻度）

【定例会の主な議題】

- ①育文室前の壁面の担当決め
- ②シール帳の作成担当決め
- ③年度末3月のひろば「たんたん保育体験」の内容相談

【日常的な活動について】

- ①の壁面のパーツ作成

月ごとに小グループで担当を決めた。空き時間等を利用しパーツを作成し、壁面の貼り替えをした。

②個人で分担した。

③朝の出会いから保育、送り出しをたんたんクラブメンバー全員でおこなう。朝の出会い、プレゼント作り（アンパンマンのお面）、絵本の読み聞かせと劇（大きなかぶ）、ダンスの担当（サンサンたいそう）を決めた。準備は各担当が時間を工夫してすることになった。

部長や気づいたメンバーが必要な事柄をグループ LINE に発信することで情報を共有した。学年やクラスが異なるため、頻繁に顔を合わすことができない。しかし、個人や小グループで主体的に活動する姿があった。

(4)「たかたん保育特別演習（子育て支援）」

今年度より開講した「たかたん保育特別演習（子育て支援）」においては、履修している学生が定期的におやこひろばに参加するような計画を立てた。継続的にひろばに参加することで、自分や友達の実践を見ての振り返りや参加された方からの意見を、次回の実践に活かすようにしている。

5. 地域連携事業

(1) 三重県立みえこどもの城連携協定による事業支援

5月下旬に子ども学科教員にこの事業への参加希望を提案した。締切は6月17日（学科協議会）とした。これは、各ゼミナールで学生が主体となって、この事業に参加したり内容を考えたりする時間を確保するためである。結果は、4つのゼミナール（6グループ）の参加となった。

(2) 地域連携自然保育推進事業

昨年度事業は事務局メンバーのみで運営をしていたが、マンパワーとして厳しいとの認識があったことを踏まえ、今年度実施した「みえの自然保育交流会」（R7.2.1/於：フレンテみえ）の当日運営においては理事や会員に参画を募り実施することとした。会員とともに運営を行うことで交流が生まれ、次の事業への参画意欲も持ってもらうことができた。

Ⅲ. 新たな課題

1. 運営委員会について

事項内容によってはメールのやりとりでの協議や連絡を行った月もあったが、結果として意見の収集に時間を要したり情報共有がうまくいかなかったりした。連絡事項のみの場合はメールでも可能であるが、協議事項が1つでもある場合は委員会を開催した方が効果的な会になる。

2. 地域開放事業

(1) おやこひろば「たかたん」

就園児の参加を可能としたことで、全体の参加数が増えた。また、親同士の交流により子育ての情報を多く得られたり、年齢の違う子ども同士のかかわりがあったりして、親子にとって良い機会となっている。しかし、中には就園児に圧倒されてしまう子もいるので対策を考える必要はある。

「パパ・ママの製作ひろば」に関しては、好評で枠数がすぐに埋まるが、託児のため学生ボランティアが不足しがちである。

授業、ゼミ、ファミリーデー、たんたんクラブ（3月）学生が主催のひろばは参加が多く、親子の期待を感じる。一方で、通常のひろばの学生ボランティア参加数が減少傾向にある。

(2) 子育て講座

外部講師の講座は財務局についてはアンケート結果から検討も必要かと感じたが、他の講座については次年度も期待している内容だった。講師や対象年齢については昨年度に引き続き検討が必要である。

(3) 子育て相談

相談件数は、昨年度は 10 件、今年度は 7 件で件数的には減少している。しかし、発達相談・検査を継続的に希望される方も少なくないため、希望があれば継続的な支援体制を模索していくことが課題である。

(4) 主催事業

リカレント教育も含めた主催事業を行うにあたり、案内を出すべき卒業生の範囲はどの範囲か検討が必要である。

3. 研究活動

(1) 定例研究会

次年度を最後に定例研究会を終了とする予定である。今後は学会等に発表の場を移す必要が出てくる。

(2) グループ研究会

次年度でセンターのグループ研究会という位置づけは最終となる。それ以降、今まで積み上げてきたグループでの研究を各グループがどのように引き継いでいくかが課題となる。

4. 学生支援事業

(1) 地域保育関連の学生ボランティア活動支援

学生のボランティア参加が昨年度と比較すると減少した。これは、ゼミナールの評価対象が「社会貢献活動または、ボランティアを年間 1 回以上行う」としたことの影響とも考えられる。(前年度は「ボランティアを年間 2 回以上」だった)

(2) おやこひろば保育ボランティア

【月曜日と木曜日「おやこひろば」の保育体験】

授業への出席が優先のため、おやこひろばの保育ボランティアに申し込む機会が少ない。そんな中、授業は無く、且つおやこひろばは開催の時期に多くの学生が参加できるよう申込み方法を改善する必要がある。

【育児文化室の壁面製作】

春、夏、秋、冬それぞれ 3 名ずつのボランティアを募集した。しかし、2024 年度の秋と冬は応募が無かった。このボランティアについても申し込み方法の検討が必要である。

(3) おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

壁面作成と年度末 3 月のひろば「たんたん保育体験」が主な活動であった。自ら子育て支援サークルに入った学生たちである。実践現場で活かせる保育の力を身につける活動することが課題である。

(4) 「たかたん保育特別演習（子育て支援）」

履修学生の人数が確定してからおやこひろばに入るスケジュールを決めたため、子育て講座の予定を変更することになった。学生の人数に関わらず、とりあえず年度初めに授業で入る日を決めておく必要がある。

学生主体での授業にしたいという目的があったため、学生からスタッフへの連絡等が遅くなりがちであった。その仲介部分をもう少し工夫する必要がある。

5. 地域連携事業

(1) 三重県立みえこどもの城連携協定による事業支援

次年度は、施設改修に伴いこの事業は開催されない。また、この事業を育児文化研究センターのみでなく、子ども学科として取り組むことを見通して、学科教員に担当を引き継いだ。次々年度へ反省を残すことが課題である。

(2) 地域連携自然保育推進事業

協議会の運営を行う事務局メンバーの持続的なあり方が課題である。センターの学外研究員として位置づいているが、センター運営委員会の今後の方針として学外研究員は失くしていくこととしている。「みえ自然保育協議会」設立は、運営事務局を育文センターに置き、事務局メンバーは育文センター学外研究員と学内センター運営委員（福西）として発足したことから、今後の協議会事務局の位置づけについては要検討である。

Ⅳ. 次年度に取り組むべきこと

1. 運営委員会について

会議の年間計画については月に1回を予定しておき、事項内容をなるべくまとめながら会議の回数を減らす工夫をする。

今まで取り組んできた事業を終了していくにあたっては、スムーズに進むように運営委員会の中で十分議論をしていく。

2. 地域開放事業

(1) おやこひろば「たかたん」

就園児の動きが大き過ぎることで未就園児が圧倒されないような工夫が必要である。ひろば内で就園児が落ち着いて遊べる製作コーナーを用意したり、学生ボランティアがいる場合はそばについてもらったりする。

「パパ・ママの製作ひろば」は低予算で簡単に作ることができる内容を考えていく。

授業やボランティアでの参加をより学生に意識づけたいと考えている。

(2) 子育て講座

財務局や(株)江崎グリコ以外にも外部の講座を検討してみる。また、対象年齢を制限しない方が参加人数が期待できる。

(3) 子育て相談

相談者の希望に応じて、相談の継続や療育、プレイセラピーの機会を検討していきたい。

(4) 主催事業

日時：令和7（2025）年5月24日（土） 10：30～

内容：文化団体「音楽のアトリエ MUSICANO（ムジカーノ）」に依頼する。

参加は親子40組を中心に、保育士・学生も募集する。

内容は音楽会・親子ふれあい遊びを1時間程度で、場所は講堂を予定している。

予算は講師1人あたり2万円で、5～6人に依頼を検討中。

3. 研究活動

(1) 定例研究会

次年度を最後に定例研究会を終了とする予定である。今後は学会等に発表の場を移す必要が出てくる。

(2) グループ研究会

今までと同様にグループでの研究を深めることと並行して、次々年度以降、自主的なグル

ープとして研究を継続するかどうかということを検討する年度とする。

4. 学生支援事業

(1) 地域保育関連の学生ボランティア活動支援

ボランティア支援室が現在の体制になり 3 年目である。外部ボランティアについては「子ども学科の学生につけたい力」を伝えつつ、支援室と連携して学生を支援する。

運動会や発表会の手伝い等の要請があれば、「社会貢献活動」して受けることを学生に伝える。あわせてボランティアや社会貢献活動は、保育職を目指すにあたり貴重な体験であることを学生に指導することが必要である。

(2) おやこひろば保育ボランティア

【月曜日と木曜日「おやこひろば」の保育体験】【育児文化室の壁面製作】

両方とも、参加申し込み方法は掲示板の申込枠への記入のみである。AAA やメールでの周知や申込みを模索したい。

(3) おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

今後も学生主体のサークル運営を目指したい。新年度の部長やメンバーに早期に「たんたんクラブで取り組みたいこと」の意見を求め、自分たちで活動の見通しを持てるようにする。

(4) 「たかたん保育特別演習（子育て支援）」

年度初めに授業で入る日を決めておき、スタッフと情報共有しておく必要がある。

学生とスタッフの連絡や意思の疎通が少しでもスムーズにいくように、スタッフにも授業担当者の役割を一部担ってもらうことを検討したい。

5. 地域連携事業

(1) 三重県立みえこどもの城連携協定による事業支援

子ども学科の担当者に今年度の反省を次々年度へ引き継ぐため記録を残すよう要請した。

(2) 地域連携自然保育推進事業

育文センターの今後のあり方を踏まえ、「みえ自然保育協議会」に対して育文センター及び大学として、どのような関わりが可能なのか協議、方向性を出し、それを受けて協議会の理事会にて検討を求める必要がある。



介護福祉研究センター

年次報告書

センター長 上山 由紀子

I. 昨年までの課題

本研究センターは設立 11 年目となった。研究員の入れ替わりはあるが、令和 6 年(2024)度の研究員は 50 名である。令和 5 年(2023)度は、主任研究員が不在で且つ運営委員も 1 人少ない状態であったため、業務の負担が大きかった。

活動は、定例研究会を年 3 回、教員、卒業生、地域の福祉関係者との連携に重点を置き開催しているが、コロナ禍以降回数が減少している現状がある。又、令和 5 年(2023)度の介護福祉セミナーは、コロナ禍以降社会的側面の変化もあるのか、参加者の集まりが悪く、獲得に苦心した。センター研究紀要である「介護・福祉研究」の執筆希望者が増えないことも課題である。

コロナ禍以降、学生のボランティア育成への取り組みが少なくなっており、環境を整えていくことも重要な役割だと考える。

II. 本年度改善されたこと

研究員数については、研究員の任期を終えた方々の辞退は数名あったものの、令和 6 年(2024)度は 6 名の新規研究員(内卒業生 4 名)を迎え、全員で 50 名となった。

令和 5 年(2023)度は、主任研究員は人員面から不在であり、運営委員の人数も少なく負担が大きかった。今年度は運営委員 4 名・庶務 1 名であり、全体的には、昨年度より負担が少なく、センター運営ができたと感じる。

令和 6 年(2024)度は、センター研究紀要である「介護・福祉研究」の執筆希望者は、5 編であったが、諸事情により最終的に 4 編となった。伸び悩んではいるが、令和 7 年(2025)度は、執筆を希望する研究員もあり、引き続き啓発活動を行っていく。

本年度、定例研究会は 3 回開催した。第 56 回の定例研究会は、卒業生が話題提供者となり、それに伴い参加者に卒業生も多くみられた。第 55 回は障害学について、第 57 回はエクセルに関する事で、多職種の研究員の話の聞き、意見交換や新たな知識を深める発表会となり、又リカレント教育の場として、学びや意欲に繋がる研究会となった。参加者も、第 55 回、第 56 回は 12 名であったが、第 57 回は 18 名と増加した。魅力ある定例研究会となるよう、これからも事業運営をしていきたい。

本年度の介護福祉セミナーは、今年 4 月から本学教員として着任され、研究員でもある東海林藍先生から「フットケア」についてわかりやすく楽しく講義していただいた。幅広い年齢層の方に参加していただき、広報にも力を入れ参加申し込みもスムーズであった。

地域との連携事業として、「幼児向けの認知症サポーター養成講座」を行った。学生のボランティア活動の機会が少なくなっているが、幼稚園においてすそ野を広げる活動を介護福祉コースのボランティア学生と共に実施した。

III. 新たな課題

介護福祉士を目指す学生たちがボランティア活動を通して、実践的な活動の機会

が少なくなっている。

介護福祉セミナーを広く知ってもらい、ますます活気あるセミナーとなるよう、啓発活動を行っていく。

今後、高田短期大学紀要と育児文化研究センターの紀要が1本化される。介護福祉研究センターは、令和6年(2024)度の後期センター会議にて、来年度は今まで通りの刊行と決まったが、令和8年(2026)度以降の刊行については、運営委員、研究員、関係機関とともにより良い方向性を模索していく。

介護福祉研究センターのような介護福祉を考えるセンターはどの地域にも少なく、より良い地域にするために、又リカレント教育の場としてまだ役割があると思われる。しかし、運営委員の負担もあり、これらのバランスを考え運営していく必要がある。

IV. 次年度取り組むべきこと

令和7年(2025)度の介護福祉セミナーについては、上山研究員による「認知症の基礎知識&愛風さんの音楽 DE リフレッシュ」で企画中である。令和6年(2024)度は、実習先や高田短期大学の公開講座にちらしを配布したが、その配布が元となる参加者が多かった。一般県民はもとより、興味ある人に参加してもらえよう広報活動も工夫していきたい。

また、令和7年(2025)度の定例研究会は昨年より1回多く、4回を予定している。それぞれの専門分野から講義をしてもらい、情報共有の場となるように、引き続き、研究員や卒業生に呼びかけ参加者を確保し、有意義な会を運営したい。

施設連携事業については、施設へ還元できる事業を模索するとともに、学生の高齢者理解を深めるためにも再開していく。来年度は、施設での「足浴」を実施予定である。又、地域連携事業として今年度実施した「幼児向けの認知症サポーター養成講座」等を学生ボランティアと共に、工夫しながら継続して実施していきたい。

センター研究紀要である「介護・福祉研究」の執筆希望者が減少気味であるため、今後も啓発活動を行っていくとともに、介護福祉研究センター紀要のあり方について関係機関と検討し、方向性を模索していく。又、卒業生を対象にして、研究を初歩から講義する場をつくる予定である。

運営委員を中心として、それぞれの研究員の専門性を活かして、施設や地域で活動できる場を模索していく。

高田短期大学のホームページを活用し、事業終了後新着情報にアップし、介護福祉研究センターの取り組みを紹介する。

それぞれの事業について、魅力あるものとなるように検討し、介護福祉や社会福祉を实践されている方々の自己研鑽、リカレント教育、地域を繋ぐ場として、他機関とも連携し、これからも役割を担っていきたいと考える。



自己点検・評価委員会

年次報告書

委員長 清水谷 正尊

I. 令和6年度自己点検・評価委員会の構成員と役割分担

1. 構成員

清水谷 正尊（学長・委員長）
 山本 敦子（副委員長、AL0、キャリア支援委員長）
 福西 朋子（子ども学科長、学務委員長）
 野呂 健一（キャリア育成学科長）
 中川 千代（キャリア育成学科介護福祉コース長）
 青木 信子（育児文化研究センター長）
 長倉 里加（学生支援委員長）
 川喜田多佳子（入試広報委員長）
 林 幹士（子ども学科准教授）
 生駒 昌之（教学部長）
 眞崎 俊明（キャリア支援センター長）
 北川 裕之（事務局長）
 藤山 真宣（総務課長）

2. 各作業部会とその構成員

	作業部会	部会長	担当者				事務局
1	FD・SD	長倉	野呂	北川			藤山
2	授業評価・見学	福西	上山				高臣
3	IR	野呂	林	中川	生駒	(清水谷)	岡
4	高短生調査	青木	林				大川
5	卒業生調査	山本	川喜田	中川	眞崎		藤澤

3. 各作業部会の業務と今後の課題

（1）授業評価・見学作業部会

- 1) 昨年度までの課題
- 2) 本年度実績・改善されたこと
- 3) 新たな課題
- 4) 次年度取り組むべきこと

（2）FD・SD 作業部会

1) 昨年度までの課題

昨年度の研修後アンケート結果（次年度の研修内容）を参考にと、学外参加可の研修と学内研修は交互に行うことを委員会で共有しているため、この点も踏まえ研修方法・内容を検討することとする。

2) 本年度改善されたこと

今後のFD・SD研修の内容及び方法を検討するために過去7年間に行った研修内容をまとめた。結果複数のFD・SD研修を実施していることが明らかとなった。またいままで単年度で研修内容を検討していたが、複数年度を視野に企画することで計画的に研修を組み入れることができるようになった。また先の展望を見通しやすくなった。

	子ども	オフィス	介護	短大	学苑	事務局	育文	育文主催講演会	その他
H29		manaba		学生相談	障害者支援/SSW		応急措置	保育デザイン	
H30	保育者養成	授業評価	新カリキュラム	教職協働	ハラスメント	顧客満足	応急措置	保育者養成	
R1		授業評価	新カリキュラム	科研・授業づくり	人権	地方銀行の経営	応急措置	脳科学	
R2		模擬授業	新カリキュラム	遠隔授業					
R3	自然保育	新カリキュラム	介護実習			事務職員の役割			
R4	保育者養成	DPループリック	障がい者問題	知恵の落とし穴	差別について		応急措置	自然保育	
R5	科研・外部資金	スタートアップゼミナール	介護実習	障害学生支援	性の多様性	職場づくり	応急措置	自然活動	
R6	教育活動	学科振り返りと展望	介護実習について		ハラスメント/人権	人権	応急措置		カスタマーハラスメント

私学連携協議会みえ合同FD/SD研修会の開催が数年に1回担当校として回ってくる。今年度は担当校であり以下の内容で研修を行った。

テーマ：カスタマーハラスメントに対する方針・対応、対策

講師：俵法律事務所 植村礼大弁護士

日時：令和7年3月10日（月） 14：30～16：00

3) 新たな課題

今後のFD/SDの在り方についてFDの実施を学科もしくは全学的のどちらかで行うことにしていく。

	学科			短大		学苑	事務局
R7							
R8				又は			
R9							
R10				又は			

4) 令和6年度（2024）取り組むべきこと

次年度は「科学研究費のコンプライアンス研修」をテーマとして2月ごろFD研修会。

「応急措置」「災害時等の緊急時の教職員の体制について」を8月ごろにSD研修会として実施予定。

（3）授業評価・見学作業部会

1) 昨年度までの課題（R5 年次報告-新たな課題・次年度取り組むべきこと から）

①授業評価

学科・コースによる回答率のギャップも理由とし、回答率の全体的な向上とアンケート項目を新カリキュラム、各ポリシー等に照らして検討することを挙げた。

②授業見学

実施件数が少ないことが課題として挙げられた。

特に新任教員に対しては参加の呼びかけを年度始めのみならず断続的に行うことが提案された。

2) 本年度実績・改善されたこと

①授業評価

本年度の回答率は前期 66.0%・後期 73.9%（昨年度：前期 74.7%・後期 66.1%）であった。前期、後期と差はあるものの昨年並みの 6 割以上の回答率であった。

②授業見学

参加実績としては、前期 4 件（専任教員・非常勤講師）であった。

3) 新たな課題

①授業評価

評価項目検討を行った。検討の視点を「授業者として知りたい項目」「学生にとって回答しやすい項目」とした。さらに従来 of 類似する内容をまとめ質問項目数を減らし学生の回答への負担感軽減を行い学生が回答に集中できることをねらった。

したがって、令和 7 年度実施における実施結果、回答率によりいかなる課題を見出すかが新たな課題である。

②授業見学

参加状況が少ないことをどのように捉え、実施の可否を問うことが必要である。

4) 次年度取り組むべきこと

①授業評価アンケート

新しい授業評価アンケートの実施結果をこれまでの結果と比較も含め、分析と考察を行う。

②授業見学

授業見学の実施の可否を次年度早々に委員会で問い、令和 7 年度実施について判断していきたい。

（4）IR 作業部会

1) 昨年度までの課題

①DP 達成度ルーブリックの改善

昨年度までの課題に挙げた、オフィスワークコースの専門 DP ルーブリックについて、今年度実施した入学生対象の調査では、卒業時ほど大きな差はなかったものの、一部の項目で自己評価の低い傾向が見られた。他学科・コースとの比較が可能となるように検討する必要がある。また、共通 DP ルーブリックについて、以前から一部の項目で表現が難解であるとの指摘があり、検討が望まれる。

2) 本年度改善されたこと

①DP 達成度ルーブリック改善についての検討

DP 達成度ルーブリックの評価基準について部会内で検討を行った。現在4段階の評価基準があるが、卒業時に到達すべきレベルが上から2つ目であり、最高レベルは社会人になってから目指すべき目標である。そのため、在学中に調査するルーブリックは3段階でよいのではないかとの意見が出され、委員会で報告したところ、今後検討していくこととなった。

②DP 達成度ルーブリックの分析

今年度は、4月に入学時調査、2～3月に1年終了時、及び、卒業時の調査を行った。2023年度入学生については、入学時、1年終了時、卒業時のデータが揃うこととなり、2年間の学修成果を検証することができた。

また、昨年度2～3月に実施したDP 達成度ルーブリックの分析について、年度が替わってから着手したが、来年度からIR本部長が交替することもあり、今年度2～3月に実施したものについては、今年度中に分析を終わらせる予定である。

③授業科目間の成績評価基準の平準化に向けた取り組み

昨年度に引き続き、成績評価分析結果を委員会で報告した後、次の教授会でも報告し、各教員が他の教員と比較して自分の評価の妥当性について考える機会を提供することができた。さらに非常勤講師担当科目については、必要に応じて学科長が個別対応することとした。

3) 新たな課題

①DP 達成度ルーブリック調査結果についてのより詳細な分析

今年度行った分析では、学科・コースごとに全体の回答割合の推移を見るのみであった。個人ごとの回答の変化や学生の成績との関連性を見るなど、より詳細な分析を検討する。

4) 次年度取り組むべきこと

①DP 達成度ルーブリック改善についての検討の継続

より信頼性のあるDP 達成度調査を行うため、ルーブリックの記述語の改善や評価段階の変更について、学科・コースと連携しながら、引き続き検討を行う。

②DP 達成度ルーブリック調査結果の分析

年度当初の入学時調査、年度末の1年終了時、卒業時調査のそれぞれについて、終了後速やかに集計・分析できる体制を確立する。

(5) 高短生調査作業部会

1) 昨年度までの課題

調査結果から学生が何に満足し何に改善を求めているのかを明らかにし、具体的に分析する。改善を求めている点について、各担当課に内容を伝えて行く。また、その回答結果から、さらに質問項目の見直しの必要性が見えたら引き続き検討していく。

2) 本年度改善されたこと

①令和5年度「高短生調査」をふまえて

全学年を対象とし短大生活の満足度を把握する目的で「高短生調査」を実施した。実施方法は学習管理システム AAA を利用した。調査項目は、他の調査と重複しているものは削除し、「家庭での過ごし方」「短大生活の意識や満足度」を中心とした 26 問について選択肢および自由記述により回答を得た。

「短大生活に関する満足度」について「満足」「やや満足」を合わせると 91.5%であり、満足度が高い。この満足度の高さを、数値とともに HP や入試のパンフレットに表記していく方向となった。

学生生活での不満については具体的に記述されていたため、自己点検評価委員会において共有し、大学として改善できる点を検討した。

②令和5年「高短生調査」の結果から取り組んだこと

「駐車場までの道の暗さ」に関してはライトの取り換えや樹木の除去が実施された。また、「病気で休んだ際の書類提出の負担」については、欠席の際の必要提出書類が整理された。「コンビニの商品の種類」は直接コンビニ店員の方に伝えることができるということが確認できたため、そのシステムを学生に周知することが必要である。自治会を通じて検討していきたい。

③令和6年度「高短生調査」の実施について

子ども学科は令和7年1月28日のゼミ発表の日に、キャリア育成学科は令和7年2月17日（2年生）と令和7年3月3日（1年生）の成績交付日にアンケートを実施した。例年、他の調査と同日に行うが、子ども学科に関しては、高短生調査のみの実施となったことが、回答率に影響するのかを分析したい。

調査結果は3月中に集計・分析を行い、4月には結果を委員会に報告した後、公表する予定である。

3) 新たな課題

令和5年度調査の結果において、「心身の健康に関する支援」について「わからない（利用無）」の割合がおおよそ半数であったことに対し、利用する必要がないのではなく、そのような場が周知されていないのであれば改善する必要があると分析を行った。しかし、それを今年度の「高短生調査」の質問項目に反映しなかった。

4) 次年度取り組むべきこと

上記の内容も含め、今年度の調査結果からアンケート内容を再度検討し、見直していく必要がある。また、今年度のように学生の満足や不満足の声を丁寧に拾い、改善できる点を検討していきたい。

入試広報の視点から、短大生活の満足度の高さを HP や入試のパンフレット、あるいは高校訪問時においてアピールし、大学の魅力発信に繋げることも視野に入れる。

（６）卒業生・就職先調査作業部会

１）昨年度までの課題

- ①卒業生対象調査を発展的に解消する。学修成果の獲得状況については、現行の「DP ルーブリック到達度調査」の実施により、その把握、検討を行う。
- ②令和５年度に新しく設定、実施した採用先調査を次年度以降も継続実行し、ディプロマポリシーとの関連から本学卒業生の進路先での卒業後評価の聴取と分析を行い、学修成果の点検と資料の蓄積につなげていく。

２）今年度取り組んだこと

- ①上記１）①について、IR 作業部会での調査実施へ円滑に移行した。
- ②上記１）②について、キャリア支援センターの協力により、調査内容の企画、資料作成、回答内容の統計処理作業を円滑に進めることができた。調査目的である「卒業生の採用時獲得能力の現状の把握」「本学教育、キャリア支援等へ活用できる有益な資料の収集」を推し進めた。分析結果については、教授会での共有や学内 Web での公開を通して、各学科コースや同センターによる採用先の情報把握に活用できるようにした。当調査の実施期間は令和５～９年度までの５年間であり、最終年度に経年変化比較を行うことが確認された。

３）新たな課題

- ①短期大学基準協会による第４評価機関短期大学認証評価においては、「学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている」ことが基準とされ、その点検・評価の観点として、現行の「卒業生の進路先調査」に加え、新たに「卒業生への調査」が挙げられている。本学では令和６年度より、卒業生を対象とした統計的調査を実施していないため、調査内容や方法を改めて精査する必要がある。
- ②上記２）②について、今年度調査の回答率は 50.3%であり、前年度と比較して 6.3%低下した。キャリア育成学科介護福祉コースでは 19.2%の回答率上昇、子ども学科とキャリア育成学科オフィスワークコースでは、それぞれ 7.9%、12.2%の回答率低下であった。

４）来年度取り組むべきこと

- ①上記３）①について、「卒業生への調査」を新たに導入する場合は、新年度前半のうちに内容や方法を精査し、調査設計を図る。
- ②上記３）②について、実習指導や進路先訪問等、教職員が採用先を訪問する機会を利用して、調査協力へのさらなる呼びかけが必要だと思われる。

以 上



学務委員会

年次報告書

委員長 福西 朋子

I 昨年度からの課題

1. 成績不振学生への指導（および記録保存）

「成績不振者への指導」に関する基準整備と対象者ごとの個別指導記録についての指摘（私学共済事業団の实地調査：R5.12）を受け、令和5年度協議にて指導対象は「GPA2.0未満（現状指導基準準用）」学生とし、ゼミナール担当教員が指導をおこなうこととした。指導後は、対象学生ごとの指導記録提出を保存する。また2年後期での指導も考慮し、各期「成績交付時 GPA」を基準に指導を行なうとの方針が示された。

2. AAA システム・アップグレード（改善）

運用上大きな問題はないが、教職員（および学生）からの意見を踏まえ、より使いやすいシステムとなるよう検討、予算範囲内での改善を行う。

3. 学生マナーの向上

学生の設備利用（教室机内のゴミの散らかし）、駐車違反、挨拶等の学生マナーの乱れが委員会で度々指摘され、日々の指導の積み重ね、学内におけるマナー向上の雰囲気醸成とともに学生自治会による学生マナーに関連したイベント開催や呼びかけ等も検討すべきである。

II 本年度改善されたこと

令和6（2024）年度の上記課題に対する取り組み・改善状況（成果）は、以下のとおりである。

1. 成績不振学生への指導

「高田短期大学成績不振学生への指導に関する内規」を整備し、各学年の各期修了時期に指導を行うこととした。指導対象は「GPA2.0未満」の学生、対象学生にはゼミナール（アドバイザー）担当教員が個別に指導・助言を行うこととした。指導・助言は所定のフォームに記録、学科長のコメントを含め指導記録として保存した。

2. AAA システム・アップグレード（改善）

教員に AAA 使用に対する意見聴取を行った結果、「レポート課題作成時の不便さ改善」「成績登録の変更に応じて欲しい」「スレッド添付ファイル数制限の緩和」「出席情報入力時の誤入力軽減となる改善」「学生ポートフォリオ上への GPA 順位表示」等の要望が挙げられ、運用上の工夫で対処できるものは対象外としつつ、改修が可能と判断できる「レポート課題登録時の時間設定、共有教員設定」「成績登録後の修正機能追加」「出席情報入力画面レイアウトの改善」等についてシステム改修を行い、令和6年7月から運用した。

3. 学生マナーの向上

新年度開始当初（全体会議）に教員に対して教室の使用に対する学生指導の必要性は共有した。駐車違反については違反車両に対する張り紙貼付・タイヤロック実施（本年度 13 件 13 名、前年度 5 件 3 名）、反省書提出等により指導強化を図った。また、スクールバス利用、学内喫煙、絵具の後始末、教室内のエアコン設定温度等について AAA ご意見箱へ学生からの投稿があり、注意文書の発信、張り紙による文書指導、スクールバス並び方の改良、スクールバス遅延証明書配布方法の変更等による学生指導向上を図った。

昨年度からの課題以外に、本年度の新たな取り組み（成果）は以下のとおりである。

1. 新入生研修の目的確認と実施内容の検討

コロナ前までの白山ビレッジでの両学科参集した実施から、コロナ禍中の学科別、会場別の実施が令和 6 年度まで至った。令和 7 年度実施に向け、再度、研修の目的を確認し、それに基づいた会場検討を行うこととした。協議の結果、目的は新入生間の交流、新入生と教職員との交流が主な目的であることを確認し、会場検討メンバー（各学科の委員、両学科長、学生課職員等）により候補会場の視察を行った。その結果、令和 7 年度は、日硝ハイウェーアリーナでの 1 日研修とし、午前は全体研修、午後は学科・コース別研修を行うこととした。

2. 大学祭の日程の検討

大学祭日程は学年歴の作成をするうえで常に課題となっている。また大学祭の実施内容もコロナ禍を経て、昨年から飲食を伴う模擬店も条件付きで再開を始めたが、改めて、これまでの実施形態に囚われず、今の学生の志向も捉えながら、実施目的や内容について検討が必要であることも委員会で確認した。これらのことから、まずは学生、教職員に今年度の大学祭終了後にアンケートを行い、その結果を参考に日程を決定し実施内容の方向性をつかむこととした。

アンケート結果を参考に協議を行い、令和 7 年度は土曜日の 1 日開催（一般公開）とし、前日の金曜日午後から準備、準備後は学生のみが参加できるイベントを計画することとした。具体的な実施方法や内容については、次年度自治会メンバーの意見を踏まえながら検討していく。

3. 「欠席届」の見直し

見直しのきっかけは、自己点検・評価委員会が実施する「高短生調査」の記述結果からである。欠席届の記載内容の軽減を求めるものであった。自己点検・評価委員会からは、学務委員会で協議を行うことが求められたため、欠席届の必要性から協議を行うこととなった。これまで「欠席届」記載の理由として挙げていたことの精査を行い、結果として、学校感染症に係る理由と特別な事情がある場合のみとした。

Ⅲ 新たな課題

1. 成績不振学生に関すること

令和6年度、成績不振学生は「GPA2.0未満」を対象としたが、改めてGPA数値について検討するべきではないか、との意見がある。「2.0未満」の対象学生が多い現状はある。

2. 令和7年度新入生研修、大学祭の振り返り

新たな実施方法・内容で行うため、その取組みについての評価、次年度への課題とその改善方策について委員会にて協議を行う。

3. 試験に関すること

『学生便覧』「3 教務関係のガイダンスー (8) 試験について⑤不正行為について、⑥レポート試験について」に表記されている内容に対して、改めて確認、指導方法について共有する必要がある。特にAI使用によるレポート作成等についての対処について具体的に検討する時期である。

4. 学生の履修登録に関すること

Web上での履修登録作業について、AAA導入以降、卒業必修や資格必修の科目については学生が入力せずとも強制的に履修させることができるようになり、結果として履修漏れ等の人為的なミスは少なくなった。一方で、履修登録に対する意識が薄れ、自分の履修登録への責任感が希薄になってきている。そこで、学生自身の責任ある履修登録の意識の涵養を目指し、履修登録の状況を本人が確認する手段をPDCAサイクル的に構築することを検討する必要がある。

①履修計画表作成(説明・計画)

→②Web履修登録作業(実行)

→③(仮)履修状況確認表の配付(確認)

→④確認表の回収必要に応じ履修変更・修正(改善・完成)

IV 次年度取り組むべきこと

1. 成績不振学生の指定内容(GPA数値)

指導対象学生を「2.0未満」とした理由を再度確認しつつ、令和6年度実施状況も踏まえて、前期成績交付までに決定できるよう協議を行う。

2. 試験に関すること

1) 試験に関する学生指導や対応について

不正行為、レポート試験に関し、『学生便覧』「3 教務関係のガイダンスー (8) 試験について⑤不正行為について、⑥レポート試験について」の提示内容とそれに基づく対処や指導のあり方について、現在の学生の状況や教員の指導、対応について学科委員から意見聴取し、今後の対処について検討する。

2) 臨時試験について

15回授業、16回目試験の実施が原則である中、本学においては定期試験期間確保の困難さも理由となり、臨時試験導入を行った。導入して数年が経つため、原則

に沿った実施を目指すことを目的に再度、臨時試験の必要性やあり方、試験期間の確保について確認、見直しを行う。



入試広報委員会

年次報告書

委員長 川喜田 多佳子

I 令和 6 年度概況

1. 入試広報委員会運営

令和 6 年度の入試広報委員会は、以下の構成員により運営された。

委員長 川喜田 多佳子

委員 亀澤 朋恵、林幹士、杉本あゆみ、長谷川恭子、
生駒 昌之、北川、眞崎 俊明、佐々木 秀英、久保田 奈央

本年度内の委員会は全 12 回開催された。

ここ数年間においては、四年制大学の進学率が上昇している。子ども学科については短大・保育学生の減少により、大変厳しい状況が続いている。キャリア育成学科については、100 名の定員まであと 7 名の結果であった。子ども学科およびキャリア育成学科介護福祉コースのみ実施している委託訓練入試においては、優秀な人材の入学者確保に務めた。

本年度の活動目標・ビジョンとして、以下事項が、委員会共有された。

- ・ 高校ガイダンス・職業体験授業への積極的参加と内容強化
- ・ Web・SNS 発信内容の強化と精査
- ・ 効果的な広報手段重点化（進学ブース回数増、オープンキャンパス内容精査等）

2. 実施入試種別

- ・ 総合型選抜入試Ⅰ期・Ⅱ期（本年度よりⅡ期を実施）
- ・ アスリート総合選抜入試Ⅰ期・Ⅱ期
- ・ 学校推薦型選抜指定校推薦入試
- ・ 学校推薦型選抜一般推薦入試Ⅰ期・Ⅱ期
- ・ 学校推薦型選抜アスリート推薦
- ・ 一般選抜入試Ⅰ期・Ⅱ期（Ⅱ期は受験者なし）
- ・ 社会人等入試Ⅰ期・Ⅱ期（本年度よりⅢ期を廃止）
- ・ 大学等卒業生入試（受験者なし）
- ・ 本学卒業生入試（受験者なし）
- ・ 海外帰国生徒入試（受験者なし）
- ・ 外国人留学生入試Ⅰ期・Ⅱ期（本年度よりⅢ期を廃止）
- ・ 委託訓練入試Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期

3. 問題作成者決定と委嘱

問題作成者については非公開とし、担当者通知後、学長より委嘱した。オープンキャンパスでの説明や外部問い合わせ時用に「過去問題集」も作成し、必要に応じて配付した。

4. 本年度入試実施上の留意点

本年度より、総合型選抜Ⅱ期を実施した。日程は指定校推薦と同日に設定した。また、日本学校等による留学生事情等の聞き取りを鑑み、社会人入試、留学生入試ともにⅢ期を廃止した。

入試広報委員会で、各回の入試の日程、タイムスケジュール、担当者、受験生案内などを確認した。担当者については、あらかじめ年間担当者を決定し、スムーズに対応できるようにした。また出願締め切り後に面接の時間を早めたりすることで、筆記試験から面接までの時間に大きな隔たりがないよう調整した。

5. 本年度入試志願者と合格者

全学科・コース合計																								
	総合型 Ⅰ期	アスリート 総合型	社会的養護 総合型	総合型 Ⅱ期	指定校	アスリート 推薦	推薦Ⅰ期		推薦Ⅱ期		一般 Ⅰ期	一般 Ⅱ期	社会人 Ⅰ期	社会人 Ⅱ期	海外帰 国生徒	大学等 卒業生	外国人 Ⅰ期	外国人 Ⅱ期	委託訓練 Ⅰ期	委託訓練 Ⅱ期	委託訓練 Ⅲ期	転学科	合計	
志願者数	88	2	1	6	101			4			3		2	1			10	2	1	5	9		235	
受験者数	88	2	1	6	101			4			3		2	1			10	2	1	5	9		235	
合格者数	87	2	1	6	101			4			3		2	1			10	1	1	5	9		233	
入学予定者	87	2	1	6	101			2			1		2	1			10	1	1	5	8		228	

子ども学科																								
	総合型 Ⅰ期	アスリート 総合型	総合型 Ⅱ期	総合型 Ⅱ期	指定校	アスリート 推薦	推薦Ⅰ期		推薦Ⅱ期		一般 Ⅰ期	一般 Ⅱ期	社会人 Ⅰ期	社会人 Ⅱ期	海外帰 国生徒	大学等 卒業生	外国人 Ⅰ期	外国人 Ⅱ期	委託訓練 Ⅰ期	委託訓練 Ⅱ期	委託訓練 Ⅲ期	転学科	合計	
志願者数	56	1		1	63		専願	併願					1				—	—	1	2	7		133	
受験者数	56	1		1	63			1					1				—	—	1	2	7		133	
合格者数	55	1		1	63			1					1				—	—	1	2	7		132	
入学予定者	55	1		1	63			1					1				—	—	1	2	7		132	

キャリア育成学科(両コース合計)																							
	総合型 Ⅰ期	アスリート 総合型	社会的養護 総合型	総合型 Ⅱ期	指定校	アスリート 推薦	推薦Ⅰ期		推薦Ⅱ期		一般 Ⅰ期	一般 Ⅱ期	社会人 Ⅰ期	社会人 Ⅱ期	海外帰 国生徒	大学等 卒業生	外国人 Ⅰ期	外国人 Ⅱ期	委託訓練 Ⅰ期	委託訓練 Ⅱ期	委託訓練 Ⅲ期	転学科	合計
志願者数	32	1	1	5	38		専願	併願	3		3		1	1			10	2		3	2		102
受験者数	32	1	1	5	38			3			3		1	1			10	2		3	2		102
合格者数	32	1	1	5	38			3			3		1	1			10	1		3	2		101
入学予定者	32	1	1	5	38			1			1		1	1			10	1		3	1		96

キャリア育成学科オフィスワークコース																								
	総合型 Ⅰ期	アスリート 総合型	社会的養護 総合型	総合型 Ⅱ期	指定校	アスリート 推薦	推薦Ⅰ期		推薦Ⅱ期		一般 Ⅰ期	一般 Ⅱ期	社会人 Ⅰ期	社会人 Ⅱ期	海外帰 国生徒	大学等 卒業生	外国人 Ⅰ期	外国人 Ⅱ期	委託訓練 Ⅰ期	委託訓練 Ⅱ期	委託訓練 Ⅲ期	転学科	合計	
志願者数	23	1		5	30		専願	併願			2		1	1					—	—	—		66	
受験者数	23	1		5	30			3			2		1	1					—	—	—		66	
合格者数	23	1		5	30			3			2		1	1					—	—	—		66	
入学予定者	23	1		5	30			1			1		1	1					—	—	—		63	

キャリア育成学科介護福祉コース																								
	総合型 Ⅰ期	アスリート 総合型	社会的養護 総合型	総合型 Ⅱ期	指定校	アスリート 推薦	推薦Ⅰ期		推薦Ⅱ期		一般 Ⅰ期	一般 Ⅱ期	社会人 Ⅰ期	社会人 Ⅱ期	海外帰 国生徒	大学等 卒業生	外国人 Ⅰ期	外国人 Ⅱ期	委託訓練 Ⅰ期	委託訓練 Ⅱ期	委託訓練 Ⅲ期	転学科	合計	
志願者数	9		1		8						1						10	2		3	2		36	
受験者数	9		1		8						1						10	2		3	2		36	
合格者数	9		1		8						1						10	1		3	2		35	
入学予定者	9		1		8												10	1		3	1		33	

※外国人入試：キャリア育成学科のみ実施

※委託訓練入試：子ども学科及びキャリア育成学科介護福祉コースのみ実施

Ⅲ 令和6年度の取り組み(課題と今後の改善計画)

1. 学生募集(高校訪問・ガイダンス含)

(1)年度当初に把握していた課題(昨年度から引き継いだ課題)

- ・前年度課題を年度初めの委員会で確認する機会がなかったように思う。年次報告で挙げた課題を年度当初に精査し改善方を協議する。
- ・他校がガイダンス業者への契約金や参加に係る費用の単価をあげているものの、引き続きガイダンス業者との友好な関係を築きつつ、協定校を中心に高校進路へも本学にある分野のガイダンスは指名で呼んでもらえるよう取り組む。
- ・高田高校への積極的な企画提案(継続課題)
- ・高校訪問時に職員だけでなく教員が訪問した方がより高い効果が得られる高校や時期を模索し、職員と同行する回を設けてはどうか。また、予算・労力等見直す。
- ・学生の意見をもとに、OCの内容や印刷物、SNS等常にブラッシュアップしていく。
- ・保護者目線での学生募集を行っていく必要がある。保護者が気になること、保護者が知りたいと

ころ、保護者を引き付けるものは何かなどを検討し、募集活動全般に生かしたい。その一方で、高校生、社会人、高校教員、保護者など立場の違うもの各々に対応して、的確な募集活動を体系的に整理していく必要がある。

- ・オープンキャンパスでの保護者対象の説明会の充実を図る。
- ・インスタグラム等の SNS の活用。アップ（更新）の回数を増やすために、学生広報スタッフの活躍の場を増やす。
- ・介護のガイダンスに行ける職員が不足しているように感じる。介護福祉コース教員数が限られていることから、入試広報係以外の職員対応が望ましい。
- ・介護福祉コースの「売り」になる内容を継続して考えていく必要がある。
- ・Web 出願について本格的に検討する。
- ・受験生、保護者が早期に出願先を決めてしまう傾向にあると言われている。オープンキャンパスへの参加などを通して様々な大学・短大から志望校を絞り込むのではなく、自分の知っている 1 ～ 2 の学校から選択する場合も多いようである。1 年次から高校生、保護者と接触し、本学について知っていただけるよう戦略を練る必要があると思われる。
- ・高校生の 4 大指向が強まっている。短大の魅力や強みを明確にアピールする必要がある。

(2) (1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

- ・子ども学科に偏る課題は引き続き残っているが、授業の様子を撮影した写真を SNS（インスタ）に投稿する回数を増やした。
- ・（介護について）インスタは、意識して情報を入試職員に伝え、掲載した。サムネイルのように、投稿した動画の内容が一目でわかるような編集や工夫が必要。
- ・模擬授業・ガイダンスでは、学びのねらいをわかりやすくしつつ、続きを本学で、この先生から学んでみたいと思ってもらえるような展開を意識した。高校生に向け、期待を持たせる接触ができた手応えがあった。
- ・高田高校への企画提案の検討を実施した。高田高校にむけてできることについて、教員一人ひとりに聞き取り調査を行った。その後、学科協議会で各教員の意見を集約したものを取りまとめた。入試広報課職員より高田高校に提案を行った。
- ・入試広報課と高田高校教頭、各学年主任との連携に係る懇談会が実施できた。互いに胸襟を開いて意見交換することで、連携推進への第一歩となった。
- ・オープンキャンパスのオフィスワークコース説明時に、積極的に卒業生を本学に呼んだり、現 2 年生にお願いしたりするなどして、高校生や保護者の前で、より具体的な就職活動について語ってもらう機会を設けた。保護者を含むオープンキャンパス参加者が本学入学後の姿をより具体的にイメージできるかできないかは、本学入学に繋がる要因の一つだと考える。
- ・オープンキャンパスに参加してくださった保護者への説明の機会が増加し、定着しつつある。
- ・「見ればわかる！高田短期大学」の冊子を OC に参加した保護者にも配布した。これまでは高校にのみ配布していたが、せっかく作成しているのでさらに活用できる場を広げていきたい。
- ・出願書類等の相談について、高校によっては入試事務局に直接連絡することを躊躇されるところもある。高校と関係性のある教員が臨機応変に窓口となることにより、こちらから様々なアプローチもしやすくなり、コンスタントに出願者も出してもらえるようになってきた。

(3) (2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

- ・4 月にオープンキャンパスを追加で実施した。初年度なので比較や効果検証は 2 年目以降になるが、3 年生参加者 66 名の内、40 名の出願があった。これは例年 3 月のオープンキャンパス歩留まりより高い数字となっている。継続して実施し、より効果的な時期を探っていきたい。

- ・オープンキャンパスの学科やコースのブースを担当する学生とは、前もって綿密な打ち合わせを数回以上実施するようにし、教員の意見の押し付けではなく、担当学生の希望を丁寧に聞く姿勢を心掛けた。教員は、事前打ち合わせの場で出された担当学生の意見を尊重したブース内容の実施を目指した。
- ・オフィスワークコースの教員が通信制高校3校（第一学院、ヒューマンキャンパス、一志学園）を訪問し、在校生・卒業生の状況をお伝えした上で、コースへの出願指導のお願いをした。
- ・会話の流れにもよるが、高校訪問時に訪問校の卒業生の様子（もしくは就職後の様子）、本学の定員充足率をお伝えすると関心を持って頂ける感触があった。
- ・高校訪問の際には、進路の先生に、保育の授業内容（実習指導や特色のある授業として自然保育・ゼミナール活動）や本学の就職実績（公立合格）について意識的に伝えるようにした。

(4) 今年度1年間の活動、具体的内容

- ・高校訪問（1～4回。5月、6月、10月、12月）

高大教育交流事業：模擬授業等（協定校）

月日	曜	時間	高校名	担当者	担当者	形式	学年	開催場所	
5月17日	金	11:00～12:50	久居	福西		幼児コミュニケーション	3	久居高校	
6月14日	金	11:00～12:50	久居	笠原	大山	幼児コミュニケーション	3	久居高校	
6月18日	火	10:30～13:30	飯南	亀澤・杉本	中川	佐々木・久保田 学校見学	1	高田短期大学	
6月29日	土	10:45～11:45	聖学院	林		高大教育交流模擬授業	2	聖学院高校	
7月1日	月	15:30～16:30	高田	林	杉本	東海林	1～3	高田短期大学	
7月5日	金	15:10～16:10	相可	青木	杉本	高大教育交流模擬授業	1～3	相可高校	
7月16日	火	13:30～15:00	名張	長倉		高大教育交流模擬授業	2	名張高校	
11月8日	金	11:00～12:50	久居	亀澤		幼児コミュニケーション	3	久居高校	
11月12日	火	10:55～12:45	亀山	中川		高大教育交流模擬授業	2	亀山高校	
11月14日	木	9:45～12:10	四日市西郷	東海林		体験授業	1	四日市西郷高校	
11月15日	金	11:00～12:50	久居	伊藤		幼児コミュニケーション	3	久居高校	
11月20日	水	13:00～15:20	久居	林	中川	系統(保育・福祉)別体験授業	2	久居高校	
11月22日	金	11:00～12:50	久居	河内		幼児コミュニケーション	3	久居高校	
11月29日	金	11:00～12:50	久居	大野		幼児コミュニケーション	3	久居高校	
12月12日	木	15:00～17:00	名張	河内		高大教育交流模擬授業	2	高田短期大学	
12月17日	火	10:40～12:20	四日市西	伊藤		模擬授業	2	四日市西高校	
12月17日	火	9:30～11:25	四日市農芸	河内		模擬授業	1・2	四日市農芸高校	
12月17日	火	10:00～13:15	白山	野呂・川崎田	中川	佐々木・久保田 学校見学、体験授業	1	高田短期大学	
1月21日	火	12:40～15:00	飯南	尾高	伊東・江瀬	上山	模擬授業(保育・ビジネス)	1	飯南高校
2月20日	木	9:55～11:45	亀山	長倉		高大教育交流模擬授業	2	亀山高校	
3月6日	木	13:30～15:00	名張	檀部		高大教育交流模擬授業	2	名張高校	

高大教育交流事業:ガイダンス(協定校)

月日	曜	時間	高校名	担当者	担当	担当	形式	学年	主催
5月8日	水	13:10~15:05	静岡	久保田			学校別説明会	2	さんぽう
5月11日	土	10:30~13:15	明野	佐々木			学校別説明会	1~3、保護者	ライセンスアカデミー
5月17日	金	10:50~12:25	高田	佐々木			学校別説明会	3	キッズ・コーポレーション
5月22日	水	14:30~15:20	いなべ総合	生駒	久保田		面接ガイダンス	3	高大教育事業
5月23日	木	11:00~12:00	松坂商業	佐々木			学校別説明会	3	さんぽう
5月28日	火	13:05~15:25	白山	久保田			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー
5月29日	水	13:50~15:20	松坂商業	川喜田	久保田		系統・分野別説明会(保育・ビジネス)	2	ライセンスアカデミー
5月29日	水	13:00~14:30	飯沼	大橋			学校別説明会	3	さんぽう
6月5日	水	13:10~15:20	四日市西郷	生駒			学校別説明会(保育・福祉分野希望者)	3	キッズ・コーポレーション
6月11日	火	15:10~16:35	四日市西郷	久保田			学校別説明会	3	キッズ・コーポレーション
6月12日	水	14:30~17:30	龜山(龜山市文化会館)	佐々木			学校別説明会	1~3	ライセンスアカデミー
6月19日	水	12:50~15:10	三重	佐々木			学校別説明会	3	さんぽう
6月26日	水	14:05~15:25	相可	佐々木			分野別模擬面接指導(保育・ビジネス)	3	さんぽう
7月8日	月	9:30~10:45	明野	久保田			進学系統別面接指導	3	さんぽう
7月9日	火	10:20~11:50	白山	生駒			パネルディスカッション(短大)	2	ライセンスアカデミー
7月11日	木	11:15~12:40	四日市西郷	久保田			学校別説明会	2	ライセンスアカデミー
7月11日	木	12:15~15:00	龜山	生駒	佐々木	久保田	総合型選抜面接対策	3	高大教育事業
7月12日	金	14:10~15:30	相可	佐々木			分野別(保育)説明会	2	キッズ・コーポレーション
7月16日	火	13:00~16:00	白子	生駒	佐々木	久保田	総合型選抜面接対策	3	高大教育事業
8月5日	月	8:30~12:30	四日市西郷	佐々木	久保田		保育・幼稚園見学バスツアー	1~3	高大教育事業
8月8日	木	9:30~11:30	明野	生駒	佐々木	久保田	総合型選抜面接対策	3	高大教育事業
8月9日	金	8:30~15:00	四日市西郷	福西	佐々木	久保田	こども園見学バスツアー	1~3	高大教育事業
8月21日	月	13:30~16:00	三重	生駒	佐々木	久保田	総合型選抜面接対策	3	高大教育事業
8月22日	木	12:40~16:50	龜山	久保田			模擬面接指導	3	ライセンスアカデミー
8月24日	土	9:10~13:20	高田	佐々木			高田高校オープンスクール	学生、保護者	高田高校
8月26日	月	9:00~12:00	白子	生駒	佐々木	久保田	総合型選抜面接対策	3	高大教育事業
8月28日	水	9:30~11:30	明野	生駒	佐々木	久保田	総合型選抜面接対策	3	高大教育事業
9月2日	月	11:15~12:00	四日市商業	生駒	久保田		進路相談	3	高大教育事業
9月2日	月	13:25~15:15	龜山	佐々木			分野別(保育)説明会	1	高大教育事業
9月27日	金	15:15~18:00	四日市商業	佐々木	久保田		面接指導	3	高大教育事業
10月2日	水	13:10~15:20	久居	佐々木			分野別(保育)説明会	1	キッズ・コーポレーション
10月16日	水	13:00~14:35	飯野	佐々木			系統別(事務)説明会	1	さんぽう
10月23日	水	13:45~15:25	相可	佐々木	久保田		系統別(保育・ビジネス)説明会	1	さんぽう
10月25日	金	12:00~15:05	空琴館	佐々木	久保田		系統別(保育)、職業別(保育・販売)説明会	1~2	さんぽう
10月28日	月	15:30~17:30	高田	佐々木	久保田		面接指導	3	高大教育事業
10月30日	水	12:15~13:55	いなべ総合	久保田			分野別(保育)説明会	1	さんぽう
10月30日	水	15:15~18:00	四日市商業	佐々木	久保田	竹内	面接指導	3	高大教育事業
11月1日	金	15:15~18:00	四日市商業	竹内	佐々木	久保田	面接指導	3	高大教育事業
11月5日	水	13:55~15:25	龜山	佐々木			分野別(保育)説明会	2	TAP
11月8日	金	15:15~18:00	四日市商業	竹内	佐々木	久保田	面接指導	3	高大教育事業
11月13日	水	13:50~15:20	松坂商業	久保田			学校別説明会	2	ライセンスアカデミー
12月12日	木	12:55~15:15	津島	佐々木			学校別説明会	2	ライセンスアカデミー
12月13日	金	9:10~11:30	白山	佐々木			学校別説明会	2	ライセンスアカデミー
12月17日	火	10:00~12:10	四日市西郷	佐々木	久保田		学校見学	2	チエルコミュニケーション
12月17日	火	13:00~15:10	高田	佐々木			学校別説明会	2	さんぽう
12月18日	水	9:30~12:45	明野(伊勢笠原)	佐々木	久保田		学校別説明会	1~2	ライセンスアカデミー
12月19日	木	10:55~12:40	四日市西郷	佐々木			学校別説明会	2	チエルコミュニケーション
12月19日	木	10:25~12:35	四日市商業	久保田			学校別説明会	2	ライセンスアカデミー
1月16日	木	13:55~15:15	白子	久保田			系統・分野別(ビジネス)説明会	1	ライセンスアカデミー
1月22日	水	13:40~15:20	四日市西郷	久保田			系統別(保育)説明会	1	さんぽう
2月12日	水	12:55~15:15	白子	久保田			系統別(保育)、学校別説明会	1~2	ライセンスアカデミー
2月14日	金	9:50~12:15	四日市商業	生駒	佐々木		職業別(保育・事務・介護)説明会	1	さんぽう
2月21日	金	13:05~15:10	三重	久保田			系統別(保育)説明会	2	マイナビ
3月5日	水	9:40~11:20	相可	久保田			学校別説明会	1~2	ライセンスアカデミー
3月7日	金	12:20~14:00	空琴館	久保田			分野別(介護福祉)説明会	1~2	さんぽう
3月10日	木	10:00~12:20	相可	久保田			学校別説明会	2	さんぽう
3月12日	水	10:00~12:10	飯沼	久保田			学校別説明会	2	さんぽう
3月13日	木	12:45~15:05	高田	生駒	佐々木		系統・分野(保育・ビジネス)別説明会	2	ライセンスアカデミー
3月14日	金	9:40~11:15	龜山	佐々木			学校別説明会	2	さんぽう
3月17日	月	9:30~11:30	白山	佐々木			学校別説明会	1~2	ライセンスアカデミー

協定校外模擬授業等

月日	曜	時間	高校名	担当者	担当	担当	形式	学年	開催場所
6月12日	水	12:40~14:00	志摩	古谷	川喜田	長谷川	模擬授業	2	さんぽう
7月9日	火	12:40~14:00	木本	林			模擬授業	2	チエルコミュニケーション
7月9日	火	10:00~12:40	伊賀白鳳	長倉	佐々木	久保田	学校見学	2	高田短期大学
7月10日	水	9:00~12:00	伊勢学園	川喜田			模擬授業	2	伊勢学園高校
10月23日	水	13:55~15:15	久居農林	林			模擬授業	2	久居農林高校
11月14日	木	9:00~12:00	伊勢学園	川喜田			模擬授業	2	伊勢学園高校
12月19日	木	13:50~15:10	木本	尾高			模擬授業	1	チエルコミュニケーション
2月12日	水	13:10~15:10	伊賀白鳳	川喜田			模擬授業	1	さんぽう
3月12日	水	12:45~15:20	四日市メリノール	林	長谷川		職業系統別(保育)ガイダンス	1	マイナビ
3月17日	月	9:50~12:10	稲生	川喜田	長谷川		職業別(一般事務・介護福祉)体験授業	1	さんぽう

高校内ガイダンス

月日	曜	時間	高校名	担当者	担当者	担当者	形式	学年	主催
5月8日	水	12:20~13:35	志摩	佐々木			分野別(保育)説明会	3	ライセンスアカデミー
5月15日	水	13:25~15:05	松阪工業	久保田			学校別説明会	3	さんぽう
5月18日	土	10:25~12:30	鳴	生駒			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー
5月18日	土	14:20~15:45	伊勢学園	佐々木			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー
5月22日	水	9:20~10:55	四日市農芸	佐々木			学校別説明会	3	さんぽう
5月22日	水	13:10~15:30	稲生	佐々木			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー
5月29日	水	13:00~15:05	桑名北	竹内			学校別説明会	2・3	チエルコミュニケーション
5月29日	水	13:50~15:10	久居農林	生駒			学校別説明会、入試対策講座	3	ライセンスアカデミー
6月4日	火	12:35~14:35	那学園	佐々木			分野別(保育)説明会	2	ライセンスアカデミー
6月5日	水	13:00~15:00	茨心	久保田			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー
6月7日	金	11:00~12:20	四日市メリノール	久保田			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー
6月12日	水	12:50~15:10	鳥羽	島山			学校別説明会	3	さんぽう
6月18日	火	10:20~11:45	那学園	生駒			学校別説明会、面接指導	3	ライセンスアカデミー
6月19日	水	13:10~15:30	久居農林(メッセウイング)	生駒			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー
6月24日	月	13:55~15:20	石巻第	佐々木			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー
7月4日	木	13:50~15:10	鈴鹿	久保田			分野別、学校説明、模擬面接指導	3	ライセンスアカデミー
7月8日	月	10:30~12:00	尾鷲	佐々木			分野別(保育)説明会	1・2	キッズ・コーポレーション
7月10日	水	10:00~11:30	伊勢学園	佐々木	久保田		学校見学	2	伊勢学園
7月10日	水	13:00~14:40	神戸	佐々木			学校別説明会	3	
7月11日	木	10:05~12:05	久居農林	生駒	佐々木		分野別模擬面接指導、学校説明(3分野)	3	さんぽう
7月31日	水	13:30~15:30	茨心	佐々木	久保田		総合型選抜対策	3	富田短期大学
9月26日	木	12:50~15:10	鈴鹿	久保田			分野別説明会(医療秘書・医療事務・福祉)	2	ライセンスアカデミー
11月13日	水	13:40~15:20	藤野	久保田			系統別(福祉)説明会	1	さんぽう
11月27日	水	14:10~15:40	稲生	佐々木	久保田		分野別(保育・介護)説明会	1	JSコーポレーション
12月6日	金	12:30~14:30	茨心	佐々木			系統別(福祉)説明会	2	ライセンスアカデミー
12月10日	火	11:05~12:30	鳴	久保田			学校別説明会	2	ライセンスアカデミー
12月16日	月	10:55~12:05	久居農林	久保田			学校別説明会(オープンキャンパスガイダンス)	2	ライセンスアカデミー
1月26日	木	13:30~15:20	松阪市久保中学校	横田			わくわくスクール		松阪市
2月4日	火	12:50~15:10	伊勢学園	佐々木			学校別説明会	2	さんぽう
2月5日	水	14:20~15:45	紀南	佐々木			分野別(短期大学)説明会	1	さんぽう
2月12日	水	10:25~11:40	鳥羽	生駒			学校別説明会	2	ライセンスアカデミー
2月12日	水	12:40~15:00	志摩	生駒			系統別(保育)マネープラン	1	さんぽう
2月14日	金	12:30~14:40	朝明	竹内			学校別説明会	1・2	チエルコミュニケーション
2月18日	火	13:40~15:10	伊勢学園	佐々木			職業科(保育)説明会	1	チエルコミュニケーション
2月20日	木	12:30~15:00	松阪立西中学校	古谷			わくわくスクール		松阪市
2月25日	火	12:35~14:35	那学園	生駒			系統・分野別(保育)説明会	2	ライセンスアカデミー
3月12日	水	10:00~11:20	伊勢学園	生駒	佐々木		学校見学	1	ライセンスアカデミー
3月13日	木	11:25~12:05	久居農林	亀澤	鷲尾		職業科(保育・経理事務)説明会	1	さんぽう
3月13日	木	10:25~12:10	松阪工業	尾高			系統・分野別(保育)説明会	2	チエルコミュニケーション
3月14日	金	10:50~13:00	久居農林	藤澤			学校別・学費説明会(保育・幼児教育)	2	キッズ・コーポレーション
3月17日	月	9:30~11:30	四日市メリノール	久保田			学校別説明会	2	さんぽう
3月17日	月	8:45~10:10	稲生	生駒			学校別説明会	2	さんぽう

会場ガイダンス

月日	曜	時間	会場	担当者	担当者	ガイダンス名	学年	主催
4月22日	月	16:00~18:00	シンフォニアテックノロジー警ホー	佐々木		会場ガイダンス	1~3	チエルコミュニケーション
4月23日	火	16:00~18:00	アスト津	佐々木	久保田	会場ガイダンス	1~3	チエルコミュニケーション
4月24日	水	16:00~18:00	都ホテル四日市	久保田		会場ガイダンス	1~3	チエルコミュニケーション
4月25日	木	14:00~18:15	四日市総合体育館	佐々木		会場ガイダンス	1~3	ライセンスアカデミー
6月7日	金	14:15~18:15	サンアリーナ	生駒	大橋	会場ガイダンス	1~3	ライセンスアカデミー
6月11日	火	16:00~18:30	シンフォニアテックノロジー警ホー	佐々木		会場ガイダンス	1~3	日本ドリコム
6月12日	水	13:00~15:20	四日市総合体育館	久保田		3校(菟野、西郷、四農)ガイダンス	3	ライセンスアカデミー
6月12日	水	16:00~18:30	アスト津	生駒		会場ガイダンス	1~3	日本ドリコム
6月14日	金	16:00~18:30	じばさん	竹内		会場ガイダンス	1~3	日本ドリコム
7月9日	火	12:00~16:00	メッセウイング三重	亀澤	佐々木	会場ガイダンス	1~3	さんぽう
10月2日	水	15:30~18:00	アスト津	久保田		会場ガイダンス	1~3	チエルコミュニケーション
10月30日	水	13:30~17:00	ホテルグリーンパーク鈴鹿	生駒		会場ガイダンス	1~3	さんぽう
11月8日	金	15:30~18:00	ホテルグリーンパーク鈴鹿	生駒		会場ガイダンス	1~3	チエルコミュニケーション
11月18日	月	15:30~18:00	シンフォニアテックノロジー警ホー	佐々木		会場ガイダンス	1~3	チエルコミュニケーション
11月20日	水	15:30~18:00	都ホテル四日市	生駒		会場ガイダンス	1~3	チエルコミュニケーション
12月19日	木	13:00~16:00	アスト津	生駒		会場ガイダンス	1~3	さんぽう
2月6日	木	15:40~18:30	シンフォニアテックノロジー警ホー	佐々木		会場ガイダンス	1~3	日本ドリコム
2月21日	金	13:50~17:30	シンフォニアテックノロジー警ホー	眞崎		会場ガイダンス	1~3	ライセンスアカデミー
3月6日	木	12:30~15:00	じばさん	久保田		会場ガイダンス	1~3	さんぽう
3月14日	金	9:30~12:40	四日市ドーム	金森	久保田	会場ガイダンス・体験	1~3	チエルコミュニケーション
3月12日	水	13:30~16:00	メッセウイング三重	佐々木		会場ガイダンス	1~3	チエルコミュニケーション
3月13日	木	13:00~17:00	そよら館白子	眞崎	久保田	会場ガイダンス	1~3	みえプラス

日本語学校、留学生対象会場ガイダンス

月日	曜	時間	学校名	担当者	担当者	形式	対象	開催場所、主催
6月26日	水	10:15~12:00	インターナショナル日本	久保田		学校別説明会		REN
7月8日	月	14:00~15:50	四日市日本語	久保田		学校別説明会		
2月25日	火	10:00~15:00	じばさん三重	佐々木		学校別説明会		ライセンスアカデミー

委託訓練説明会

月日	曜	時間	会場	担当	担当者	参加費	形式	対象	備考
2月10日	月	13:00～16:00	ハローワーク四日市	久保田					
2月14日	金	13:00～15:00	ハローワーク熱海	久保田					
2月17日	月	10:00～12:00	ハローワーク鈴鹿	久保田					
2月18日	火	9:00～12:00	ハローワーク津	久保田					
2月18日	火	14:00～15:30	ハローワーク伊勢	久保田					
2月26日	水	9:00～12:00	ハローワーク津	久保田					
2月26日	水	10:00～12:00	ハローワーク松坂	佐々木					
3月4日	火	9:00～12:00	ハローワーク津	久保田					

(5) 次年度に向けた課題、改善すべき点

- ・高田高校への積極的な働きかけや企画の提案が必要である。
- ・高田高校と入試広報課との意見交換会で提案いただいたことや助言、本学からの提案をどう具現化していくかが今年度の大きな課題の一つと考える。
- ・連携市と協力して、小・中学生対象のイベントを検討したい。高校入学時にはすでに分野をある程度決めている生徒もいるため、その前に接触し分野の魅力を知ってもらいたい。
- ・(可能であれば) 新たに四日市市とも連携したい。四日市市も今「子育てするなら四日市」とうたっているが、保育者不足で待機児童が発生している。こちらからなにかアクションを起こせば、協力して実施できることがあるのではないかな。
- ・介護福祉コースの「売り」になる内容を継続して考えていく必要がある。(専門学校との違い、魅力など)
- ・キャリア支援センター、学生自治会との連携により、オープンキャンパスや学祭等で、来場者へ将来の職業イメージがつかみやすいような企画を考える。
- ・広報スタッフの業務内容を精査する。負担を軽減しながら学生の力を活かす方策を考える。
- ・Web 発信方法について、見直す必要がある。本年度、TikTok に着手できなかった。高校生の利用率は高い。在校生(授業「広告デザイン」の授業課題等)にしながら) 目線でコースについての広報をねらったコンテンツ作成をさせることも検討したい。

2. オープンキャンパス

(1) 年度当初に把握していた課題(昨年度から引き継いだ課題)

① 広報に関すること

- ・オープンキャンパスの実施回数及び内容の整理と検討。
- ・各回の具体的内容を早い段階でチラシやホームページに公開し、企画・内容への関心からの参加を促す。
- ・オープンキャンパス準備風景もインスタ等で頻繁にアップできると良い。
- ・これからの広報の方向性を決める。限られた予算と人員でいかにアピールするか、ターゲットとする若年層の情報キャッチの方法と嗜好性を捉えた広報の検討。*紙よりネット・SNS
- ・広報の対象の拡大。社会人、委託訓練入試も意識した広報の検討。

② ブースに関すること

- ・限られた人的資源をどのように活用するか、学校全体で把握する機会があってもよい。担当教職員にみに任せられることが生じるのは課題である。

③ 学生と連携した OC

- ・ボランティア学生の選別。ゼミ内での選別が機能していない様子も窺える。ボランティアを理解していない学生もいる。ボランティアの募集・指導についての検討。

(2) (1) の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

- ・新任教員や非常勤講師がブースを担当し、今までにない内容のものを実施することができた。

- ・昨年度までも実施していたが、今年度はこれまでより、より積極的に学生ボランティアと事前打ち合わせを行い、高校生が楽しめるためにはどう振る舞うべきなのかを指導した。
 - ・年度当初に対象や効果を想定しながら年間の予定を立て、スムーズに計画できたと感じる。
- (3) (2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと
- ・介護棟入り口付近は薄暗い雰囲気がある。介護棟内の装飾を工夫し、学生が作成した物もいくつか展示した。介護棟入り口付近の印象を明るくするための工夫は今後も課題である。
 - ・広報スタッフを始めとする学生を主体とした内容のものを増やした。
 - ・保護者対象の説明（会）の充実を図った。
 - ・4月に新たにオープンキャンパスを実施した。参加した高校3年生66名中40名が出願につながった。これは例年の3月参加者より高い歩留まりであり、一定の効果があつたと感じる。
 - ・ブース会場によっては終了後のノベルティの手渡しに不便が生じるため、都度手渡し場所の変更を行った。

(4) 今年度1年間の活動、具体的内容

2024/4/27 (77名)、6/8 (89名)、7/7 (94名)、8/3 (217名)、8/24 (161名)、12/15 (46名)、2025/3/9 (未定) ※参加人数は保護者除く

【参考】学科別の参加人数（第1回から第5回まで）および過去5年の参加人数は下の図の通り。

		2020年 (令和2)	2021年 (令和3)	2022年 (令和4)	2023年 (令和5)	2024年 (令和6) 3月2024年	
子ども学科	4月					40	32
	第1回	96	88	77	70	54	46
	第2回	140	123	80	65	59	49
	第3回	97	85	135	121	127	86
	第4回		60	124	134	112	41
	ミニ1			11			
	ミニ2			21			
小計		333	356	448	390	392	254
キャリア育成学科 オフィスワークコース	4月					32	30
	第1回	36	24	16	35	22	20
	第2回	40	33	29	37	27	20
	第3回	35	20	63	64	69	52
	第4回		26	42	50	38	22
小計		111	103	150	186	188	144
キャリア育成学科 介護福祉コース	4月					5	3
	第1回	5	4	6	7	13	12
	第2回	27	15	18	19	8	7
	第3回	10	6	23	22	21	18
	第4回		6	9	27	11	7
小計		42	31	56	75	58	47
4月合計		0	0	0	0	77	65
第1回小計		137	116	99	112	89	78
第2回小計		207	171	127	121	94	76
第3回小計		142	111	221	207	217	156
第4回小計		0	92	175	211	161	70
合計		486	490	654	651	638	445
翌年の子ども学科入学人数		190	158	137	142		
翌年のキャリア育成学科オフィスワークコース入学人数		69	61	57	68		
翌年のキャリア育成学科介護福祉コース入学人数		24	31	34	40		

(5) 次年度に向けた課題、改善すべき点

- ・前年度に提示された下記①～③の課題を継続的に取り組む。
- ①限られた人的資源の活用について。
- ②オープンキャンパスの実施回数及び内容の整理と検討。
- ③ボランティア学生の選別。
- ・高田短期大学のオープンキャンパスを三重県内の方々に知ってもらえるように SNS 等を活用した宣伝活動を取り入れたらどうか。
 - ・実施する回ごとに目的やテーマを明確にすることが必要ではないか。
 - ・より一層、学生を主体としたものに改善していく。
 - ・学生募集とも関わってくるが、キャリア、学生自治会との連携を検討する余地がある。

・8月の1・2年生が多く参加する回では、学年ごとに時間や内容をわけて実施することを検討していきたい。運営側の負担は増えるが、より学年にあわせた話ができるため、満足度は上がるのではないかと。

・広報スタッフとは別で、年間通して複数回参加してくれる学生を選抜してはどうか。その都度参加してくれる学生を探すのは大変だが、繰り返し参加してくれれば学生に対してもまとまった指導ができ、より意欲を持って取り組んでもらえるのではないかと。

3. 入試検討・追跡調査

(1) 年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

・今後、更に拡大することが予想される委託訓練入試への入試方法の見直しを検討。現状は枠拡大の過渡期であり、継続的に検討が必要。

思われる。

- ・面接の質問等で現役生との兼ね合いが判断できるような内容を検討する必要がある。
- ・入試問題の内容が筆記と面接で重なる事があった。問題作成の二度手間防止や負担軽減について検討をする。
- ・今後益々増加していく通信制学校に対応する入試形態の検討。
- ・社会人入試の自由な質問について。
- ・入試やOCの際の試験会場（教室）、ロッカーの上、廊下の共有スペース等の整理整頓の徹底。
- ・介護福祉コースの学生をどのように維持していくか、オープンキャンパスや高校との連携の強化。
- ・留学生の面接は、日本語がわかる学生とわからない学生は把握しやすいが、中間層の選出が難しかった。
- ・留学生の口頭試問（音読）で、ほとんどの留学生が適切に答えることができなかった。文章の難易度が高く、日本語理解能力の差が確認しにくい。

(2) (1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

・委託訓練入試について、入学の適否が判断できるよう、面接の内容や採点方法について改善を図った

(3) (2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たにに取り組んだこと、改善したこと

・委託訓練入試について、入学の適否が判断できるよう、面接の内容や採点方法について改善を図った。

(4) 今年度1年間の活動、具体的内容

- ・8月30日入試問題検討会

(5) 次年度に向けた課題、改善すべき点

- ・定員充足が困難なことから不合格者を出すのは難しい状況にあり、「相対評価」による選抜はできないのが現実である。入学後、授業についていけるか、実習を全うし、資格が取得できるかなど、「絶対評価」が求められる。そのために、面接に改善、工夫が必要であり、小論文や基礎学力テスト等は差がつくよう本学の受験生のレベルに合ったものが必要ではないか。
- ・選抜方法や採点基準等については運営会議で検討、協議しているものの、十分な時間をかけられてはいない。追跡調査を行うほか、試験問題、選抜方法等について時間をかけて総括、検討する場が必要ではないか。

4. 高大教育交流

(1) 年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

- ・あらたな協定校の検討。
- ・協定校との取り組みについて、現行の取組に加え、チラシ等作成し可視化できるようにしたい。進路指導部の先生だけではなく、学年の先生にも共有できるようにしたい。
- ・学生の成長事例の収集・把握をした上で、高校へのフィードバック。
- ・協定校のみを対象とする大学説明会などの実施。
- ・連絡協議会の有意義な内容の検討。
- ・学校や授業を見学できる機会を増やす。

(2) (1) の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

- ・白山高校、四日市農芸高校と新たに連携協定を締結することができた。四日市農芸高校は正式な見学バスツアーも実施できた。
- ・高大教育交流連絡協議会のグループワーク（基礎学力向上への取組について）では短時間ではあったが高校での取り組みや生徒の様子、課題についての情報共有ができ、有意義な時間となった。
 - ・高校訪問の際、進路指導部の先生とお話しするだけでなく、3年生担当の先生を紹介していただき、生徒が希望する進路について、より詳細な情報をいただけるように努めた（三重県立みえ夢学園高等学校、三重県立北星高等学校）。
- ・(3) (2) で記載した取り組みのほか、本年度、新たにに取り組んだこと、改善したこと
- ・高大教育交流連絡協議会の中でキャンパスツアーを行った。初めての試みであったが、話だけでなく実際見て知っていただけたのは良い機会であった。
- ・高大連携の企画をリスト化した。これまで出前講座一覧以外はほぼ口頭で説明していたが、可視化できるようになりより伝わりやすくなった。
- ・高校へ出向き模擬授業を実施する際は、高校生と直接対面できる良いチャンスととらえ、積極的に高校生と個別に会話する機会をできる限り設けるよう努め、高田短期大学の魅力を具体的に伝えた。
- ・学校見学・体験授業では、その高校の先輩（卒業生）をサポートにつけ、場を和ませることができた。

(4) 今年度1年間の活動、具体的内容

- ・高大教育交流連絡協議会開催（2回：5月リモート、2月対面）
- ・出前授業、本学での特別授業の実施（41回）
- ・学校見学（5回）
- ・高校内進学ガイダンスの実施（86回）
- ・保護者会への出席（1回）
- ・面接対策講話の実施（2校2回）
- ・個別、集団面接指導の実施（2校6回）
- ・幼稚園見学バスツアー（2校2回）
- ・総合型選抜入試対策講座（5校7回）
- ・体験授業、分野別ガイダンス内訳（保育：43件、オフィス系：17件、介護：14件）

(5) 次年度に向けた課題、改善すべき点

- ・新たな協定校の検討。進路以外にも学年等への働き掛けも試みていく。
- ・高田高校との連携を強化していきたい。新たな取り組みについて提案したが、その実現に向け、頻度を上げて交流できるよう働きかけていくがある。
- ・高田高校生限定オープンキャンパス・特別入試形態を慎重に検討していく。
- ・出前授業については、高校側に選んでもらいやすい、高校生にも魅力が伝わりやすい内容に一新

した。学校見学に来ていただける高校数を増やし提示した授業を受講していただくことで、学科・コースの魅力を生で感じていただけるようにする。

- ・基礎学力に課題がある学生への対応。

5. ホームページ・SNS

(1) 年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

- ・公式 WEB や SNS は受験生に訴求できる内容に注力し、掲載する情報についても取捨選択し、校生が気になる内容で掲載できるような運用を目指す。
- ・入学者に対し、発信してきた SNS について、閲覧したかどうか、本学の魅力を感じたかどうか、入学する決め手につながったかなどのフィードバックを活かせないか。
- ・委託訓練生の広報(時期が限られているが)は、ホームページの社会人のところに入れるのではなく、別枠でぱっと見て分かるような掲載方法が良いのではないか。
- ・学科コースによるインスタグラム記事の偏り（子ども寄りになっている）の改善。
- ・インスタグラム掲載内容について、もっと広く学科内等でも共有し、授業に差しさわりのないか注意しながら、高短の授業をアップし、魅力を発信できるとよい。
- ・受験生向け特設ページの新規制作。

(2) (1) の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

- ・受験生向け情報の更新に注力できるよう、各ページのアクセス数とユーザー数、滞在率などの分析も実施。今後、効果的な WEB ページ更新を行える土台作りを行った。
- ・介護のインスタグラムについては、演習授業や動きのある活動を多く発信することができた。
- ・ストップしていた「コースの活動記録」を活発にアップするようにした(オフィスワークコース)。

(3) (2) で記載した取り組みのほか、本年度、新たにに取り組んだこと、改善したこと

- ・おやこ広場たかたん特設ページを開設し、子ども学科学びの場としての広報展開ができた。

(4) 今年度 1 年間の活動、具体的内容

- ・インスタグラム年間 55 件
- ・フェイスブック年間 47 件
- ・HP お知らせ年間 33 件
- ・SNS から情報発信することを意識したゼミ活動を計画。
- ・年度末更新に向けた、公式 Web の情報見直し。

(5) 次年度に向けた課題、改善すべき点

- ・Web 更新サイト予算が全くない状況で、内部制作による大幅リニューアルは現実的に厳しく、現状維持が精いっぱいである。
- ・WEB サイトのデザイン構築には一定の知識技術が必要で、かつ時間と人手が想像以上にかかる。更新作業には知識およびセンスが必要な業務。
- ・インスタグラムの更新権限を各学科・コース教員へ付与してはどうか。
- ・学科コースページの階層構造の見直し。上部に学科コースの新着情報を載せてはどうか。
- ・委託訓練広報の一環として、1 期生や 2 期生にインタビューした内容を SNS にアップしてはどうか。
- ・公式 Web では新設コーナーや更新が随時行われているが、そのタイミングと内容を教員(委員)に共有する必要があるのではないか。

6. 大学案内

(1) 年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

- ・学生モデルについては、男子、社会人、留学生等、多様な学生を取り入れているイメージを発信する。
- ・実習の写真のみではなく、夏祭りやレクリエーション等動きのある写真があってもよい。

(2) (1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

- ・学生モデルの男女比率については可能な限り配慮した。
- ・入試広報課で学生の意見を聴く場を設け、学生の意見を積極的に取り入れた。
- ・入学後の学校生活を具体的にイメージできる場面検討を行った。

(3) (2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

- ・卒業生、内定者の数を増やした。撮影に苦労はあったが出身校や就職先など多くの情報発信ができた。
- ・学生募集に成功している他大学の紙面を参考に、カリキュラムや多くの学生紹介をすることができ、将来像のイメージをアピールすることができた。

(4) 今年度1年間の活動、具体的内容

- 4月 入学式、新入生研修撮影
- 5月～ 学生モデルの選定、授業撮影
- 6月～ 学生モデルから承諾書回収
- 7月 イメージ原稿の確認、表紙や学科扉の撮影
- 8～9月 オフィス、介護実習撮影、OC撮影
- 10月 学生、高短祭の撮影
- 11月 保育実習、卒業生、授業の撮影
- 12月 学生、卒業生の撮影
- 1月 学生、卒業生の撮影
- 2月 1稿回覧
- 3月 2稿、最終稿提出、印刷

(5) 次年度に向けた課題、改善すべき点

- ・今後の少子化の影響を鑑み、学生の多様性の表現やバランスを考える。
- ・入学後の短大生活やスケジュールについて、より分かりやすく伝わる内容を引き続き検討する。高校生は就職より短大生活の中身が知りたいのでは。入学時と卒業時が比較できる写真と記事を載せ、2年間の学びからの成長がイメージしてもらえるとよいのでは。

以上



キャリア支援委員会

年次報告書

委員長 山本 敦子

I. 昨年までの課題

1. 学生の就活や働くことへの不安の緩和と、就活への早期の意識づけ

(子) キャリア支援に関する講座・授業は、キャリア支援委員のコーディネートにより 1 年次前期から 2 年前期まで一貫した内容で実施しているが、一部の学生においては講座への出席に意欲的でない状況が見られる。

(オ) 本年度の 1 年生は、自己表現が苦手な学生で勤労観・職業観が形成されていない学生の割合が高かった。キャリア支援サポーターによる面談で、就きたい仕事に答えられていない。

2. 個々の学生の進捗状況、ニーズ、状況に合わせた指導・支援の実施

(子) 学生の自主実習・見学の開始が遅くなっており、それは月ごとの内定率にも表れている。園からの求人は年間を通して常に行われており、現場が人手不足である状況も、学生の就職活動への時期や実習件数に影響を与えていると考えられる。

(オ) 苦手なことから逃避する学生に対して、ゼミ担当が 1 人で対応しきれなくなっている。周りが就職活動を始めている時期に動き出せない学生の対応に、ゼミ担当が苦慮している。

(介) 委託訓練生は年代や生活環境が異なる為、就職活動についての個別相談を希望する学生が多い。コース全体の就職講座よりも個別の細やかなサポートが求められる。

3. 就職講座や授業、就活に必要な意識・スキルの支援

(子) 授業「キャリアスタディ」の主担当者の退任により、キャリア支援委員会を中心とした授業運営に移行していく必要がある。

(オ) 本年度は、学生自身が情報を整理して記録を残す場面が少なく、受け身の姿勢が目立っていた。

(介) 委託訓練生は、自分の長所や短所、学生時代のエピソード等については既に技術学校で行っている為、内容が重複してしまう。他の日本人学生と分けて実施することも検討する必要がある。

4. 就職講座への参加率の向上

(オ) 「キャリアガイダンスⅡ」に授業化したことによって、欠席回数を計算して内容を選び好みしている学生が見られる。

5. キャリア支援センターとの連携・情報共有

(全) 教職員の退任により、年度末から新年度への移行期における連携・情報共有体制がより一層望まれること。

6. 課題のある学生、配慮が必要な学生への支援体制の強化

(全) 学生支援委員会を中心とした支援体制の充実(一貫した支援の流れの構築)。

7. 卒業後の状況把握、支援

- (子) 新卒者の早期退職についての情報共有の方法や時期が確立されていない。
- (オ) 専任教員の入れ替わりが多く、卒業生を知る専任教員が減少している。

8. 外部機関との連携

(オ) キャリア支援センターに来所せず、ハローワークを直接訪ねる学生がいる。対応が難しい学生ほど、キャリア支援センターで状況を把握してから、ハローワークへつなぎたい。

Ⅱ. 本年度改善されたこと

1. 学生の就活や働くことへの不安の緩和と、就活への早期の意識づけ

(子) 1年次後期の授業「キャリアスタディ」を中心に据え、1年次前期の講座は「同プレ講座」、1年次春休みからの講座は「同フォローアップ講座」に名称変更。授業との関連性を意識させながら受講を促すことができた。また、各講座や授業に際して事前事後のアンケートを実施し、回答やフィードバックを速やかに行った。

(オ) 勤労観・職業観を醸成すべく、「スタートアップゼミナール」の前半授業において、各学生に「2年間の短大生活（学修）計画」を立案させ、その内容をパワーポイントにまとめ、一人ずつ発表し、受講学生同士で情報を共有した。

(介) 1年生への進路希望アンケートを継続実施し初期段階の就職希望について把握することができた。しかし、2年生では介護分野以外へ進む学生の意向を早期につかむことができず就職支援が遅れてしまったケースもあった。

2. 個々の学生の進捗状況、ニーズ、状況に合わせた指導・支援の実施

(子) 昨年と同様、今年度の本学子ども学科への求人数は減少傾向であったが、本学子ども学科を含む養成校入学者数も減少しているため、就職のしやすさは未だ保たれている。キャリア支援センターによる1年生への個別面談を継続実施し、早期から学生がセンター職員との相談・支援関係を構築できるように促した。

(オ) 人間関係に課題を抱える学生に対して複数の職員が関り、心を開ける職員を探った。現在は、少しずつ意思表示が見られる状況にある。

(介) 委託訓練生に対し、本人への聞き取りやゼミ担当教員、キャリア支援センターのサポーターとの連携を強化し、個別対応を充実させることができた。

3. 就職講座や授業、就活に必要な意識・スキルの支援

(子) キャリア支援センターにも協力を仰ぎつつ、キャリア支援委員を運営母体とした授業方法を確立した。評価方法の可視化、およびゼミリーダーによる出席管理により、学生の自主性に基づいた受講を促すことができた。

(オ) 授業の連続性を可視化するため、学生に面接ノートを持たせるとともに、合同企業説明会等の参加を早期化させた結果、合同企業説明会等の参加状況は、33名から60名にほぼ倍増した。

(介) 講座において、特別養護老人ホームと介護老人保健施設、有料老人ホームや

グループホーム等の区別および、勤務形態や働く上での注意点（メリット・デメリット）について解説し、希望に合った施設を検討するための材料提供に努めた。

4. 就職講座への参加率の向上

（オ）就職講座を授業化して2年目の本年度は、安易な欠席が生じないように、15回を3期に分けて到達点を明確に打ち出した結果、3月のエントリー開始まで実施した15回中12回で参加率が前年度を上回った（前年度40～50%、本年度90～100%）。

5. キャリア支援センターとの連携・情報共有

（全）途切れのないキャリア支援を目指し、学科コース内で旧年度から新年度に向けて教職員への申し送りを行い、連携体制を保てるように努めた。

6. 課題のある学生、配慮の必要な学生への支援体制の強化

（全）授業や学生生活を通して散見される学生の状況や動向について、適時に学科コース会議や委員会前ミーティングで話題提供し、情報共有を図るよう努めた。

7. 卒業後の状況把握、支援

（子）新卒者の早期退職について情報が得られた時点で学科・キャリア支援センター双方に共有を図るための一覧表を作成、更新し、就職先への対応状況を実習巡回前に各人で適時把握できる体制を設けた。また、卒業生全体では、令和7年3月6日現在、29名のべ93件の相談があり、キャリア支援センターを中心に、ゼミ教員や実習巡回担当教員等も仲介して支援を推し進めた。

（オ）昨年度に引き続き、退職した専任教員のゼミ学生も、直近の卒業生を知る専任教員やセンター職員で分担して訪問を計画したが、1名あたりの訪問数が激増したため、これをきっかけに訪問の必要性が高い卒業生の目安を検討した。

（介）継続勤務している教員においては、卒業生が就職した施設には実習巡回等の機会を活用し、可能な範囲で聴き取りを行った。

8. 外部機関との連携

（オ）就職活動の進捗状況は、常にゼミ担当教員とキャリア支援センターへ知らせることを徹底し、連携が必要な学生はハローワーク等と積極的に連携して進路実現を図った。

Ⅲ. 新たな課題

1. 学生の就活や働くことへの不安の緩和と、就活への早期の意識づけ

（子）保育職従事への不安を有する学生は毎年一定数おり、実習経験にも大きく影響を受けること。

（オ）就職活動が本格化するまで、学生の感覚で学びの機会を取捨選択する傾向にあり、機会損失の意識を定着させることが求められる。

（介）介護福祉士資格を取得せず、介護以外の業界への就職判断が遅れたことで就

職が決まらないケースがあり、職業適性を早期に見極める必要がある。

2. 個々の学生の進捗状況、ニーズ、状況に合わせた指導・支援の実施

(子) 民間施設における不採用や臨時等の条件付き雇用となるケースが散見される。免許・資格を取得しない学生が年々微増しており、就労イメージや就職活動プランを描けぬまま家事アルバイトに移行するケースも若干見られる。

(オ) 就職活動の早期化が再び起こり始め、深く考える間もなく就職活動を終えている可能性がある。社会体験実習以外にも、就職活動前に実践的な学びを得る機会が求められる。

3. 就職講座や授業、就活に必要な意識・スキルの支援

(オ) 学生のニーズが多様化し、過去の価値観のみで動機付けが困難になりつつある。学生のニーズに応える施策が求められる。

4. 就職講座への参加率の向上

(オ) プレ就職講座の初回は、意義を伝えることができないまま実施されるため、前年度に比べて参加率が著しく低かった。また、12 月末のキャリアガイダンスⅡは、学生の気持ちが冬休みに入っているため、こちらも前年度に比べて参加率が著しく低かった。実施する内容や時期を再検討することが求められる。

5. キャリア支援センターとの連携・情報共有

(子・オ) 学科会議・コース会議と事前ミーティングの開催順序が一定せず、開催頻度に対して共有されるべき情報が一致しなかった。事前ミーティングの意義を含め、体制を再構築することが求められる。

(全) 学生の就職支援内容について、センターからの毎月の AAA 入力データの提供により学科コース内での定期的な情報共有は進んだが、教員からの情報提供は口頭やメールで行われることが多く、AAA への入力による情報提供は控えめである。

6. 課題のある学生、配慮の必要な学生への支援体制の強化

(オ) 他者と関わること、自己を調整することが苦手な学生は、1 名の専任教員から接触しても、良好な結果が得られなかった。他の専任教員を含め、複数の職員が関わることも求められる。

(介) 介護福祉士取得が困難、かつ対人援助職に向かない学生を早期に見極め、しかるべき対応を早期に行い、卒業後の進路の選択肢を広げる必要がある。

7. 卒業後の状況把握、支援

(子) 卒業生全体の相談件数は、昨年度（令和 6 年度 28 名のべ 35 件）に比べ、延べ件数が約 3 倍に増えている。私立から公立、および他の園への移動、他職種への転職等に向けて支援が求められている。

(オ)退職した専任教員のゼミ担当学生が知らぬ間に退職している事例もある。専任教員が退職した場合は、優先的に状況の把握が求められる。

(介)新任および勤務年数の少ない教員では、過去の卒業生について把握をしておらず、確認ができない施設もあったため、過去何年の学生までさかのぼって確認するのかなどを明確にし、意識的に確認していかなければ把握は困難である。

8. 外部機関との連携

(子)保育士確保及び保育者養成校への入学者促進は県内でも喫緊の課題である。

(オ)社会体験実習や業界研究セミナーで連携する事業所は多いものの、学生のニーズが変わりつつあり、入れ替えを検討しなければならない。

(介)今後、ジョブコーチ等の活用が見込まれる。

Ⅳ. 次年度取り組むべきこと

1. 学生の就活や働くことへの不安の緩和と、就活への早期の意識づけ

(子)現行の講座や授業を継続し、キャリア支援の領域から可能な働きかけを行う。保育職従事への不安の緩和については、授業・講座における質問への速やかな回答とフィードバック、卒業生や現場保育者との交流や情報交換の機会を継続する。

(オ)自身の担当授業「キャリアデザインⅠ」内で、人生における働くことの重要性を丁寧に説明し学生の理解を促し、良い仕事に就くには入学時から就活を意識する必要があることを、具体例等を交えながら丁寧に説明し、学生が理解して行動できるように努める。

(介)介護職以外を目指す学生に対しては、希望職種を早期に明確にする。

2. 個々の学生の進捗状況、ニーズ、状況に合わせた指導・支援の実施

(子)免許・資格を取得しない学生への支援について、早期から就職活動プランを立てて進めていけるように、ゼミ教員や関係部署との連携をもとに個別的継続的な支援を促進する。

(オ)多様な職種や職場に挑戦する心理的なハードルを下げる施策として、学内で実施する業界研究セミナーの事業所数を充実させる。

(介)これまでは、特養や老健、障害者施設等、規模の大きい施設への就職が主であったが、グループホームやデイなど学生の個性にあった介護施設の提案を行う。

3. 就職講座や授業、就活に必要な意識・スキルの支援

(子)キャリア支援センターや外部機関と連携し、現行の講座や授業を継続する。

(オ)社会体験実習の実習先を新たに開拓し、多様化する学生のニーズに応えるとともに、学べる職種や職場を拡張して動機付けを図る。

(介)引き続き、介護職の勤務する施設の種類および特色等を細やかに解説し職場選択の材料としてもらう。

4. 就職講座への参加率の向上

(オ) プレ就職講座は、SPI に続いて一般常識の模擬テストを実施していたが、心理的ハードルを下げるため、順序を入れ替える。また、実施の必要性が低い時期は開講を避け、参加率の向上を図る。

5. キャリア支援センターとの連携・情報共有

(子・オ) 事前ミーティング、委員会、学科コース会議の各場で情報共有や協議を、余裕を持って効果的に行えるようにする。事前ミーティングにおけるメールの活用、協議すべき内容（対象学生）の選択、職員ごとに紐付く事業内容を明確化し、学科コース・センター間の円滑な仲介等を試行する。

(全) 就職支援内容の情報共有方法について、AAA の活用も含めて周知を継続する。

6. 課題のある学生、配慮の必要な学生への支援体制の強化

(全) 授業や学生生活を通して散見される学生の状況や動向について、適時に学科コース会議や委員会前ミーティングで話題提供し、情報共有を図ること。

(オ) 学生相談室の体制が確立されたため、学生に学生相談室の存在を知らせつつ、必要に応じて専任教員から来室を促し、本人のニーズを把握することに努める。

(介) 介護福祉士取得が困難、かつ対人援助職に向かない学生を早期に見極め、学生相談室とも連携し必要な対応を早期に行い、特性に合った就労支援を行う。

7. 卒業後の状況把握、支援

(子) 課題の状況は、コロナ禍での進路選択や就職活動が影響していることも考えられるため、キャリア支援センターでの支援を継続するとともに、ゼミ教員や実習巡回担当教員等にも定期的に情報提供を行い、支援を推し進める必要がある。

(オ) ゼミ担当教員は積極的に把握するように努め、コース教員内で情報共有する。また、ゼミ担当教員が退職した後も、面識がある専任教員やセンター職員が関り、本学と関係を継続するように努める。

(介) 卒業後 3 年目など、どの時期の学生の状況を確認するのか、また、退職してしまった学生について、どのように支援していくのかなどについて、あらためてコースで検討を行う。

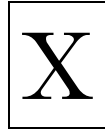
8. 外部機関との連携

(子) 県や社協、私幼協や私保連、連携 4 市との協議を重ね、協力体制を継続する。

(オ) 業界研究セミナーは、百五銀行・百五総合研究所の連携協定を活かし、業界研究セミナーの企業を大幅に入れ替えるとともに、事業所数を少しずつ増やし、学生のニーズに応える。

(介) 特別な支援が必要な学生について、ジョブコーチ等検討が必要な学生の就職についてはキャリア支援センターを通してハローワーク等と連携する。

以 上



図書委員会

年次報告書

委員長 大野 照文

I 令和6年度委員会運営体制

1. 委員と役割分担

委員長：大野照文、委員：伊藤拓也、江淵 剛、 東海林 藍、瀬古幸弘、
庶務担当：西尾綾

2. 予算

部署別予算		
	R 6	R 5
図書館	1,136,500	1,560,500
図書委員会	1,122,900	1,112,000
別枠	—	315,000

図書館資料費予算				
	R6	R 5	R4	R3
子ども学科	2,248,000	2,135,000	2,368,000	2,208,000
キャリア育成学科	1,616,000	1,721,000	1,901,000	1,864,000
合計	3,864,000	3,85,000	4,272,000	4,072,000

3. 委員会開催日程

第2回以降、前期は火曜日、後期は水曜日の、それぞれ1限目に開催。

第1回 4/10(水)9:00～、第2回 5/14(火)9:00～、第3回 6/11((火)9:00～、
第4回 7/23(火)9:00～、第5回 9/25(水)9:00～、第6回 11/6(水)9:00～、
第7回 12/4(水)9:00～、臨時第1回（紀要閲読報告会）日時未定、
第8回 1/15(水)9:00～、第9回 2/12(水)9:00～、第10回 3/5(水)9:00～

4. 図書委員会議事録：いずれも図書館館長室にて開催

第1回 図書委員会事項書 日時 令和6年4月10日(水) 9:00～

〈協議事項〉

- | | |
|----------------------------|------------|
| 1 令和6年度の課題について | |
| 2 令和6年度図書委員会の開催日程(案)について | 資料1 |
| 3 令和6年度図書委員会役割分担(案)について | 資料1～4 |
| 4 「高田短期大学通信」第59号について | 資料5～9、別紙 |
| 5 「図書館だより」第60号について | 資料10～14、別紙 |
| 6 令和6年度図書館メイトの活動について | 資料15～16 |
| 7 令和6年度図書館資料費配分方法の検討 | 資料17～24 |
| 8 私立短大東海・北陸地区図書館協議会事業計画(案) | 資料25～26 |
| 9 その他 | |

役割	主担当	副担当	事務主担当
短大紀要	大野	伊藤・江淵・東海林	瀬古
短大通信	伊藤		西尾
公開講座	東海林		瀬古
図書館だより	江淵		瀬古
創作作品展	江淵		西尾
図書館活性化(ラーニング・コモンズ、図書館メイト)	大野	伊藤・江淵・東海林	瀬古・西尾

〈報告事項〉

- | | |
|-------------------------------|------------|
| 1 令和6年度図書委員会の予算について | 資料27～28 |
| 2 令和6年度公開講座について | 資料29～35 |
| 3 令和6年度図書館公開講座について | 資料36～37、別紙 |
| 4 「高田短期大学紀要」第43号について | 資料38 |
| 5 非常勤講師への授業参考図書についてのアンケートについて | 資料39 |
| 6 「コミュニティ・カレッジ2024」について | 資料40～41、別紙 |
| 7 その他 | |

第2回 図書委員会事項書 日時 令和6年5月14日(火)9時～

〈協議事項〉

- | | | |
|---|----------------------------|---------|
| 1 | 令和6年度図書予算について | 資料 1～4 |
| | (ア) 推薦図書・テーマ図書 | |
| 2 | 令和6年度公開講座について | 資料 5～6 |
| 3 | 「高田短期大学紀要」第43号について | 資料 7～23 |
| 4 | 私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会総大会について | 資料なし |
| 5 | その他 | |
| | (ア) 図書委員会役割分担（副担当） | 資料 24 |

〈報告事項〉

- | | | |
|---|-------------------|----------|
| 1 | 図書館利用状況について（4月） | 資料 25～26 |
| 2 | 図書館メイトの活動について | 資料 27～28 |
| 3 | 「短大通信」について | 資料別紙 |
| 4 | 「図書館だより」について | 資料 29～30 |
| 5 | グループワークエリアの利用について | 資料 31～36 |
| 6 | その他 | 資料 37 |

第3回 図書委員会事項書日時 令和6年6月11日(火)9時～

〈協議事項〉

- | | | |
|---|----------------------|-----------|
| 1 | 創作作品展について | 資料 1～5、別紙 |
| 2 | 次年度外国雑誌について | 資料 6 |
| 3 | 書の購入について | |
| 4 | 図書館から学生への印刷物配布方法について | 資料なし |
| 5 | その他 | |

〈報告事項〉

- | | | |
|---|--------------------------|----------|
| 1 | 「図書館だより」について | 資料 7～8 |
| 2 | 公開講座について | 資料 9 |
| 3 | 図書館公開講座について | 資料 9 |
| 4 | 図書館利用状況について（5月） | 資料 10～11 |
| 5 | 図書館メイトの活動について | 資料 12 |
| 6 | 未返却者への対応について | 資料なし |
| 7 | 私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会幹事会報告 | 資料なし |
| 8 | その他 | 資料 13 |

第4回 図書委員会事項書日時 令和6年7月23日(火)9時～

〈協議事項〉

- | | |
|---------------------------|---------|
| 1 創作作品展、雑誌リサイクルについて | 資料 1、別紙 |
| 2 「高田短期大学通信」第 59 号の反省について | 資料 2-3 |
| 3 私短図協（東海・北陸地区）総大会について | 資料 4 |
| 4 その他 | |

〈報告事項〉

- | | |
|---------------------------|----------|
| 1 図書館利用状況について | 資料 5-6 |
| 2 「高田短期大学紀要」第 43 号について | 資料 7-11 |
| 3 「図書館だより」第 61 号の原稿依頼について | 資料 12-13 |
| 4 公開講座について | 資料 14-15 |
| 5 アカデミックセミナーについて | 資料 16-17 |
| 6 テーマ図書、推薦図書について | |
| 7 夏休みの長期貸出と開館予定について | 資料 18 |
| 8 図書館メイト活動報告 | 資料 19 |
| 9 その他 | |

第 5 回 図書委員会事項書 日時 令和 6 年 9 月 25 日(水) 9 : 00～

〈協議事項〉

- | | |
|---------------------------|------|
| 1 新書の購入について | 資料 1 |
| 2 創作作品展、雑誌リサイクルについて | 資料 2 |
| 3 次年度の「高田短期大学通信」について | 資料なし |
| 4 「短大紀要」著者抄録利用許諾（再許諾）について | 資料別紙 |
| 5 「ホンデリング」活動への参加について | 資料別紙 |
| 6 その他 | |

〈報告事項〉

- | | |
|-----------------------|-------------|
| 「高田短期大学紀要」第 43 号について | 資料 3～4 |
| 1 公開講座について | 資料 5～7 |
| 2 令和 7 年度講読の外国雑誌 | 資料なし |
| 3 図書館の利用状況（7～8 月）について | 資料 8～9 |
| 4 「図書館だより」（1 月発行）について | 資料 10～12 |
| 5 後期図書館メイトの活動 | 資料 13 |
| 6 研修報告について | 資料別紙, 14～18 |
| 7 その他 | |

第6回 図書委員会事項書日時 令和6年11月6日(水) 9:00～

〈協議事項〉

- | | |
|------------------|---------|
| 1 「短大紀要」第43号について | 資料1～9 |
| 2 令和7年度の公開講座について | 資料10～17 |
| 3 創作作品の投票結果について | 資料18～19 |

〈報告事項〉

- | | |
|------------------------|---------|
| 1 令和6年度の公開講座について | 資料20～30 |
| 2 「図書館だより」第61号について | 資料31～33 |
| 3 冬季休業中の開館について | 資料34 |
| 4 令和7年度講読の外国雑誌について | 資料なし |
| 5 図書館予算執行状況について | 資料35 |
| 6 図書館の利用状況について(9月～10月) | 資料36～37 |
| 7 図書館メイトの活動について | 資料なし |
| 8 その他 | 資料別紙 |

第7回 図書委員会事項書 日時 令和6年12月4日(水) 9:00～

〈協議事項〉

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1 「短大紀要」第43号について | 資料1～2 |
| 2 令和7年度予算案について | 資料なし |
| 3 令和7年度公開講座の計画について | 資料なし |
| 4 「本よもうねっとMIE」への会員登録について | 資料なし |
| 5 その他 | |

〈報告事項〉

- | | |
|--------------------|-------|
| 1 図書館利用状況について(11月) | 資料3～4 |
| 2 年度末の開館日程について | 資料5 |
| 3 その他 | |

第8回 図書委員会事項書日時 令和7年1月22日(水) 9:00～

〈協議事項〉

- | | |
|-------------------------|---------|
| 1 令和7年度「短大通信」のレイアウトについて | 資料別紙 |
| 2 図書予算の執行状況について | 資料1 |
| 3 令和7年度公開講座の計画について | 資料2 |
| 4 アカデミックセミナー2025について | 資料3～12 |
| 5 その他 | |
| (ア) 図書館メイト反省会 | 資料13～15 |

(イ) その他

〈報告事項〉

- | | |
|-------------------|----------|
| 1 令和7年度予算申請について | 資料 17～19 |
| 2 図書館利用状況について（1月） | 資料 20～21 |
| 3 紀要校正作業日程 | 資料 22 |
| 4 公開講座について | 資料 23～25 |
| 5 その他 | 資料 26 |

第9回 図書委員会事項書日時 令和7年2月12日(水) 9:00～

〈協議事項〉

- | | |
|------------------------------|---------|
| 1 『短大通信』の反省と来年度の準備について | 資料 1～5 |
| 2 『コミュニティカレッジ2025』スケジュールについて | 資料 6～7 |
| 3 2024年度の年次報告について | 資料なし |
| 4 図書予算の執行状況について | 資料 8～9 |
| 5 公開講座について | 資料 10～2 |
| 6 ホームページの年度末更新について | 資料 22 |
| 7 図書館ガイダンスについて | 資料 23 |
| 8 その他 | |

〈報告事項〉

- | | |
|--------------------------|----------|
| 1 「高田短期大学紀要」校正スケジュールについて | 資料 24～25 |
| 2 アカデミックセミナーについて | 資料 26 |
| 3 年度末の特別貸出について | 資料 27 |
| 4 図書館利用状況について（1月） | 資料 28～32 |
| 5 その他 | |

(ア) 私立短期大学図書館協議会

(イ) 本よもうねっと MIE（みえ読書活動推進ネットワーク）掲載情報募集

(ウ) その他 資料 33

第10回 図書委員会事項書日時 令和7年3月5日(水) 9:00～

〈協議事項〉

- | | |
|-----------------------------|---------|
| 1 次年度の図書館開館スケジュールについて | 資料別紙 1 |
| 2 令和7年度特別貸出スケジュールについて | 資料 1 |
| 3 新入生オリエンテーションについて | 資料別紙 2 |
| 4 「短大通信」第60号の紙面構成および執筆者について | 資料 2～5 |
| 5 令和7年度公開講座について | 資料 6～17 |

- 6 ホームページの年度末更新について 資料なし
- 7 蔵書点検の方法について 資料 18
- 8 その他
- 〈報告事項〉
- 1 図書館利用状況（4月～2月）について 資料 19～20
- 2 公開講座について 資料 21～23
- （ア）公開講座
- （イ）図書館公開講座
- 3 2024年度図書費執行報告について 資料 24
- 4 蔵書点検と臨時閉館について 資料なし
- 5 その他
- （ウ）6月認知症予防に関する展示
- （エ）私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会
- （オ）図書館メイトアンケート

II 成果

1. 選定図書に関すること

- 1) テーマ図書のテーマ及び配分は、図書委員会より各学科コースへ推薦を依頼。テーマ図書の締切は、10月末日とする。
- 2) 教員推薦図書予算に関しては、教員一人あたり 35,000 円（年間）とする。
以下のスケジュールで執行。
- 5月下旬 推薦図書予算通知
- 8月末 残高について7月末までの執行状況を8月末までに通知
- 10月末 9月末までの執行状況を10月末までに通知
- 12月13日 推薦図書最終締切
- 3) 高額な図書や著作権処理済みDVDのため、複数の教員の予算枠を合算して使用可であることを告知した。

2. 令和6年度受入冊数状況

蔵書の状況は、次の通りである（図書館以外の保管図書を除く）。

和書(冊)	洋書(冊)	雑誌(種)	視聴覚資料 (点)
51,290	2,641	520	1,879

令和6年度の受け入れ冊数は、図書 626 件、絵本 68 件、視聴覚資料 26 件、合計 720

件であった。

	和書（冊）	洋書（冊）	視聴覚資料（点）	合計
R6	439	0	21	460
R5	694	0	26	720
R4	718	2	29	749
R3	859	0	19	859
R2	736	1	32	769
R1	663	1	54	718
H30	949	12	49	1010
H29	913	5	31	949
H28	726	0	37	763
H27	904	0	13	917
H26	626	0	49	675
H25	863	0	24	887

年間受け入れ雑誌数の推移は次の通りである。

	和雑誌	洋雑誌	白書等	合計
R6	84	6	30	120
R5	87	7	33	127
R4	86	7	31	124
R3	84	8	33	125
R2	87	8	38	133

3. 利用状況

令和6年度の図書利用状況は以下の通りである。

【図書貸出統計】(のべ貸出冊数)

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R6計	当一 り人	R5 3月末	R5 3月
子ども学科1年	145	33	25	71	42	4	17	16	197	44	93	78	1	621	4.3	762	0
子ども学科2年	136	47	29	7	89	59	9	148	74	16	22	2	0	502	3.7	888	0
キャリア育成学科 オフィスワークコース1年	70	30	61	20	2	0	0	13	11	18	2	1	3	161	2.3	116	0
キャリア育成学科 オフィスワークコース2年	59	0	0	3	3	3	0	4	12	17	2	0	0	44	0.7	90	0
キャリア育成学科 介護福祉コース1年	41	34	47	8	0	0	2	1	1	2	1	0	0	96	2.3	73	4
キャリア育成学科 介護福祉コース2年	32	9	6	3	10	0	3	10	9	4	3	3	0	60	1.9	22	0
合計	483	153	168	112	146	66	31	192	304	101	123	84	4	1484	3.1	1951	4

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R6計	当一 り人	R5 計	R5 3月
教職員	130	97	89	128	96	53	56	63	104	119	108	61	34	1008	7.8	744	26

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R6計	当一 り人	R5 計	R5 3月
一般利用者(団体含む)		11	16	25	20	13	26	26	22	16	24	29	13	241		139	9

【未登録図書貸出統計】(のべ貸出冊数) ※未登録図書貸出統計は、令和4年6月から開始(基準は図書返却時)。

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R6計	当一 り人	R5 計	R5 3月
子ども学科1年	145	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.0	3	0
子ども学科2年	136	2	5	0	15	0	0	0	0	2	1	0	0	25	0.2	10	0
キャリア育成学科 オフィスワークコース1年	70	0	7	4	1	0	4	8	18	0	5	7	2	56	0.8	9	0
キャリア育成学科 オフィスワークコース2年	59	0	1	4	2	0	3	0	1	4	2	2	0	19	0.3	16	0
キャリア育成学科 介護福祉コース1年	41	0	0	0	1	0	0	5	3	0	2	0	2	13	0.3	7	0
キャリア育成学科 介護福祉コース2年	32	5	2	5	5	0	3	5	3	3	6	0	0	37	1.2	21	0
合計	483	7	15	13	24	0	10	18	26	9	16	9	4	151	0.3	66	0

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R6計	当一 り人	R5 計	R5 3月
教職員	131	3	6	7	15	0	4	2	3	6	8	3	0	57	0.4	42	2

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R6計	当一 り人	R5 計	R5 3月
一般利用者(団体含む)		0	0	1	0	0	1	4	4	2	2	1	1	16		3	0

【入館者数】(のべ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R6計	当り人	R5計	R5 3月	R1 3月
全体	1846	1864	2040	2461	546	898	1905	1737	1397	1450	1011	774	17929		19590	633	710
うち一般利用者	5	4	7	4	7	8	6	6	4	6	11	7	75		65	1	3

【ラーニング・コモンズの利用】(利用回数) ※ラーニング・コモンズの利用統計は、平成25年10月から開始。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R6計	当り人	R5計	R5 3月	R1 3月
GW エリア	授業、ゼミ、補講等	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	4		19	0	0
	クラブ、自治会等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		2	0	0
	会議・学内講座等	1	1	2	2	0	1	0	0	1	1	1	10		12	1	2
	説明会・公開講座等	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	5		8	0	0
プレゼン	授業等(自習・応接含む)	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2				0
ラウンジ	モニター利用	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		9	1	0
合計※		1	3	6	4	0	1	1	1	2	2	1	21	0	41	2	2

※ GWエリアおよびプレゼンテーションエリア利用の合計。

付記

” 〈4月〉

・図書貸出：実習を控え子ども学科の利用が目だつ。介護福祉コースも一定の利用があった。

・ラーニング・コモンズの利用：グループワークエリアは、図書館メイトミーティングで1回、仏教教育研究センター定例研究会で1回、同センターの書類発送作業で1回、それぞれ利用があった。同センターの発送作業においては、高田高等学校仏青インターアクト部の顧問1名と部員4名が参加した。プレゼンテーションエリアは今年度より学監室として利用されている。

・学生のDVDの利用は1件だった。

・タブレットPC貸出は今年度より廃止となった。

※前年度6月より未登録図書の統計を開始している。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のことである。処理の都合上、図書が返却された日を基準とした統計となっている。

”

” 〈5月〉

・図書貸出：先月に続いて子ども学科の利用は多いが、ブックレビューの課題が出されたこともあり、オフィスワークおよび介護福祉コース1年生の利用が急増した。特にオフィスワークコース1年生は、1人当たり1.4冊の貸し出しとなっている。

・ラーニング・コモンズの利用：グループワークエリアは、図書館ガイダンスで4回、

図書館メイトミーティングで1回、公開講座広報紙発送準備で1回、それぞれ利用があった。プレゼンテーションエリアは今年度より学監室として利用されている。

- ・学生のDVDの利用は1件だった。
- ・タブレットPC貸出は今年度より廃止となった。

※前年度6月より未登録図書の統計を開始している。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のことである。処理の都合上、図書が返却された日を基準とした統計となっている。”

”〈6月〉

- ・図書貸出：子ども学科の特に1年生の利用が目立つ。未登録図書はキャリア育成学科の数人が繰り返し利用している。
- ・ラーニング・コモンズの利用：グループワークエリアは、授業で10回、図書館ガイダンスで1回、介護福祉コースによる高校生への模擬授業で1回、介護福祉研究センター定例研究会で1回、それぞれ利用があった。プレゼンテーションエリアは今年度より学監室として利用されている。
- ・学生のDVDの利用は2件だった。
- ・タブレットPC貸出は今年度より廃止となった。

※前年度6月より未登録図書の統計を開始している。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のことである。処理の都合上、図書が返却された日を基準とした統計となっている。

”

”〈7月〉

- ・図書貸出冊数：子ども学科の利用、特に2年生の利用が活発であった。未登録図書はキャリア育成学科の数人が精力的に利用している。
- ・ラーニング・コモンズの利用：グループワークエリアは育児文化研究センターおやこひろばで1回利用があった。
- ・学生のDVDの利用は3件だった。
- ・1階ラウンジエリアにブルーレイレコーダー1台が入替納入された。1階受付カウンターのバーコードリーダー2台の入替があった。

※前年度6月より未登録図書の統計を開始している。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のことである。処理の都合上、図書が返却された日を基準とした統計となっている。”

”〈8月〉

- ・図書貸出冊数：夏休み期間に入り、利用は全体的に減少した。実習の関係もあり、子ども学科2年生の利用は先月を上回った。未登録図書の学生利用はなかった。
- ・ラーニング・コモンズの利用：グループワークエリアの多人数での利用はなかった。
- ・学生のDVDの利用はなかった。

- ・図書館システムバージョンアップを業者によるリモート作業で行った（8月17日）。
- ・1階ラウンジェリアのビデオデッキ1台を撤去し、作業室にて保管することになった（8月23日）。

※前年度6月より未登録図書の統計を開始している。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のことである。処理の都合上、図書が返却された日を基準とした統計となっている。”

”<9月>

- ・図書貸出冊数：夏休み期間が大半であったため、利用は全体的に少なかった。
- ・ラーニング・コモンズの利用：グループワークエリアは、図書館主催の公開講座で1回利用があった。
- ・学生のDVDの利用はなかった。
- ・1日は私立短期大学図書館協議会東海北陸地区総大会に推薦幹事校として出席するため、臨時閉館とした。
- ・9月22日までは夏休み期間のため16時30分閉館であったが、週明け25日以降は閉館時間が17時30分となっている。

※前年度6月より未登録図書の統計を開始している。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のことである。処理の都合上、図書が返却された日を基準とした統計となっている。

”

”<10月>

- ・図書貸出冊数：新学期が始まり、利用者数、貸し出し冊数、ともに増加した。実習の関係だと思われるが、とりわけ子ども学科2年の絵本および紙芝居の貸出冊数が例年以上に大幅増加した。
- ・ラーニング・コモンズの利用：グループワークエリアは、ゼミ単位の図書館ガイダンス、ゼミ授業、留学生2年生支援ミーティングで、それぞれ1回利用があった。
- ・学生のDVDの利用は1件だった。

※前年度6月より未登録図書の統計を開始している。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のことである。処理の都合上、図書が返却された日を基準とした統計となっている。”

”<11月>

- ・図書貸出冊数：子ども学科2年は激減した。子ども学科1年・オフィスワークコース2年は大きく増加した。一般利用者に関しては清掃担当の女性スタッフ2名が意欲的に利用している。
- ・ラーニング・コモンズの利用：グループワークエリアは、授業で1回、創作作品展表彰式で1回、図書館主催の公開講座で1回、それぞれ利用があった。
- ・学生のDVDの利用はなかった。

・これまで主にタブレットとして利用してきた PC が古くなったため、その収納キャビネットとともに廃棄処分とした（12 月 7 日）。

※前年度 6 月より未登録図書の統計を開始している。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のことである。処理の都合上、図書が返却された日を基準とした統計となっている。”

”〈12 月〉

・図書貸出冊数：子ども学科 2 年と介護コースは横這いだが、他は激減した。未登録図書は国家資格合格を目指す介護コースの留学生 2 名が 1 冊ずつ利用した。

・ラーニング・コモンズの利用：グループワークエリアは、高校生対象の説明会で 1 回、高校生対象の特別授業で 1 回、入試広報課の写真撮影で 2 回、それぞれ利用があった。

・学生の DVD の利用はなかった。

※前年度 6 月より未登録図書の統計を開始している。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のことである。処理の都合上、図書が返却された日を基準とした統計となっている。

”

”〈1 月〉

・図書貸出冊数：子ども学科、特に 1 年生は目立って増加した。介護コースは引き続き一定の利用があった。オフィスワークコースの利用はなかった。学生の未登録図書貸し出しはなかった。

・ラーニング・コモンズの利用：グループワークエリアは、授業で 1 回、仏教教育研究センター研究会で 1 回、それぞれ利用があった。

・学生の DVD の利用はなかった。

・業務用エレベーター利用時に異音がするため、緊急点検を依頼した。（1 月 5 日）

・1 階作業室の裁断機メンテナンスを行った。（1 月 23 日～29 日）

・未返却の図書がある 2 年生学生に図書返却督促状を配布した。（1 月 31 日）

※前年度 6 月より未登録図書の統計を開始している。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のことである。処理の都合上、図書が返却された日を基準とした統計となっている。”

”〈2 月〉

・図書貸出冊数：子ども学科 1 年生は実習の関係で利用が目立った。オフィスワークコース・介護福祉コースの利用はなかった。学生の未登録図書貸し出しは、国家試験合格を目指す介護福祉コース 2 年の留学生 1 名の利用が複数回あった。

ラーニング・コモンズの利用：グループワークエリアは、子ども学科 2 年の学生による、点字の書き方体験会で 1 回、図書館主催公開講座で 1 回、仏教教育研究センター研究会で 1 回、介護福祉コース教員が参加しての FM 三重番組収録のために 1 回、それぞれ利

用があった。

- ・学生の DVD の利用はなかった。
- ・図書館利用者向けの印刷複写機が納入された。設置場所が確定していないため、2 号館 1 階の印刷室に仮置きされている。(2 月 28 日)

※前年度 6 月より未登録図書の統計を開始している。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のことである。処理の都合上、図書が返却された日を基準とした統計となっている。

”

” 〈3 月〉

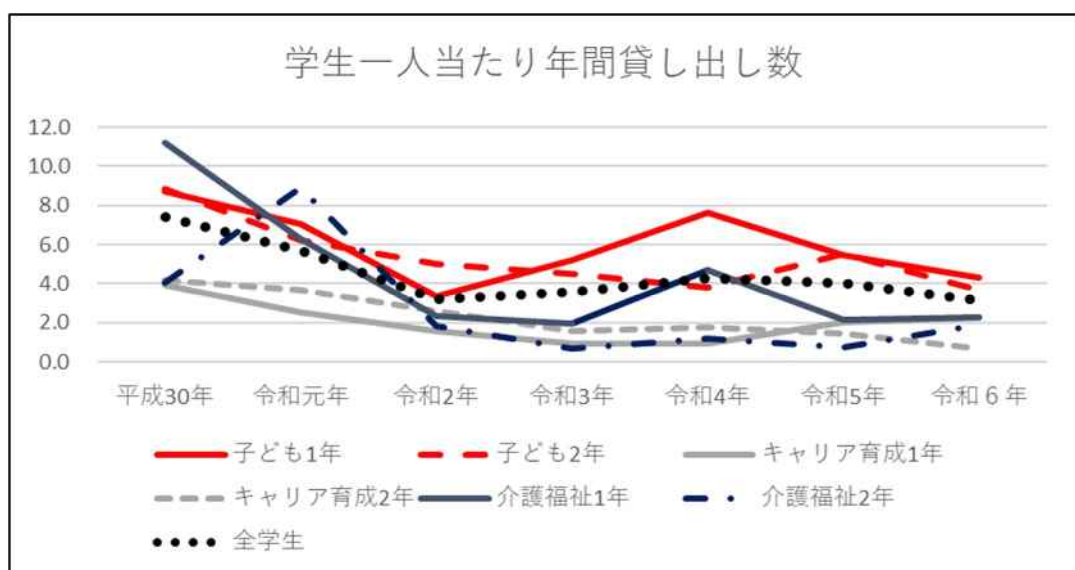
- ・図書貸出：年度末となり貸出よりも返却の利用が多くなった。
- ・ラーニング・コモンズの利用：グループワークエリアは、学生自治会が謝恩会のための動画撮影で 1 回、仏教教育研究センター研究会のため 1 回、高田学会のために 1 回、それぞれ利用があった。
- ・学生の DVD の利用は 0 件だった。
- ・3 月 17 日は卒業式のため全日閉館とした。
- ・感染症対策関連の貼り紙を撤去した。また閲覧室座席を従来の数に戻した。(3 月 22 日)

※今年度 6 月より未登録図書の統計を開始している。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のことである。処理の都合上、図書が返却された日を基準とした統計となっている。

4. 学生の図書利用の経年変化と課題

学生の図書貸出冊数の推移									
			平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
子ども	1 年	貸出冊数	1397	878	437	999	1212	762	621
		学生人数	160	124	131	191	159	139	145
		一人当たり	8.7	7.1	3.3	5.2	7.6	5.5	4.3
	2 年	貸出冊数	1421	995	589	587	731	888	502
		学生人数	161	159	118	130	191	160	136
		一人当たり	8.8	6.3	5.0	4.5	3.8	5.6	3.7
キャリア育成	1 年	貸出冊数	285	163	107	65	55	116	161
		学生人数	72	64	69	71	61	58	70
		一人当たり	4.0	2.5	1.6	0.9	0.9	2.0	2.3
	2 年	貸出冊数	251	255	156	107	121	90	44
		学生人数	60	69	61	68	69	62	59
		一人当たり	4.2	3.7	2.6	1.6	1.8	1.5	0.7
介護福祉	1 年	貸出冊数	202	202	61	47	141	73	96
		学生人数	18	32	26	24	30	34	41
		一人当たり	11.2	6.3	2.3	2.0	4.7	2.1	2.3
	2 年	貸出冊数	97	152	31	11	29	22	60
		学生人数	24	17	17	17	24	29	32
		一人当たり	4.0	8.9	1.8	0.6	1.2	0.8	1.9
全学生	貸出冊数	3653	2645	1381	1816	2289	1951	1484	
	学生人数	493	466	436	509	534	482	483	
	一人当たり	7.4	5.7	3.2	3.6	4.3	4.0	3.1	

学生一人当たり年間貸し出し数							
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
子ども1年	8.7	7.1	3.3	5.2	7.6	5.5	4.3
子ども2年	8.8	6.3	5.0	4.5	3.8	5.6	3.7
キャリア育成1年	4.0	2.5	1.6	0.9	0.9	2.0	2.3
キャリア育成2年	4.2	3.7	2.6	1.6	1.8	1.5	0.7
介護福祉1年	11.2	6.3	2.3	2.0	4.7	2.1	2.3
介護福祉2年	4.0	8.9	1.8	0.6	1.2	0.8	1.9
全学生	7.4	5.7	3.2	3.6	4.3	4.0	3.1



学生一人当たりの年間貸し出し数は、年を追うごとに減少している。令和2年頃から令和3年にかけてはコロナ禍の下にあったが、前後の傾向からみると、その影響は顕著ではなく、むしろ永年の傾向としては、学生の図書利用は減少している。今後、どのような要因からこのような傾向が生まれているのか、調査し、必要に応じて学生の図書利用をさらに積極的に呼びかける必要があると考えられる。

5. 図書館メイトの活動

(1) 活動実績

人数 8名 (2025年3月7日時点)

内訳 子ども学科1年生が7名、オフィスワークコース2年生が1名

概要 図書館メイトの活動は、以下の通り。

月	内容
4月	・募集開始
5月	・ミーティング ・展示コーナーづくり「映像化された作品」
6月	・本の整理
7月	・ミーティング ・本の装備、修理
9月	・ミーティング
10月	・雑誌リサイクルのための雑誌バックナンバー整理 ・「年齢別絵本・遊びの本」展示
1月	・反省会

*今年度は、8月選書ツアーの希望者がいなかったため実施しなかった。

(2) 図書館メイトアンケート

8人中4人から回答があった(3月7日時点)。

「参加のきっかけ」(複数回答可)

- ・ 図書委員をやっていたから(2)
 - ・ 課題であるボランティア活動の一つとして(3)
 - ・ 読書や図書館が好きだから(4)
 - ・ 図書館の仕事に興味があったから(1)
- 活動の頻度は「やや少ない」が4名だった。

活動しやすい時期

- ・ 4月～5月頃実習と被ってない時期(1)

図書館メイトをやってみた感想

- ・ 新しい本にシールを貼る作業や展示を考えるのが楽しかった
- ・ 活動時間をみんなで合わせることが出来るように来年の活動日は早めに決めたら集まりやすいかなと思いました。
- ・ 本についてたくさんしれたり本が好きな仲間と楽しく活動できたり、先輩たちと交流をしてみても話を聞くことがとても楽しいです。これからも行ける範囲で参加したいです。
- ・ 時間がなかなか合わず、あまり活動に参加することができなかったが楽しいことばかりだった。
- ・ 絵本や小説が好きな仲間と仲良くなれる機会になったのでとても良かったです。
- ・ 本の整理やカバーをつけるのも仲間と楽しく取り組みました。

今後の活動について

- ・ 壁面づくり
- ・ 一人ひとりのおすすめ本コーナーをつくる(月によって変える)
- ・ 他の図書館などに行ってボランティアをしたいです。
- ・ 本のラミネート、整理
- ・ 絵本や小説の紹介をするのが良いと思いました。

図書館に希望する本

- ・ 初心者向けのピアノの本
- ・ Cohさんのエッセイ本や住野よるさんの本がとても好きなため置いてくれると他の方に広まっていくと思うのであったらいいと思います。
- ・ 季節の食材を使った焼き菓子等のレシピ本

- ・ ミステリー小説

図書館にあったらよいと思うサービス

- ・ 特にありません
- ・ 本を傷つけないためにブックカバーなどが必要だと感じました。
- ・ 学生証以外での本人確認ができると良いと思いました。

創作作品展について

- ・ 作品の自由度が高くて見ていて楽しかったです。
- ・ このような作品もあると参考になったり先輩の授業が分かる機会があるため勉強になります。
- ・ 個性にあふれたものを学年問わずに色々見ることができるので素敵だと思った。
保育教材を出してもらうものは、手芸系や工作系等ジャンル分けをして簡単な見本をそえて掲示募集したら、集まりやすいかと思った。
- ・ さまざまな作品から良い刺激をもらえるので良いと思いました。

図書館にあったらよいと思う DVD

- ・ ダーウィンが来た の劇場版シリーズ？
- ・ 小説を元にした、ドラマや映画、アニメ

(3) まとめ

図書館メイトアンケートでは、やってみた感想としてグループ活動の楽しさをあげる声が複数あったが今年度は活動が少なかったため、来年度はグループ活動の機会を増やしていきたい。今後の活動、創作作品展についても学生生活の中で感じたことをもとに考えを記入してくれているので、グループで日を合わせるのが難しいが、学生のアイデアを活かす機会をつくりたい。

6. 図書展示

2024 年 4 月～2025 年 3 月の図書展示

時期	展示テーマ
4 月	新着図書、「新たな一歩を踏み出すあなたに」、「『話題の本』読んでみませんか」

5 月	新着図書、「追悼さとうわきこさん」、「コミュニケーションのための『話す』『書く』」、「映像化された作品」
6 月	新着図書、「世界遺産 20 周年 熊野古道 身近に行ける世界遺産」(三重県内図書館連携展示)、「ブックレビューで紹介された本」
7 月	新着図書、「図書館だより掲載本」
8 月	新着図書、「創作作品展」
9 月	新着図書
10 月	新着図書、「年齢別絵本・遊びの本」「図書館公開講座 柳宗悦」
11 月	新着図書、「がんを知ろう、相談しよう」(三重県内図書館連携展示)、「やまわきゆりこさんの本」「せなけいこさんの本」「図書館公開講座 伊勢物語」「寒い冬のゆったり手づくり」「解いて、読んで、考える」
12 月	新着図書、「谷川俊太郎さんの本」「2024 年よく借りられた本」「2024 年ベストセラー本」
1 月	新着図書、「図書館だより掲載本」「へびと十二支の絵本」「資格問題集」「年齢別遊びの本・絵本ガイド」 「本の帯でお知らせする新しく入った本（本の帯のみ掲示）」
2 月	新着図書、「図書館で読める漫画特集」「俳句の本」
3 月	新着図書、「卒業・進級おめでとうございます」「図書館公開講座 バルバラ」

- ・以上の他に、1F 絵本コーナーで季節の絵本を随時入替展示している。
- ・7 月からシラバスに授業参考図書として掲載がある本を集めて授業参考図書コーナーを設置した。

7. 雑誌リサイクルの実施

10 月 14 日～20 日に実施した。14 日～18 日は図書館前、高短祭の 19 日、20 日は 2 号館 1 階カフェテリアで開催した。雑誌整理作業には図書館メイト学生さんにも協力していただいた。毎年行っているが、まだあまり学生に伝わっていないと思われるため、もっと広報していきたい。



Ⅲ 公開講座

1. 2024 年度 高田短期大学公開講座

(1) 広報について

公開講座の広報を下記のとおり行った。

1) 広報のための印刷物および発行部数

公開講座のチラシを 2,146 部、コミュニティカレッジパンフレットを 2,550 部発行した。

2) 配布先

新聞折り込み、後援依頼先や公民館、教育委員会事務所、芸濃総合文化センター、生涯学習センター、近隣の図書館、近隣の銀行、高田関係施設、学苑関係、県内大学、昨年度の受講者、教職員、教員免許講習、短大の研究センター、高校訪問・来訪、理事会、同窓会、企業、みえアカデミックセミナー等。

(2) 2024 年度高田短期大学公開講座

2024 年度高田短期大学公開講座を 8 回、図書館講座（全 3 回）を企画したが、8 月 31 日の公開講座のみ台風の影響で中止となった。

【講座 1】テーマ 「ペーパークイリングで絵画を描こう」

（講師） 亀澤 朋恵（子ども学科講師）

（実施日） 8 月 4 日（日）

（時間） 13:00～14:30

（場所） 本学造形演習室

（受講者数） 8 名

【講座 2】テーマ 「Excel で『家計分析のための家計簿づくり』体験。PTA, 町内会などの会計も」

（講師） 鷲尾 敦（キャリア育成学科特任教授）

（実施日） 9 月 14 日（土）

（時間） 13:30～16:30

（場所） 本学 PC 教室

（受講者数） 28 名

【講座 3】テーマ 「自分や家族が認知症になっても安心して暮らすために」

(講師) 中川 千代 (キャリア育成学科准教授)

(実施日) 10 月 26 日 (土)

(時間) 13:30～15:30

(場所) 223 教室

(受講者数) 32 名

【講座 4】テーマ 「金融・証券に関する個人所得課税の動向①

— 新 NISA (少額投資非課税制度) の有利・不利 —」

(講師) 伊東 秀幸 (キャリア育成学科助教)

(実施日) 8 月 31 日 (土)

(時間) 13:30～15:00

(場所) 本学大講義室

※台風のため中止

【講座 5】テーマ 「金融・証券に関する個人所得課税の動向②

— iDeCo (個人型確定拠出年金) の有利・不利 —」

(講師) 伊東 秀幸 (キャリア育成学科助教)

(実施日) 9 月 29 日 (日)

(時間) 13:30～15:00

(場所) 本学大講義室

(受講者数) 20 名

【講座 6】テーマ 「貝殻で頭の柔軟体操」(好奇心講座その 1)

(講師) 大野 照文 (子ども学科特任教授)

(実施日) 11 月 9 日 (土)

(時間) 13:30～15:00 (質疑応答を含む)

(場所) 本学大講義室

(受講者数) 16 名

【講座 7】テーマ 「公德心も利己主義も根は同じ？」(好奇心講座その 2)

(講師) 大野 照文 (子ども学科特任教授)

(実施日) 12 月 7 日 (土)

(時間) 13:30～15:00 (質疑応答を含む)

(場所) 本学大講義室

(受講者数) 17 名

【講座 8】テーマ 「三葉虫を調べよう」(好奇心講座その 3)

(講師) 大野 照文 (子ども学科特任教授)

(実施日) 2 月 15 日 (土)

(時間) 13:30～15:00 (質疑応答を含む)

(場所) 本学大講義室

(受講者数) 10 名

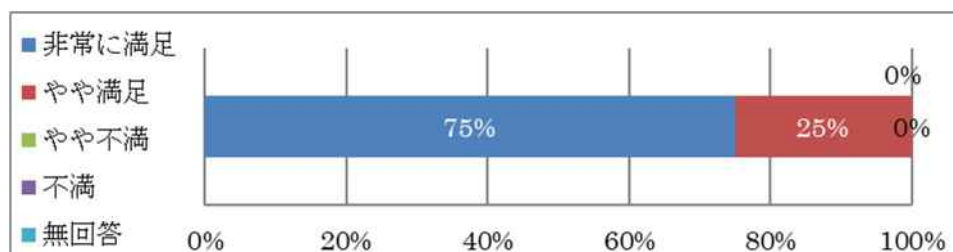
(3) 公開講座アンケート集計

公開講座アンケートについて、回答がえられたものについての集計結果は以下のとおりである。

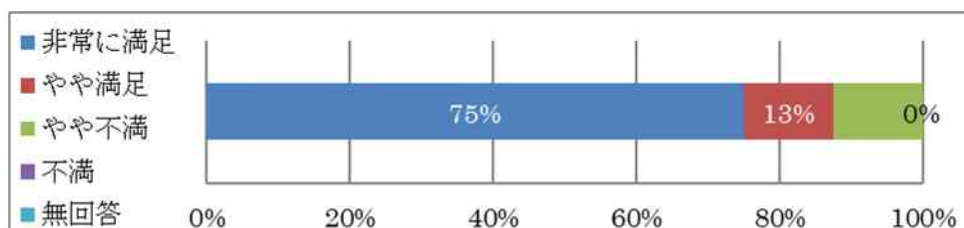
各講座の内容についての回答データを下記に添付する。

公開講座 1「ペーパークイリングで絵画を描こう」アンケート集計結果

回答者 8 名 (受講者 8 名)

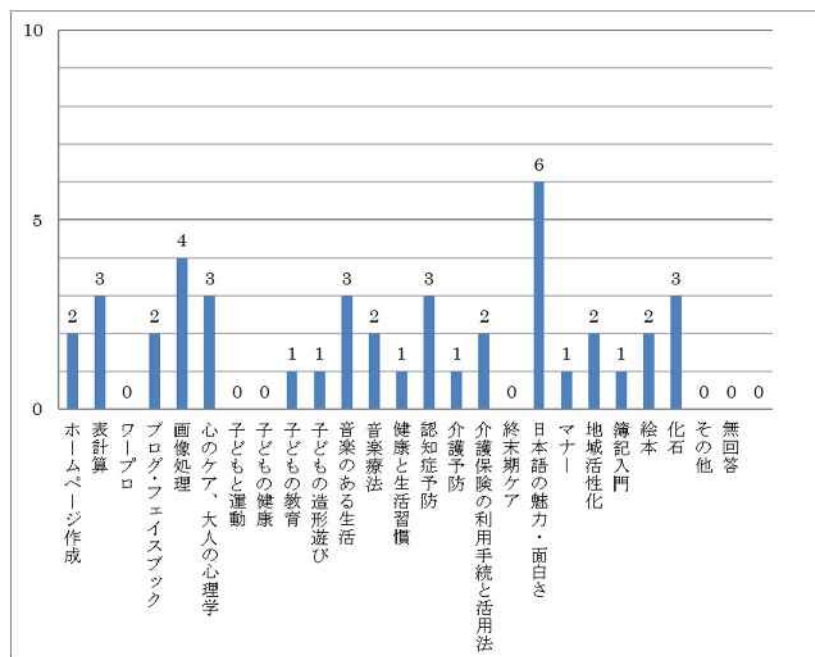


質問 1 「講座の内容はいかがでしたか？」

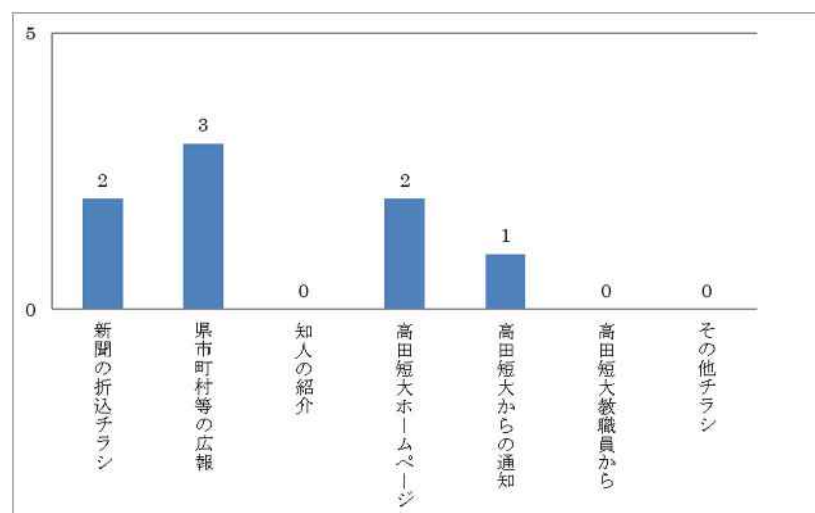


質問 2 「会場の広さ、会場の機器や備品はいかがでしたか？」

質問3 「今後、高田短期大学公開講座において希望されるものを選んで下さい」



質問4 「公開講座を何でお知りになりましたか」



希望する講座について
(回答なし)

どこで講座を知ったか
(回答なし)

講座や会場について

- ・のりがぜんぜんくっつかない。
- ・ウェットティッシュなどがあると良かった。

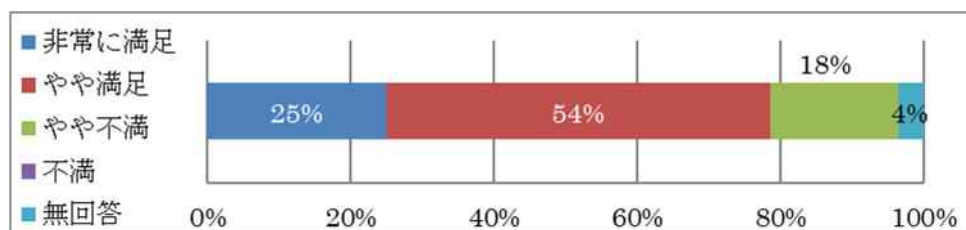
その他意見

- ・少し時間が足りなかった。楽しかった。
- ・とても楽しかったです。また参加したいです。

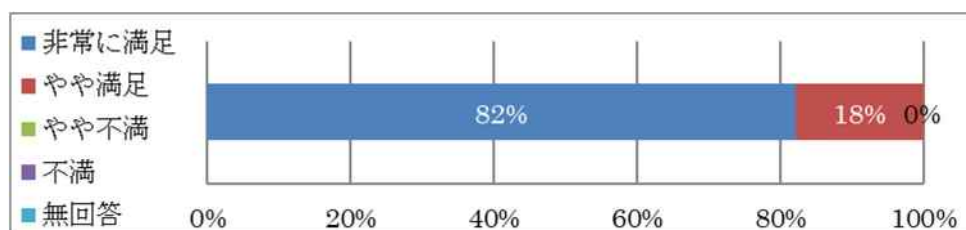
公開講座2「Excelで『家計分析のための家計簿づくり体験。PTA, 町内会などの会計も』」アンケート集計結果

回答者 28名（受講者28名）

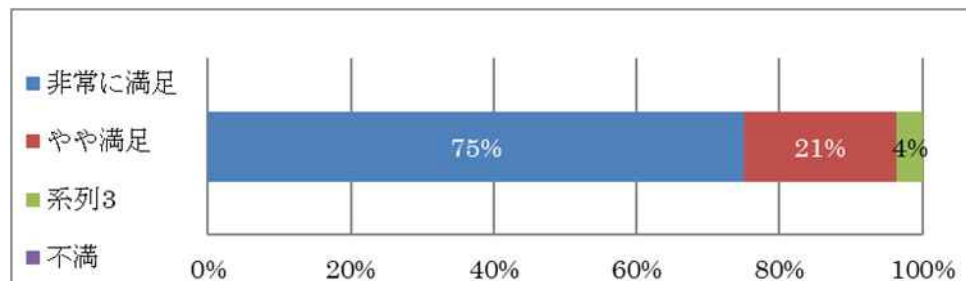
質問1 「講座の内容はいかがでしたか？」



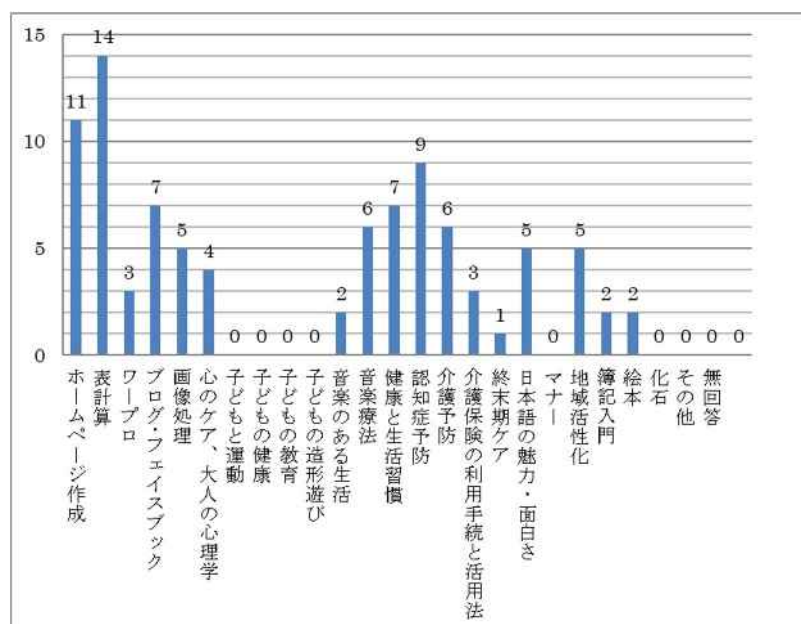
質問2 「会場の広さ、会場の機器や備品はいかがでしたか？」



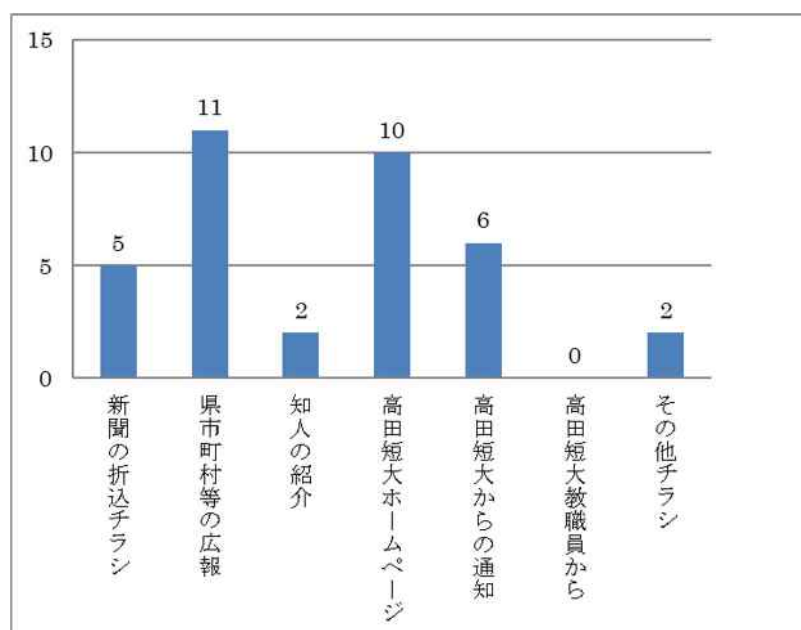
質問3 「アシスタントの対応はいかがでしたか？」（系列3＝不満）



質問 4 「今後、高田短期大学公開講座において希望されるものを選んで下さい」



質問 5 「公開講座を何でお知りになりましたか」



希望する講座について

(回答なし)

どこで講座を知ったか

- ・新聞・市立図書館・中央公民館
- ・宗務院

講座や会場について

- ・私には難しかったです。
- ・自分自身の力のなさを痛感しました。
- ・案内文書に「USB メモリー持参」と明記してほしい。
- ・しんせつに教えて頂きました。
- ・又このような機会を設けてください。
- ・時間がたりなかった。
- ・内容が非常に良いが、エクセルの使い方が（基本的な）分からない人にあわせたため、大切な所まで学習が進まなかったように思う。仕方ない面もありますが…。
- ・アシスタントの声がザワザワして、講師の説明が頭に入ってこなかった。同時進行ではなく、何とかしていただけると良かった。
- ・程度が高いうえ内容が多すぎます。
- ・内容をもっとへらし、数字も 100 までとして、コマンド(=SUM E5:E:9)など見にくいので、ペースを落として受講者に合わせてほしい。
- ・受講者のレベルがまちまちで、進むスピードが遅く感じてしまった。もう少しグラフまで学びたいと思いました。
- ・もう少し人数を少なくして、確実に作業ができるまで教えていただけると良かった。
- ・Excel 初心者の公開講座ではないと案内されているにもかかわらず、進行を妨げる受講者が参加されるのが残念。
- ・クーラー寒かったです。

その他意見

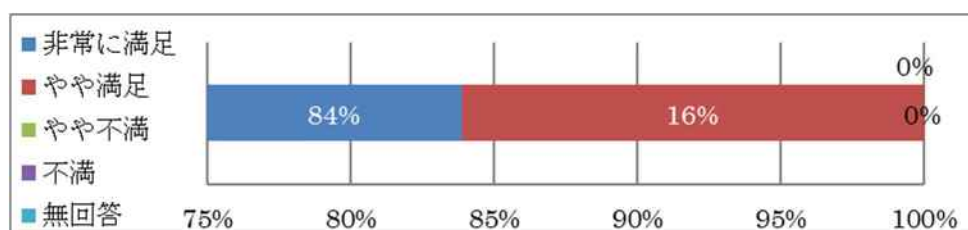
- ・アシスタントさんへ。とてもやさしく対応してくれてありがとう。
- ・出来れば、アシスタントの方がもう少し人数的に多いと助かりますが…。
- ・2名の女子と男の子は、本当に助けて頂きありがとうございました。

公開講座 3「自分や家族が認知症になっても安心して暮らすために」

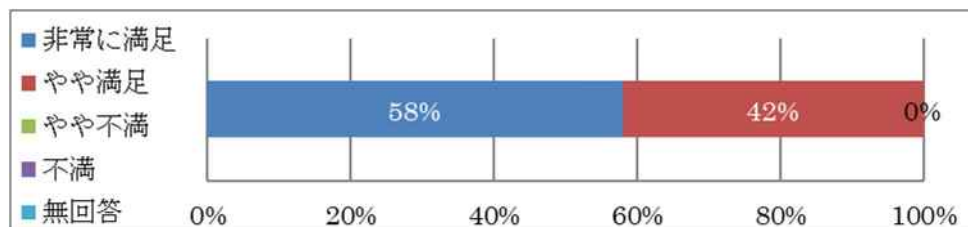
アンケート集計結果

回答者 31 名（受講者 32 名）

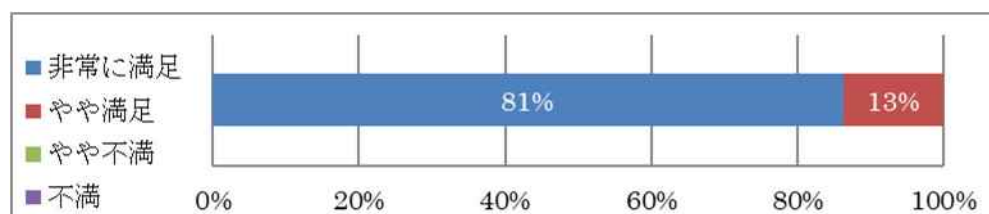
質問 1 「講座の内容はいかがでしたか？」



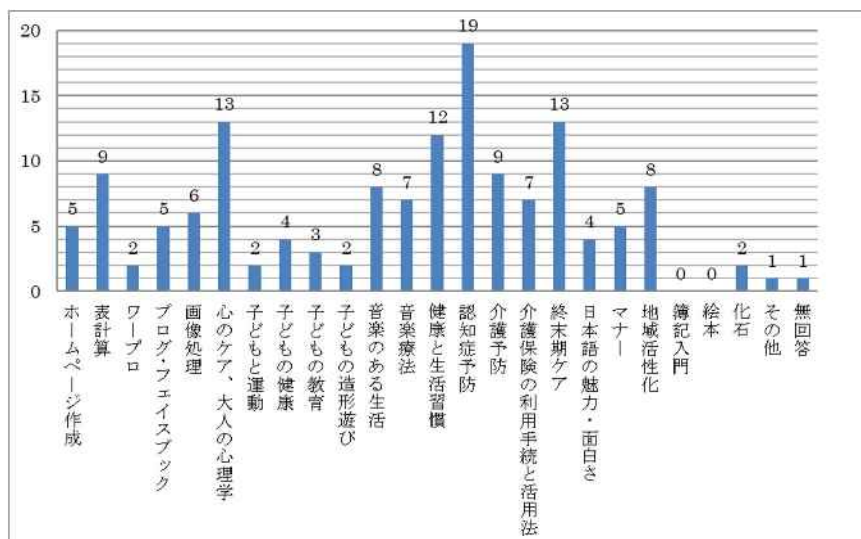
質問 2 「会場の広さ、会場の機器や備品はいかがでしたか？」



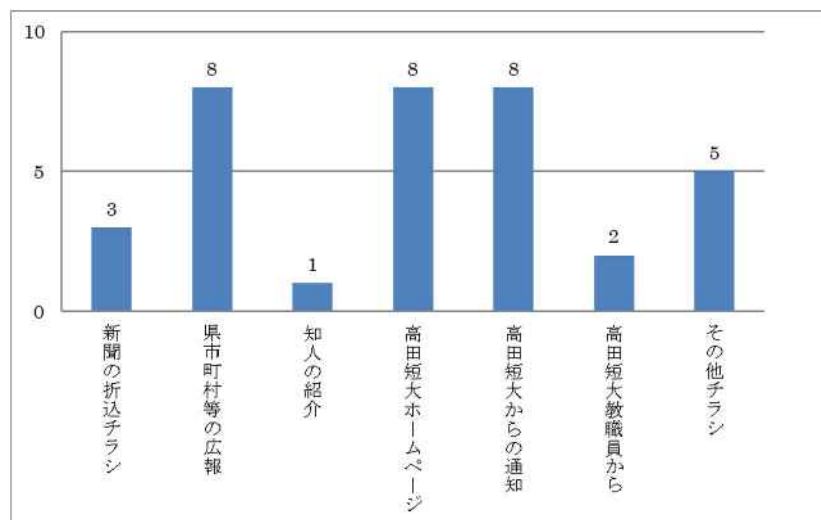
質問 3 「アシスタントの対応はいかがでしたか？」



質問 4 「今後、高田短期大学公開講座において希望されるものを選んで下さい」



質問 5 「公開講座を何でお知りになりましたか」



希望する講座について

- ・人口減少(1)
- ・認知症基本法(1)

どこで講座を知ったか

- ・県総合文化センター(2)
- ・市立河芸図書館
- ・市立図書館・公民館

講座や会場について

- ・折り紙の体験が良かった。
- ・ビデオ・折り紙・ゲーム・体操等をもり込み楽しい講座でした。
- ・体力・知力の衰えを実感しているので再認識できた。
- ・MCI は、体力の衰えでのフレイルの同じようなとらえ方だと思いました。
- ・ハネ馬、知らない人とグループを作り楽しめる、素晴らしいことと思いました。
- ・実は、夫にレビー小体型認知症の症状がみられるのですが、無理やりではなく、自然な形で一緒に申し込みました。今も習った MCI だと思い、孤独にさせないように接し、触れていこうと思っています。そして健常な状態に戻って欲しい!!中川先生ありがとうございました。

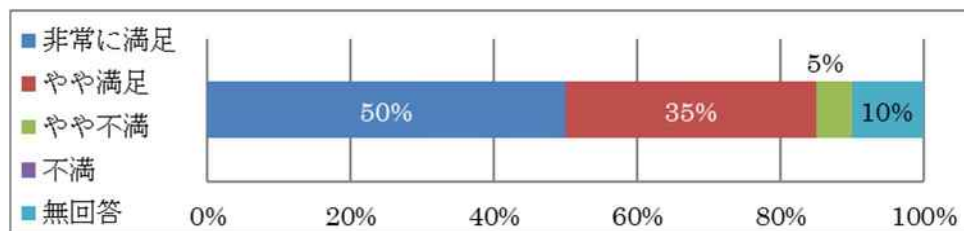
その他意見

(回答なし)

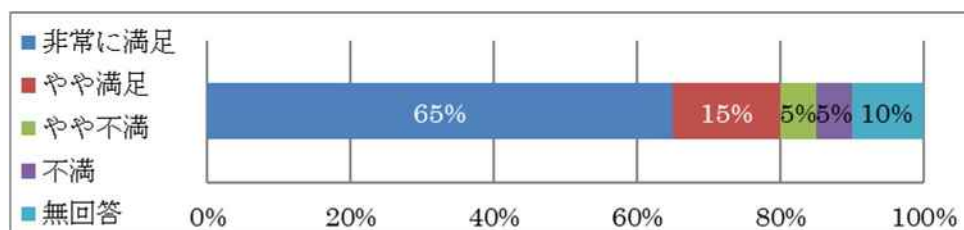
公開講座 5「金融・証券に関する個人所得課税の動向②－iDeCo（個人型確定拠出年金）の有利・不利－」アンケート集計結果

回答者 20 名（受講者 20 名）

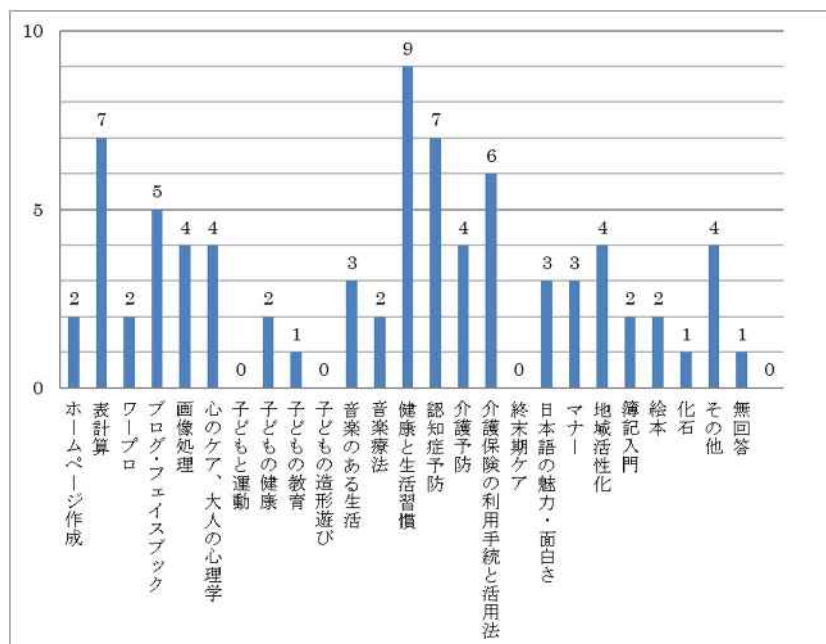
質問 1 「講座の内容はいかがでしたか？」



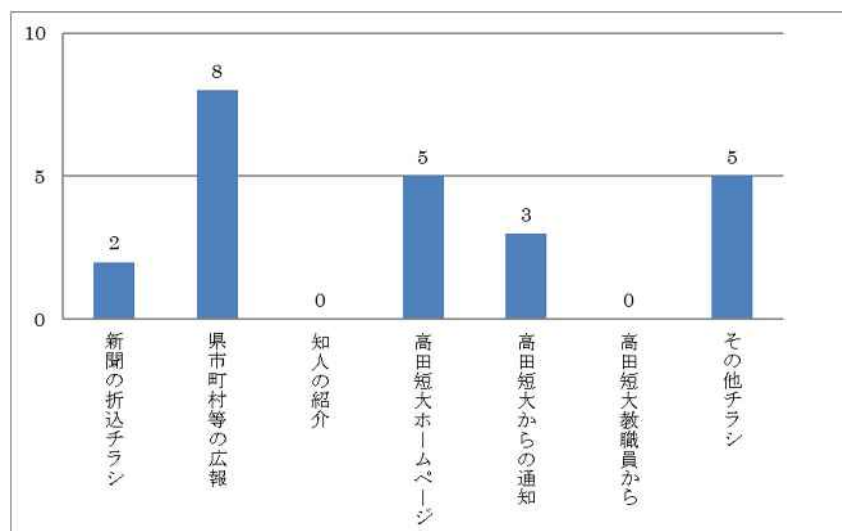
質問 2 「会場の広さ、会場の機器や備品はいかがでしたか？」



質問 3 「今後、高田短期大学公開講座において希望されるものを選んで下さい」



質問 4 「公開講座を何でお知りになりましたか」



希望する講座について

- ・エクセル・ワード 1
- ・資産形成・金融教育 2
- ・統計学 1
- ・司法関連（再審、死刑） 1
- ・地域経済の特徴・現状分析 1

どこで講座を知ったか

- ・高田高等学校事務所 1
- ・県立図書館 1
- ・県総合文化センター 3

講座や会場について

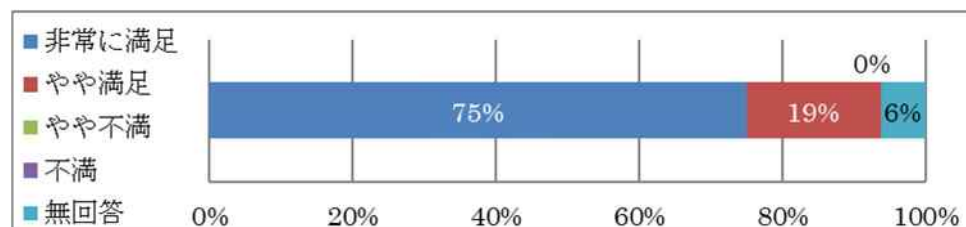
- ・スライドが非常に暗い。
- ・資料がもう少し大きい字にして欲しいです。
- ・「所得控除」と「税額控除」の違いはとても興味深く勉強になりました。
- ・伊東先生のお話はとてもわかりやすく、例えも上手です（ガソリン）。
- ・次回も何かありましたら参加したいと思います。
- ・校内の清掃がいきとどいており、大変気持ちよく受講することが出来ました。

その他意見

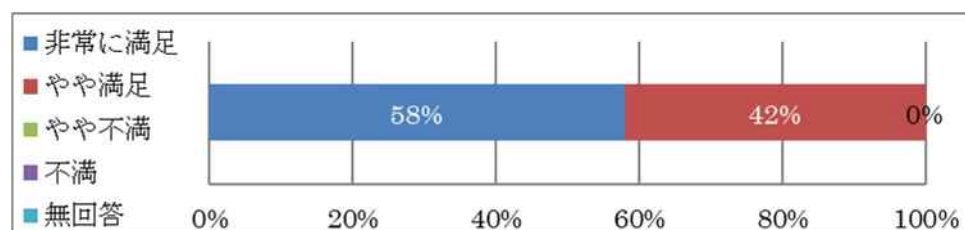
（回答なし）

公開講座6「貝殻で頭の柔軟体操（好奇心講座その1）」アンケート集計結果
回答者 16名（受講者16名）

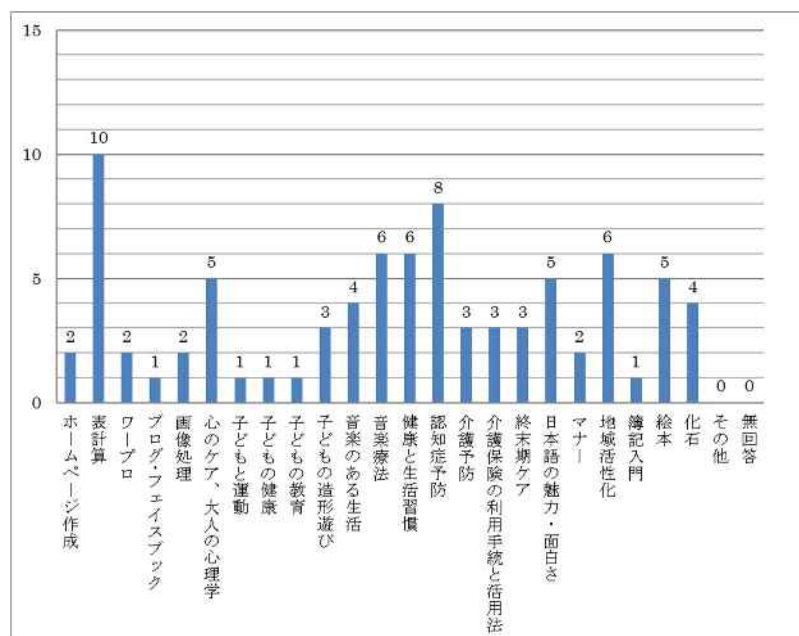
質問1 「講座の内容はいかがでしたか？」



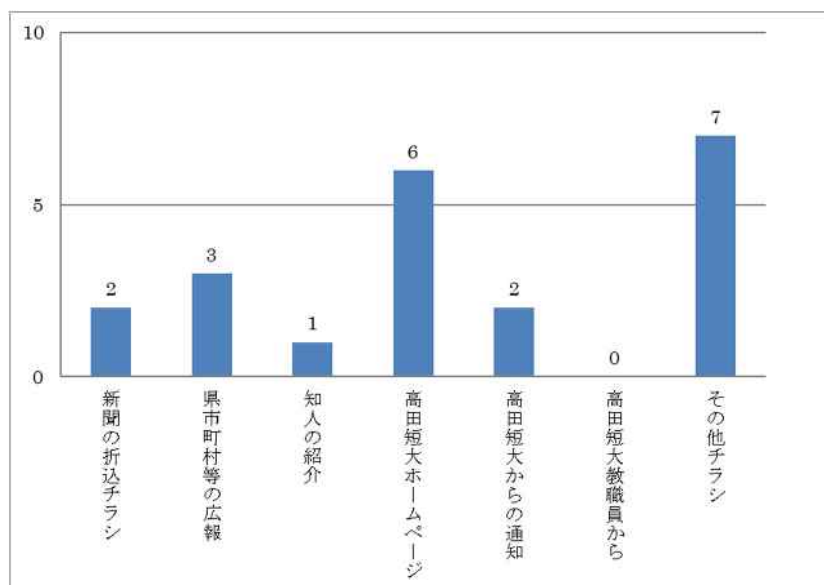
質問2 「会場の広さ、会場の機器や備品はいかがでしたか？」



質問3 「今後、高田短期大学公開講座において希望されるものを選んで下さい」



質問 4 「公開講座を何でお知りになりましたか」



希望する講座について
(回答なし)

どこで講座を知ったか

- ・ 県立図書館
- ・ 市立河芸図書館
- ・ 公民館
- ・ 高田本山
- ・ 宝物館
- ・ 新聞記事

講座や会場について

- ・ 観察することで、知り得る、想像できるものもありました。
- ・ 実物があって、とても理解できた。
- ・ 実物の貝を見ながら興味ある講話、本当にありがとうございました。
- ・ みかんまで頂きありがとうございました。
- ・ いつもいろんな講座を公開していただきありがとうございます。
- ・ 外に出る機会そして頭を使う機会を与えていただき本当にうれしく思います。

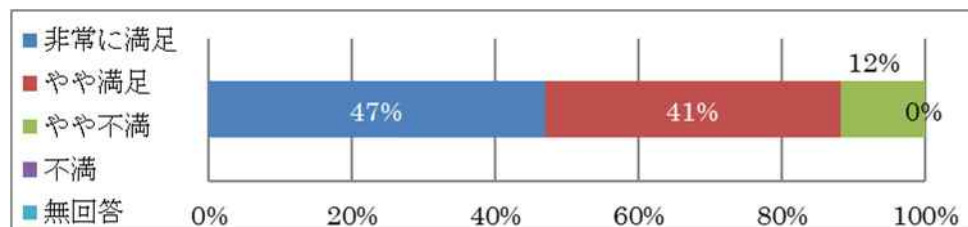
その他意見
(回答なし)

公開講座7「公德心も利己主義も根は同じ？（好奇心講座その2）」

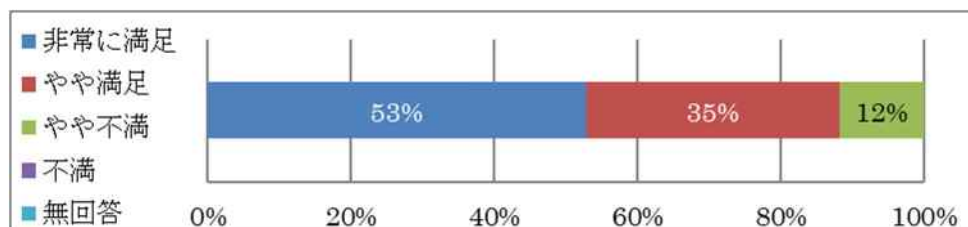
アンケート集計結果

回答者 17名（受講者17名）

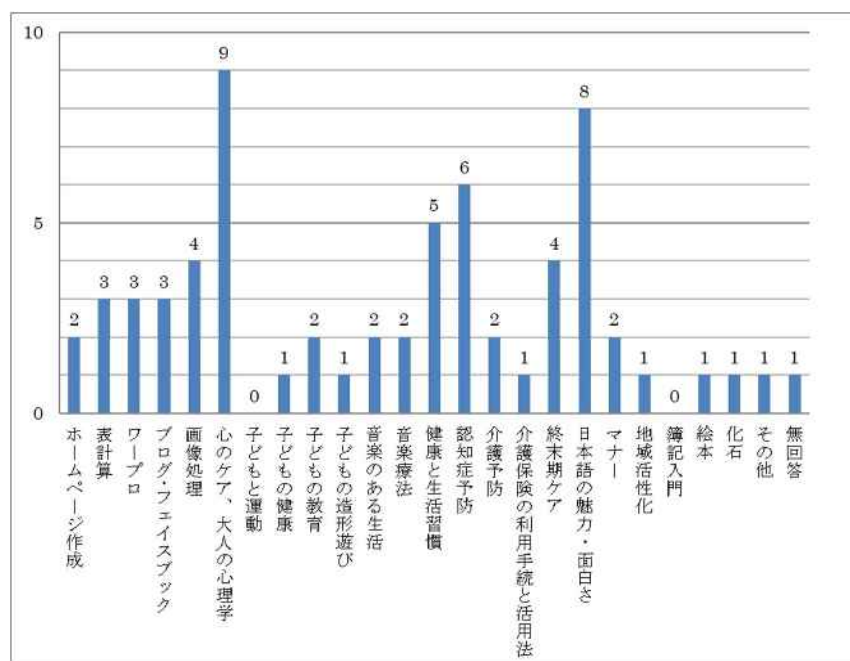
質問1 「講座の内容はいかがでしたか？」



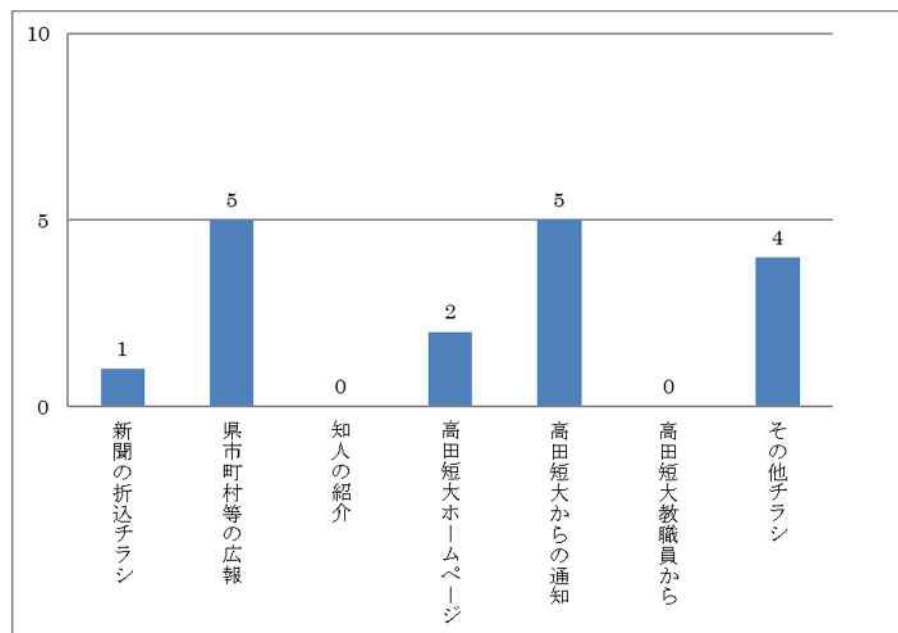
質問2 「会場の広さ、会場の機器や備品はいかがでしたか？」



質問3 「今後、高田短期大学公開講座において希望されるものを選んで下さい」



質問 4 「公開講座を何でお知りになりましたか」



希望する講座について

- ・スマートフォン、i-Pad の使い方

どこで講座を知ったか

- ・県総合文化センター
- ・みえアカデミックセミナー
- ・津図書館

講座や会場について

- ・もう少しこぢんまりしたところでもいいのではないかと思います。
- ・すわったら、いすがあまりしっくりきませんでした。腰が痛くなりました。
- ・お話の内容は私には難しすぎました。もっと身近なことかと思っていました。
- ・お話の内容は私には難しすぎました。
- ・いつもいろんな講座を公開していただきありがとうございます。
- ・外に出る機会そして頭を使う機会を与えていただき本当にうれしく思います。

その他意見

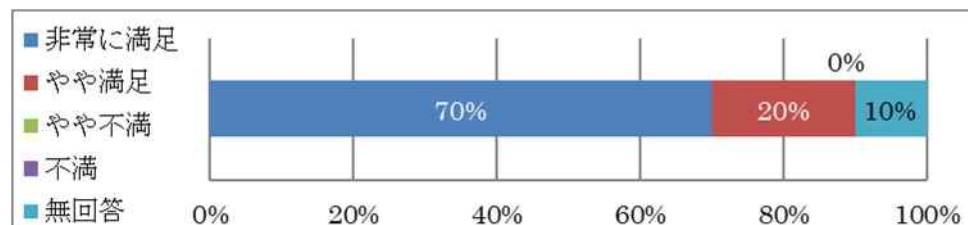
(回答なし)

公開講座 8「三葉虫を調べよう（好奇心講座その3）」

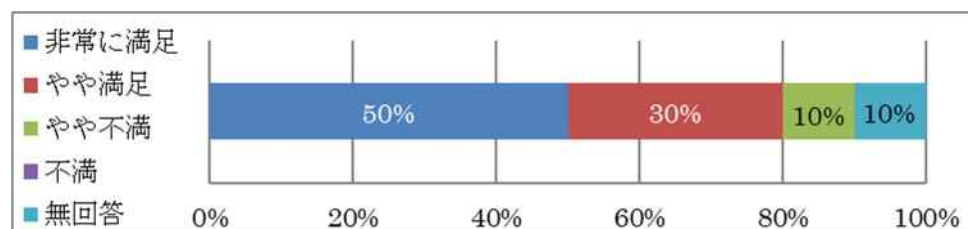
アンケート集計結果

回答者 10 名（受講者 10 名）

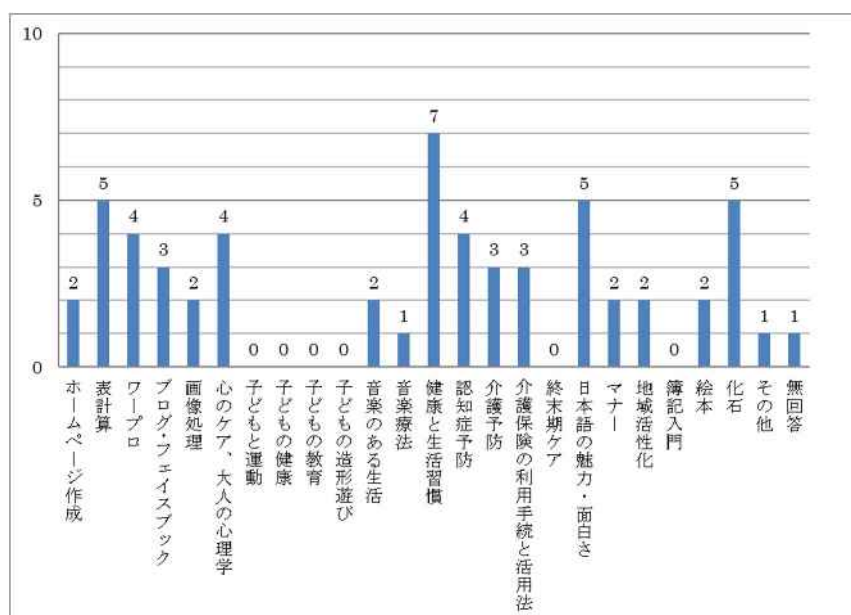
質問 1 「講座の内容はいかがでしたか？」



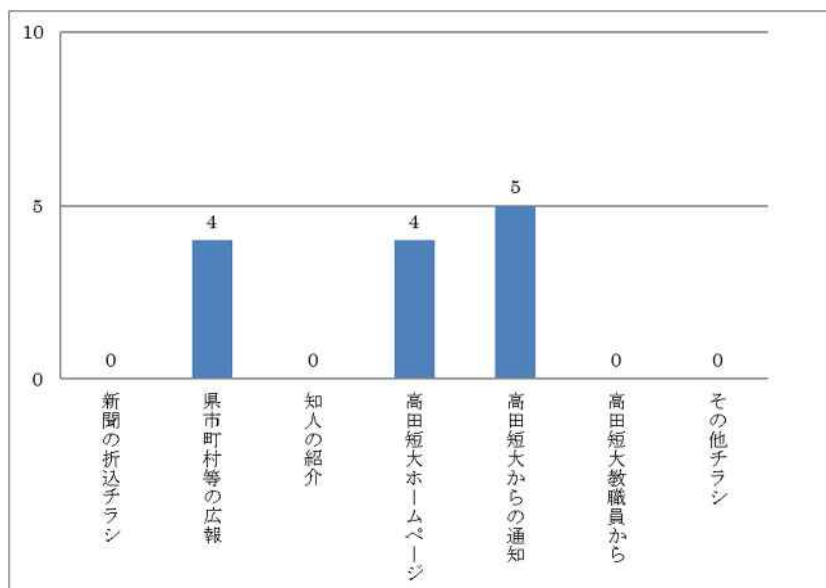
質問 2 「会場の広さ、会場の機器や備品はいかがでしたか？」



質問 3 「今後、高田短期大学公開講座において希望されるものを選んで下さい」



質問 4 「公開講座を何でお知りになりましたか」



希望する講座について

- ・好奇心をくすぐるもの、内容は？

どこで講座を知ったか

(回答なし)

講座や会場について

(回答なし)

その他意見

(回答なし)

(4) 図書館講座

図書館講座については別紙にまとめた。

(5) まとめ

- ・昨年度が 3 講座だったのに対して、今年は 8 講座と充実したものとなった。しかし、台風の影響で 1 講座が中止となってしまった。
- ・内容については、どの講座も満足とする者が 8 割以上であった。全体を通して受講者の年齢層が高く、認知症に関する講座では 30 名を超える参加があった。次に PC 関係の講座の参加者が多かった。ただ、年齢が高いためか、ボリュームが多い、内容が

難しいとの意見が聞かれた。

・会場に関する意見では、「もう少しこじんまりした会場が良かった」という意見があった。参加人数によっては会場を変更するのも一案ではないだろうか。

・今後期待する講座は、受講した講座に関連があるものや、受講者の年齢層に関連性が高い内容の傾向がみられる。昨年度に続き、健康に関することやデジタル系の講座の需要が高い。また、心理学系への関心も高かった。参加者の年齢層もあり、子どもに関する講座の希望は多くはなかったが、介護系講座開催時に子ども系の講座を期待する声があったのが印象的であった。

・講座を知るきっかけとして、本学の HP やお知らせ、市町村の広報などの効果が大きいといえる。来年度は広報への掲載がなくなるため、効果的な PR 方法を考えなくてはならない。

(6) その他

令和 5 年度はコロナの影響もあり 3 講座であったが、6 年度はすべての学科から講師を出していただき 8 講座を企画することができた。今年度は、投資に関する講座などもあり魅力ある講座が多くあったのではないかと思う。参加者には「高田のファンです」という方もおり、常連と言えるような参加者様もいる。こうした参加者に継続して参加していただけて、かつ新規の参加者が増えるような講座を継続して行っていきたい。

2. 2024 年度 高田短期大学付属図書館公開講座

2024 年度において「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」として下記 3 講座を開講した。図書館主催の公開講座は、2022 年度から開講し、2024 年度で 3 年目となる。2024 年度は、各講座 100 分間と、従来から 10 分延長して、水曜日の 14:40～16:20 に図書館 1 階グループワークエリアで開催した。講師は 3 回とも図書館司書の瀬古幸弘が担当した。

【第 1 回】「柳宗悦と朝鮮半島—ことばを通じて多様性を考える」

実施日 10 月 2 日（水）

【第 2 回】「伊勢物語 — 『むかしをとこ』の熱量、その根源にあるもの」

実施日 11 月 27 日（水）

【第 3 回】「バルバラ — 共生のためのシャンソン」

実施日 2025 年 2 月 26 日（水）

3 回一括での申し込みとしたため、数人の欠席者を除き、3 回とも同じ受講者が受講した。従来の形を踏襲して、座談会を含めた構成としたが、ティーサービスは経費削減

の観点から廃止した。

定員は当初 20 名であったが、応募があったため 22 名とした。

実際の受講者数は、【第 1 回】 18 名、【第 2 回】 17 名、【第 3 回】 17 名であった。

各回で講座の内容について満足度のアンケートを実施した。

【第 1 回】 非常に満足 11 名 やや満足 4 名 無回答 3 名

【第 2 回】 非常に満足 7 名 やや満足 8 名 無回答 2 名

【第 3 回】 非常に満足 9 名 やや満足 7 名 無回答 1 名

前年度に引き続き、おおむね満足を得られた結果となった。

最終回【第 3 回】では詳細なアンケートを実施した。

当講座では、図書館で司書が文献の紹介をするという講座の性質上、講座レジュメに加えて、ある程度の分量の資料を配布している。受講者に確認したところ、

(資料の分量について) このままでよい 8 名 このままでよいがもっと説明がほしい 3 名、減らしてほしい 5 名 (資料は) いらない 0 名 (複数回答可)

と、「資料はいらない」と答えた受講者はいなかった。担当講師からは「配布資料はご自宅で取捨選択のうえ、ファイリングしてください」とご案内しているが、以前から引き続いて参加して、資料の質を理解し評価している受講者が一定数いるとみられる。「資料については、後で読めるから、このままでよい。」との意見も個別で寄せられた。

さらに個別の補足意見として、

「もっともっと、『今日は時間があれば…』という内容の豊富さでした。時間の制約が残念でした。」(第 1 回)、「いろいろな経歴の方が講座にいらっしゃることも興味深いです。座談会で、文学にあまり興味を持っていらっしゃらなかった方々の感想をお聞きするのもおもしろいです。」(第 2 回)、「毎月 1 回の開催を希望します。」(第 3 回)、などといった声が聞かれた。

IV 高田短期大学紀要の発行

1. 編集・発行スケジュール

紀要については、概略以下のスケジュールで開催した。

高田短期大学紀要 43 号編集・発行計画	
日 時	事 項
5 月 10 日 (金)	研究活動一覧受付締め切り
5 月 20 日 (月)	執筆者募集 (専任・非常勤教員)

8 月 26 日（月）	執筆希望締切日（執筆希望書を執筆希望の研究公正誓約書とともに提出） 図書委員全員にメールにて連絡
9 月 2 日（月）	紀要原稿執筆依頼 配布（教授会 報告後）
11 月 1 日（金）	紀要原稿提出依頼（念押し） 配布
11 月 6 日（水） 予定	第 6 回委員会：委員閲読担当決定
11 月 11 日（月）	紀要原稿の仮取りまとめ
11 月 15 日（金）	紀要原稿提出締切（投稿誓約書とともに提出） 17:00 まで。委員閲読開始
12 月 2 日（月）	業者への見積もり依頼
12 月 3 日（火） までに	委員は閲読結果電子ファイルを図書館係宛て送信
12 月 4 日（水） 10:40～（委員会終了後都合のつく時間帯に）	第 7 回委員会：委員閲読結果を各自報告（口頭での報告と結果の提出※）。 紀要業者決定
12 月 4 日（水） 13:00～ 予定	臨時図書委員会：委員閲読結果報告（※）
12 月 5 日（木） *委員閲読結果報告の翌日	執筆者に閲読結果を伝え、原稿を返却。 執筆者に「抜き刷り希望部数調べ」を渡す。 （状況によっては翌 12 月 6 日になる場合あり。）
12 月 16 日（月）	紀要原稿再提出、抜き刷り希望部数調べ回収
12 月 18 日（水）	原稿入稿 英文タイトルの校正依頼
01 月 16 日（木）	印刷業者から初校提出 英語担当教員による英文タイトルの校正結果提出
01 月 16 日（木）～ 01 月 27 日（月）	執筆者・閲読者校正期間（英文タイトルの決定） *閲読者は 1 月 24 日（金）朝まで <u>*委員校正で何かあれば、係が執筆者へ伝える。</u>
01 月 16 日（木）	印刷業者から初校提出 英語担当教員による英文タイトルの校正結果提出
01 月 16 日（木）～ 01 月 27 日（月）	執筆者・閲読者校正期間（英文タイトルの決定） *閲読者は 1 月 24 日（金）朝まで *委員校正で何かあれば、係が執筆者へ伝える。
01 月 28 日（火）	初校戻し
02 月 3 日（月）	印刷業者から再校提出（執筆者校正）
02 月 10 日（月）	再校戻し
02 月 13 日（木）	印刷業者から三校提出（委員による最終校正）

	* 委員校正で何かあれば、係が執筆者へ伝える。
2 月 17 日 (月)	三校戻し (最終校正業者渡し)
2 月 21 日 (金)	責了 (印刷直前の確認)
3 月 3 日 (月)	44 号研究活動一覧表提出依頼 (令和 6 年度)
3 月 6 日 (木)	紀要 43 号納品
03 月 11 日 (火)	抜き刷り納品

2. 投稿論文一覧

1	キャリア育成学科 杉本 あゆみ 研究論文 二地域での調査に基づく初年次学生の言葉遣いに関する考察 A study of the Language Use of First-Year Higher Education Students Based on a Survey in Two Regions 12 頁 単著 日本語学
2	キャリア育成学科 杉本 あゆみ 研究論文 エージェンシー及びコミュニケーション能力育成に繋がるビジネス実務科目における経験学修サイクルの考察 A Study of the Experiential Learning Cycle in Business Practice Courses Leading to the Development of Agency and Communication Skills 12 頁 単著 教育学
3	子ども学科 青木 信子 研究論文 保育現場における木育の実践と意識に関する Research on the Practice and Awareness of Wood Education in Childcare Settings 12 頁 共著 (共著者: 名古屋柳城女子大学 准教授 林 韓燮) 保育学
4	子ども学科 林 幹士 研究論文 「保育実習における学びを高めるためには一保育実習ⅠA・Ⅱにおいて学びの成果が高かった実習生の語りから」 Enhancing Learning in Early Childhood Education Practicums: Insights from High-Achieving Students in Practicum IA and II 11 頁 単著 保育学
5	子ども学科 大野 照文 研究論文 生命の継続性を維持するシステムとしての生物の知能の歴史 History of Biological Intelligence as a System for Securing Continuity of Life 12 頁 単著 進化生物学/生涯学習論
6	キャリア育成学科 伊東 秀幸 研究論文 A Study on Educational Issues of Tax Accounting in Japanese Commercial High Schools 12 頁 単著 Sociology of Education

3. 課題

(1) 投稿原稿の質について

原稿の中には、提出までに十分に吟味されたとは考えにくいものが見受けられた。その原因は、論文を書くことの目的が明確になっていない、目的にふさわしい素材や調査資料が不十分、原稿に新規性を見出しにくい、提出前の推敲、校正が不十分であることなどと考えられる。

「高田短期大学紀要」投稿規程の第1条には「高田短期大学紀要」（以下「本誌」という）は本学における創造的な研究・教育活動を促進し、その成果を広く学内外に問うことを目的に発行する。」と明記されているように、紀要は、高田短期大学の研究・教育レベルを評価する指標として、内外に示すものであり、投稿者は、多忙な日常業務を遂行しながら執筆を行っている事も理解できるが、今後は、準備不足の原稿の提出は厳に慎まれない。

(2) 投稿数、総ページ数の経年変化



投稿数の経年変化



総ページ数の経年変化

紀要については、執筆者数、総ページ数とも減少傾向にある。特に、コロナ禍以降の減少は著しい。先に述べた学生図書の利用者数の減少と同様の経年変化がみられる。何か背後に共通した原因があるのかも知れない。改善のための調査が必要である。

(3) 閲読者の負担軽減について

準備不足の原稿が投稿されると、閲読者の負担が増加する。これを避けるためには、いくつかの方法が考えられる。

1) 準備不足と判定される原稿については、原稿を受理しない。

現在の閲読では、紀要閲読チェックリストに基づいて不備を指摘することはできるが投稿原稿の質について判断をすることはできない。そこで、12 番目の項目と 13 番目の項目を併せて改訂し、不受理の基準を明確にすることを提案する。

旧	新
(1) 研究論文とは新しい知見、価値ある事実あるいは結論を含むものとする。 (2) 調査報告とは新しいデータを含む簡潔な報告をいう。 (3) 実践報告とは専門分野に関して新しい実践を試みた報告をいう。 (4) 資料・文献の紹介とは諸分野の調査データや文献を紹介するものをいう。 研究論文：刷り上がり 6 ページから 12 ページ程度 調査報告、実践報告、資料・文献の紹介：刷り上がり 4 ページから 8 ページ程度	紀要の原稿種別は(1)研究論文、(2)調査報告、(3)実践報告、(4)資料・文献紹介とする。 研究論文：刷り上がり 6 ページから 12 ページ程度 調査報告、実践報告、資料・文献の紹介： 刷り上がり 4 ページから 8 ページ程度 紀要への掲載可否の判定は、以下ののような基準をもって行う。 投稿の受付と不受理： 投稿は受け付けた後速やかに閲読される。その際、以下のような原稿は不受理とする。 (1) 文中にエビデンスを示さず結論や考察が書かれている、あるいは論理の飛躍がある (1) 研究論文には、新しい知見、価値ある事実あるいは結論が含まれていない (2) 調査報告には新しいデータが含まれていない (3) 実践報告に専門分野に関して新しい実践の試みが含まれていない

	(4) 資料・文献の紹介に、紹介の趣旨が述べらず、諸分野の調査データや文献が含まれていない
文中にエビデンスを示さず結論や考察をしていないか、論理の飛躍はないかを確認する。	

2) 閲読体制の強化

次年度より「高田短期大学紀要」と「育児文化研究センター紀要」を統合し、改めて紀要編集委員会を発足させることとなり、原稿提出・閲読のスケジュール等について検討していくこととなった。次年度委員としては、青木信子、野呂健一、橋本晃氏の名前が挙がっており、次年度早々に、紀要の質の向上等について検討したい。

① 投稿から掲載まで2年かける案

準備不足の投稿を解消するための手立てとしては、投稿から掲載までの期間を年度内とせず、2年かけて推敲することを可能にするような措置も必要であろう。

V 高田短期大学通信の発行

1. 「高田短期大学通信」第59号の発行部数と配布先

令和6年度の「高田短期大学通信」第59号を2,800部発行した。関係各所の協力を得て、在学生、前年度卒業生、教職員、名誉教授、学外の執筆者、学苑本部、中高、同窓会、研究センター、卒業生の就職先企業、オープンキャンパス参加者、高校訪問・来訪用、介護実習先、保護者懇談会等にて配布した。

発行部数は昨年度2,600部から200部増となった。オープンキャンパスでの配布が増加すると見込まれたための増刷である。

2024年度の配布実績は全体で2,607部、図書館保管は193部となっている。内訳については【表1】のとおりである。

【表1】 2024年度 高田短期大学通信第59号 配布予定一覧

配布予定	配布先（敬称略）	2024 実績	2024 予定	2023 実績	配布先
	在学生	483	483	477	図書委員会で配布
6月21日	前年度卒業生（前年度卒業生から各学科卒業生執筆者・留学生を引く）	219	219	264	図書館で送付 ※別紙1

6月7日	教職員	130	130	131	図書委員会で配布
6月21日	杉山 常子（名誉教授）	1	1	1	
6月21日	首藤 善樹（名誉教授）	1	1	1	
6月21日	三宅 啓子（名誉教授）	1	1	1	
6月21日	千草 篤麿（名誉教授）	1	1	1	
6月21日	栗原 廣海（名誉教授）	1	1	1	
6月21日	堀内 由香里（同窓会執筆者）	1	1	1	
6月21日	各学科卒業生（執筆者）	3	3	3	
6月19日	学苑本部	30	30	30	事務局（本部便）
6月19日	高田中・高等学校	30	30	30	事務局（本部便）
6月19日	同窓会役員用	30	30	30	事務局（本部便）
	樹心同窓会	0	0	150	事務局（本部便）
6月20日	学外研究員、開放事業参加親子、地域連携事業参加者等	70	70	70	育児文化研究センター
6月19日	企業等	100	100	100	キャリア支援委員長
	研究員・専門講座参加者	80	80	55	仏教教育研究センター
6月7日	専修寺（高田本山売店）	10	10		松山先生
6月18日	客員研究員、各種講座受講者、高齢者サロン関係者	40	40	40	介護福祉研究センター
	就業支援セミナー	0	0	50	キャリア研究センター
	入試イベント用		1000		広報入試
6月7日	6月8日オープンキャンパス用	200		200	広報入試
7月5日	7月7日オープンキャンパス用	200		205	広報入試
8月2日	8月3日オープンキャンパス用	200		100	広報入試
6月21日	高校訪問先	100	100	50	広報入試
7月23日	みえアカデミックシター（大学展・当日配布）	150	150	150	事務局
	実習反省会	0	0	0	教学部（実習担当）
6月20日	介護実習先	50	50	40	介護福祉コース

	高校来訪用	0	0	100	広報入試
6 月 19 日	学苑本部理事会	0	0	50	学苑本部へ PDF データ送信
11 月 29 日	12 月保護者懇談会（キャリア）	66	100	66	学生課長
	保管用	30	30	30	図書館
6 月 10 日	題字デザイン採用者（在学生）	1	1		
6 月 17 日	矢野先生（介護セミナー記事）	3			上山先生
6 月 20 日	在学生執筆者 3 名+委託訓練生 3 名	6			
6 月 20 日	中畑先生（執筆者）	1			
6 月 24 日	専修寺（高田本山売店）	10			松山先生
6 月 24 日	増亦さん（部員に見せるため）	8			吹奏楽部
7 月 29 日	上山先生	9			（コミュニティカレッジ も 9 部）
8 月 23 日	8 月 25 日オープンキャンパス用	300			
11 月 29 日	増亦さん（吹奏楽部が訪問する施設へ持参）	2			
2 月 5 日	3 月保護者懇談会（子ども）	40			学生課
配布合計		2607	2662	2427	
予備／残部		193	138	173	
発行部数		2800	2800	2600	

2. 「高田短期大学通信」第 59 号に関するアンケート

「高田短期大学通信」第 59 号に関して教職員にアンケートを行い、12 名から回答を得た。【表 2】に詳細を示す。

昨年度に引き続き、写真や文字を大きくした、明るい誌面づくりに取り組んだ。誌面の雰囲気や読みやすさについて好評を得た。ただ、表紙の写真は冬以外のものがよいのではないかな等の課題も指摘された。また、今後の企画について、地元企業と本学の連携に関する記事の掲載、図書館だよりのペーパーレス化に伴う掲載内容の検討などについて

て意見が見られた。

【表 2】 短大通信第 58 号アンケート まとめ

	全体の印象について	表紙について	内容について	今後の企画について
1	読みやすいと思いました。	華やかなイメージで良いと思います。	内容が盛りだくさんで楽しめました。	地元企業と本学の連携に関する記事を掲載したらいかがでしょうか。ご検討いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。
2	写真が多かったがイメージしやすいものになっていると思います。また学生のいきいきした姿が伝わり、非常に明るい感じになっていると思います。	夏に配布するのに対して真冬の写真は今一つ違和感がありました。私だけかもしれませんが・・・。		
3	文字の大きさや写真の配置などバランスがよいと思います。	題字のデザインがいかんじです。	巻頭インタビューがおもしろかったです。	
4	カラフルで見やすいです。学生さん、先生方、卒業生など、生の声が載っているのがよいと思います。	題字を募集されるのは素敵なアイデアだし、応募してくださった方の他の作品も紹介されていたのがよかったです。	特にありません。	特にありません。
5	項目ごとに、分けがはっきりし、とても見やすくなった印象があります。	高田短期大学の書体が変わり、個人的には見やすく、いいデザインであると思います。デザインのとらえ方は人それぞれですが、個人的には好きなデザインです。	これだけの内容をまとめるのは、校正を含め本当に大変だと思います。いいものを作っていたいただきありがとうございます。	特にありません。
6	風景写真などが程よく配置されていて、見やすい。写真全般において、色が濃すぎるとは思いません。	明るくて良い印象である。	今回、各種学内トピックス等を数多く取り上げていただいているところも良かったと思います。	特にございません。
7	大学の様子が網羅されていて、特に問題は無いと考えます。	昨年度よりも、明るい印象を受けます。引き続き、同種の雰囲気を楽しみます。	次年度はキャリア研究センターのスペースをどのように活用するか、早期にお示しいただけますと、逆算して記録を残せると考えます。	図書館だよりのペーパーレス化に伴い、年2回の掲載内容から抜粋して短大通信に掲載することもありかと考えます。
8	全体的にまとまっていて読みやすく、よくわかりました。	風上げと明るい印象ですが、季節が冬なので学生が来ているコート等で少し重たい感じもしました。新緑がきれいな季節の写真だともっと印象が明るくなるのではないのでしょうか。		
9	ページ数が多い。教員は、短大通信以外に原稿依頼が多いため負担を軽くするため8ページぐらいで良いのではないかと	冬に撮影された写真だったため、大学の雰囲気が暗く感じた	円グラフだけ良い。両学科・コース別に掲載されている就職先一覧についてはバランスが悪く（ほぼ子ども学科）、HPにも掲載されているため削除したほうが良い	イベント情報の掲載（オープンキャンパスやおやこひろば、学祭など）、保護者代表として教育講演会会長挨拶
10	読みやすく中身の濃い通信を作成していただき有難うございました。	大好きな表紙です。目次も見やすく表紙に掲載することで興味をそわれます。大学のロゴの位置が難しかったと思いますがバランスも良いと思いました。ユニークな表紙の題字と相互に活かせていると思いました。		
11	要所要所に写真やイラストを多く載せることで見やすく読みやすい工夫が感じられた。	明るい印象で良いと思う。何のどの場面を切り取っているのか（授業か？イベントか？等）情報があるとわかりやすく感じる。	学内外幅広く配布するものだと思うので、状況がわかる写真のサイズをもう少し大きくすると良いかと思った。	
12 □ 頭		「題字デザイン」 ・コンセプトは何か？ 不評の声を聞く。授業で取り上げてもらって作成してもらおうと良いのでは（ラベルデザインを手がけた川喜田先生の授業があり美術が専門の亀澤先生もいらっしゃるの） ・外に配るものなので一度デザインを決めたら継続の方が良いと思う。	「人生余滴」人選はどのように？ 内容に前向きさやカリスマ性を感じられると良かった。 ・編集後記が学生向けなのか外部向けなのか分からない。[一学生向けではあるが外部の方にもみていただくものと説明]	

「発行時期について」
この時期（6月6日納品）では校了時期も早く、貸借対照表が間に合わない可能性がある。年度が変わってすぐの依頼で執筆者の負担も大きい。以前はオープンキャンパスが6月、7月の年2回しかなかったが、近年は増やしているため、参加人数も少ない6月オープンキャンパス前の発行ではなく、来年度は発行時期を遅らせても良いのではないかと。

3. 令和6年度 高田短期大学通信第59号発行スケジュール

令和6年度の「高田短期大学通信」第59号の発行は、【表3】のスケジュールのとおり

り進行した。

【表 3】 令和 6 年度の「高田短期大学通信」第 59 号発行スケジュール

日 時	項 目
2 月 15 日（木）	各部署長へ掲載記事アンケート
2 月 26 日（月）	掲載記事アンケート締切
3 月 6 日（水）	第 10 回図書員会 「短大通信」紙面構成案作成（依頼方針、内容、体裁） 卒業予定者、新 2 年生の執筆予定者の報告
3 月 7 日（木）	卒業予定者、新 2 年生へ執筆依頼
3 月 7 日（木）～	印刷業者と折衝（デザイン、料金）
4 月 日（ ）	第 1 回委員会 「短大通信」紙面構成の決定
4 月 10 日（水）	短大通信原稿依頼 印刷業者へ見積り依頼
4 月 23 日（火）	原稿締切
4 月 25 日（木）	入稿
5 月 7 日（火）	初校受取
5 月 10 日（金）	初校戻し
5 月 14 日（火）	再校受取
5 月 17 日（金）	再校戻し
5 月 21 日（火）	三校受取
5 月 24 日（金）	三校戻し
5 月 27 日（月）	校了
6 月 6 日（木）	納品
6 月 7 日（金）	教職員配布（アンケート添付）
6 月 8 日（土）	第 1 回オープンキャンパス
6 月 28 日（金）	教職員アンケート締切
7 月 1 日（月）～	学生配布（図書館だより・夏休み期間中の図書館開館スケジュール添付）
7 月 7 日（日）	第 2 回オープンキャンパスで配布
7 月 23 日（火）	第 4 回委員会 短期大学通信の反省

4. 第 59 号についてのアンケート結果

	全体の印象についてのご意見・ご希望などがございましたらお聞かせください。	表紙についてのご意見・ご希望がございましたらお聞かせください。	内容についてのご意見・ご希望がございましたらお聞かせください。	今後の企画についてご意見・ご希望がございましたらお聞かせください。
1	読みやすいと思いました。	華やかなイメージで良いと思います。	内容が盛りだくさんで楽しめました。	地元企業と本学の連携に関する記事を掲載したらいかがでしょうか。ご検討いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。
2	写真が多かったがイメージしやすいものになっていると思います。また学生のいきいきした姿が伝わり、非常に明るいつきになっていると思います。	夏に配布するのに対して真冬の写真は今一つ違和感がありました。私だけかもしれませんが・・・。		
3	文字の大きさや写真の配置などバランスがよいと思います	題字のデザインがよいかんじです	巻頭インタビューがおもしろかったです	
4	カラフルで見やすいです。学生さん、先生方、卒業生など、生の声が載っているのがよいと思います。	題字を募集されるのは素敵なアイデアだし、応募してくださった方の他の作品も紹介されていたのがよかったです。	特にありません。	特にありません。
5	項目ごとに、区分けがはっきりし、とても見やすくなった印象があります。	高田短期大学の書体が変わり、個人的には見やすく、いいデザインであると思います。デザインのとらえ方は人それぞれですが、個人的には好きなデザインです。	これだけの内容をまとめるのは、校正を含め本当に大変だと思います。いいものを作っていたいただきありがとうございます。	特にありません。
6	風景写真などが程よく配置されていて、見やすい。写真全般において、色が濃すぎるとは思われません。	明るくて良い印象である。	今回、各種学内トピックス等を数多く取り上げていただいているところも良かったと思います。	特にございません。
7	大学の様子が網羅されていて、特に問題はないと考えます。	昨年度よりも、明るい印象を受けます。引き続き、同様の雰囲気を楽しみます。	次年度はキャリア研究センターのスペースをどのように活用するか、早期にお示しいただけますと、逆算して記録を残せると考えます。	図書館だよりのペーパーレス化に伴い、年 2 回の掲載内容から抜粋して短大通信に掲載することもありかと考えます。
8	全体的にまとまっていて読みやすく、よくわかりました。	風上げと明るい印象ですが、季節が冬なので学生が来ているコート等で少し重たい感じもしました。新緑がきれいな季節の写真だともっと印象が明るくなるのではないのでしょうか。		
9	ページ数が多い。教員は、短大通信以外に原稿依頼が多いため負担を軽くするため 8 ページぐらいで良いのではないかと	冬に撮影された写真だったため、大学の雰囲気が暗く感じた	円グラフがよい。両学科・コース別に掲載されている就職先一覧についてはバランスが悪く（ほぼ子ども学科）、HP にも掲載されているため削除したほうが良い	イベント情報の掲載（オープンキャンパスやおやこひろば、学祭など）、保護者代表として教育講演会会長挨拶
10	読みやすく中身の濃い通信を作成していただき有難うございました。	大好きな表紙です。目次も見やすく表紙に掲載することで興味をそそられます。大学のロゴの位置が難しかったと思いますがバランスも良いと思いました。ユニークな表紙の題字と相互に活かしていると思いました。		
11	要所要所に写真やイラストを多く載せることで見やすく読みやすい工夫が感じられた。	明るい印象で良いと思う。何のどの場面を切り取っているのか（授業か？イベントか？等）情報があるとわかりやすく感じる。	学内外幅広く配布するものだと思うので、状況がわかる写真のサイズをもう少し大きくすると良いかと思った。	
12 口 頭		「題字デザイン」 ・コンセプトは何か？ 不評の声を聞く。授業で取り上げてもらって作成してもらおうと良いのでは（ラベルデザインを手がけた川喜田先生の授業があり美術が専門の亀澤先生もいらっしゃるので） ・外に配るものなので一度デザインを決めたら継続する方がよいと思う。	「人生余滴」人選はどのように？ 内容に前向きさやカリスマ性が感じられると良かった。 ・編集後記が学生向けなのか外部向けなのか分からない。[→学生向けはあるが外部の方にもみていただくものと説明]	

VI 図書館だより

昨年度と同じく、7 月（第 60 号）と 1 月（第 61 号）に各 800 部を発行した。教員執筆記事や学生発信の書籍の紹介など従来の記事に加えて、今年度の図書館だよりでは図書館構内の蔵書や行事予定（第 60 号）、私立短期大学図書館協議会東海・北陸地区総会

開催、創作作品展表彰、図書館のユニバーサルデザインへの対応（第 61 号）など、図書館の取り組みを広く周知する広報機能充実も意識した内容で作成した。

VII 創作作品展

7 月 11 日から 10 月 16 日までを作品募集期間とし、作品の応募方法については昨年度に続いて授業作品の個別応募に加えて授業やゼミ担当教員からの推薦枠による応募を設定した。教員からの推薦枠は担当教員が作品を 10 点程度選定する方法とした。

11 名の学生から応募があった 11 点の創作作品について、高短祭開催期間中（10 月 19 日・20 日）にはカフェテリアに設置した展示スペースで、その後は図書館内で展示を行った。展示期間中、学生・教職員及び高短祭での一般参加者あわせて 75 件の投票があり、11 月 26 日に図書館で表彰式を行った。

今年度は作品の提出数に減少が見られたため、次年度の課題として早い段階で本企画の周知を図ることとし、各ゼミナール教員に一層の協力を仰ぐこととした。

VIII 加盟団体での活動への参加

1. 三重県図書館協会

- ・三重県総合文化センターで三重県図書館協会総会が開催され、参加した（令和 6 年 6 月）。
- ・三重県生涯学習センターで三重県図書館協会研修会「図書館職員専門講座」が開催され、参加した（令和 6 年 10 月）。

2. 私立短期大学図書館協議会 2024 年度全国理事会・総会

林野会館で開催され理事会（5 月 16 日（木）、林野会館にて開催）には館長と西尾が、また 2024 年度全国定期総会（5 月 17 日（金）、株式会社内田洋行 新川本社にて開催）には、館長と瀬古が参加した。

いずれも、本部業務の負担および、協議会の予算ひっ迫についての議論が中心であった。ただし、東海・北陸地区協議会の会員の立場からは、中央のもめごとをなぜ、全国で議論せねばならないのかについては、理解に苦しむところがあった。

これに関連して、令和 6 年 2 月 5 日、高田短期大学図書館において、館長の大野が齊藤誠一会長によるヒヤリングを受けた。

齋藤会長から、現状での課題や、その対策として協議会の執行体制、財政・会計処理、研修会、発行物等について説明があった。その中で地区加盟館に大きく関わる可能性のあることとしては、1) 協議会本部の業務を地区理事が分担して運営を行うという提案、2) 会計処理を本部に一本化する等の提案があった。

大野から齋藤会長へは、留意すべき点として、以下の点を伝えた。

- (1) 実務担当者の業務を理事（図書館長）がオーソライズできる仕組みが必要
- (2) 地区会費を本部に一本化するのであれば会計上の課題をクリアにすること
- (3) 地区でのつながりを大切にしていきたい
- (4) 協議会を維持していけない場合は、四年制大学の関連協会へ合流することも中長期的には考えた方が良いのではないかと

全体として金は中央で、仕事は地区で分担という案と読め、この案に従えば、むしろ東海・北陸地区の協議会の活動が鈍化するのではないかと印象をもった。

3. 東海・北陸地区図書館協議会

今年度は、令和 6 年度会長校として東海・北陸地区図書館協議会の業務を担当した。

- (1) 私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会令和 6 年度総大会の開催
東海・北陸地区の加盟館（10 館）のうち、8 館 15 名の方の参加があった。

開催日：令和 6 年 9 月 6 日（金）

会 場：高田短期大学附属図書館

時 間：13：00～17：00

日 程：総会 13：00～13：45

研修会 講演 14：00～15：30

テーマ：「京都府立図書館の挑戦」

講 師：丸川 修氏（京都府立図書館元館長）

見 学 15：50～17：00

真宗高田派本山専修寺

意見交換会：ブテートル 17：30～19：00

総会の議題

1. 令和 6 年度年度役員紹介
2. 令和 5 年度事業報告について
3. 令和 5 年度決算報告および監査報告について
4. 令和 6 年度事業計画案について
5. 令和 6 年度予算案について
6. 会長校・地区幹事校の輪番について
7. 令和 7 年度役員の確認
8. その他

研修会

1. 講演 14：00～15：30

「京都府立図書館の取り組み」

講師：丸川 修 氏（京都府立図書館元館長）

2. 見学 15:50～17:00 真宗高田派本山専修寺
3. 意見交換会 17:30～19:00 プテートル（津駅東口より徒歩約10分）

総会後、講演開始までの時間に、富山短期大学附属図書館から能登半島地震での図書館復旧作業の経過についてご報告をいただき、活発な意見交換が行われた。

IX 令和6年度の改善点と課題

1. 改善したこと

- ・私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会の地区総大会の開催をはじめとした当番校業務に労力と時間がかかったが、無事遂行することができた。
- ・図書館の使い方や資料の探し方を案内する新入生向けガイダンスを、令和5年度までは要望に応じて授業時間中に図書館で説明していたが、令和6年度は講堂で各学科1回ずつ開催し、希望するゼミに参加いただいた。また、参加されなかったゼミにも事後にプリントを配布した。
- ・図書館ホームページ「お知らせ」になるべく多くの情報を掲載することを目指して令和6年度は25件掲載した。令和5年度19件よりやや増加した。
- ・2階および3階の書架スペース不足解消の対策として、令和6年度も整理をして内容の古くなった図書を除籍・廃棄した。
- ・短期保管が想定される問題集等はこれまで登録してこなかったが、新しいものから簡易登録を始めた。これにより問題集等のホームページでの蔵書検索や迅速な貸出処理ができるようになった。学生の問題集貸出件数は令和6年度が147件で令和5年度の66件より増加した。

2. 次年度に向けた課題

- ・学生の図書貸出件数が減少しているため利用促進を図る必要がある。
 - ・創作作品展の出品数が減少しているため、図書館メイトの協力もいただきながら出品の促進を図りたい。
 - ・図書館メイトの活動を充実させ、利用につなげていきたい。
 - ・令和6年度は受入冊数がこれまでに比べて大きく減少した。選書してもらいやすい手だてを考えたい。
 - ・紀要については、次年度以降、「高田短期大学紀要」と「育児文化研究センター紀要」が統合されて新たな編集委員会が立ち上がるが、庶務にあたる図書館員の人数は変わらないため、負担がかからないよう配慮が必要である。
- 機関リポジトリでの紀要の公開がまだ実施できていないため、引き続き、実施の準備を進めていく。



学生支援委員会

年次報告書

学科長 長倉 里加

1. 昨年までの課題

- ・全学的な学生支援の体制整備と学生、教職員への周知。
…業務フローの作成、臨床心理士の業務の明確化、教職員との協働体制の整備など。
- ・教職員向けの学生支援に係る研修会を継続して開催すること。
- ・学内における検査体制の整備など、短大内でのサポート体制の充実を図る。
- ・学生相談室について学生への周知を徹底し、より活発な活用を図る。
- ・多様化する学生への支援体制の見直し。
…学生相談における専門性の向上、UPI テストに代わる検査の検討など。

2. 本年度改善されたこと

- ・専用の学生相談室と専門職の担当が配置された。
- ・学生支援に対して教職員の関心が高まった。
- ・学生相談室に常勤の臨床心理士が配置されたことで、学生や教職員が相談しやすい環境となった。
- ・学生相談室、保健室では職員が常駐しているため、支援を必要とする学生の居場所ができた。
- ・学生相談体制のフローができたことにより、保健室、カウンセリング室、学生相談室を含めた学校全体での学生支援体制における役割分担および連携の体制が明確化した。
- ・学生の立場に立って修学に関するフローチャートを作成し直したことにより、学生が相談・申請しやすい環境となり、よりよい学生生活を送ることに繋がっている。
- ・昨年までに比べ、ケース会議が迅速に行われるようになり、支援課題の多い学生に対する情報共有や専門家の意見を含め、課題の抽出や解決策を考えるにあたり、全学的に取り組んでいる感覚を持てるようになったので、精神的負担が軽くなった。
- ・会議等の場においてコース教員間で共有した「学生状況」を学生支援委員会の場でも共有されることで、より広く学内関係者間で情報の共有を図ることができた。
- ・発達特性を理解するための「ウェクスラー成人知能検査(WAIS-IV)」導入により、UPI テストの改善が不要となった。
- ・学生情報の集約方法が簡素化された。
- ・専門職より学生支援の方法を委員会のメンバーにレクチャーする機会を設けた。

3. 新たな課題

- ・学生相談室の利用方法が学生・教職員に浸透しているとは言い難い。
- ・学生相談室の利用は少なく、十分に活用されているとは言い難い。
- ・学生相談室に学生が相談に行く、または学生を学生相談室に繋いだが具体的な支援に結びつかないこともあり、学生や教職員から頼られる相談室になるよう内

容の充実を図る必要がある。

- ・学生相談室と関係部署との連携・情報共有について、どのような連携・情報共有をめざすのか、学内での合意形成と構造化が必要である。

- ・心理検査体制の整備ができていない。

- ・業務フローと実際の動きが乖離することのないよう、業務フローで決めた一連の流れをルーティン化していくことが重要。さらに各セクションにおける支援の体制がうやむやにならないよう、業務フローの遵守を実践していくこと、実践できているかのチェックを怠らないことが重要。

- ・委員会で共有する情報量が多いため共有する情報の整理とともに、情報の平準化を図ることが必要である。

- ・共有された情報をどこまで各学科・各部署で共有するか決まっておらず、共有に関する共通認識が必要である。

- ・委員会の参加者も多く、参加者の整理が必要である。

- ・欠席過多の学生への指導については、授業担当者とゼミ担当教員から行っているが、ゼミ担当教員が自身の科目以外のことで学生を指導するということが非常に負担になっている。そのため、教務課と学生相談室が情報共有することで、ゼミ担当教員や授業担当者からの報告を待たずに学生相談室から直接学生に声をかけることで、休退学の早期に発見・支援に繋がり、教員の負担軽減にも繋がるのではないか。

- ・教職員（非常勤含む）に対して、特別な配慮が必要な学生についての連絡が不十分である。毎年、てんかんや心臓病の学生が入学しているが、授業中の病気やケガ等への対応について詳細な連絡が無い。学生の命にかかわるため、発生した時の対応については事前に保健室から授業担当へ文書でもって知らせる必要があるのではないか。

4. 次年度取り組むべきこと

- ・学生相談室の利用方法や可能な支援等、学生及び教職員への周知。
- ・学生相談室の支援内容の充実。
- ・学生相談室と関連部署との情報共有及び連携の構造化。
- ・心理検査体制の整備。
- ・学生支援体制についてのフローの遵守。
- ・学生支援に関する知識・技術の啓蒙活動と啓発活動。
- ・特別な配慮が必要な学生についての情報提供及び対応方法について情報共有。
- ・委員会における情報の整理及び情報の平準化。



仏教行事委員会

年次報告書

学科長 松山 智道

I. 昨年までの課題

1. 行事全般について

- ・ 行事への出席者を増やすための工夫が必要である。
- ・ 灌仏会の花を持参する学生数を増やす工夫が必要である。
- ・ ミニレポートの内容を充実させる工夫が必要である。
- ・ 他大学の仏教行事への取り組み事例を引き続き調べたい。
- ・ 一般の出席者への呼びかけができない。

2. 聖歌隊について

- ・ 新型コロナウイルス感染症が五類に移行したが、いまだに感染対策重視のため、今年度も1年間歌う機会がないまま終了した。

II. 本年度改善されたこと

1. 行事全般について

- ・ 灌仏会では、献花を持ってきた学生が、令和元年度が35名、令和二年度が24名、令和三年度が61名、令和四年度が89名、そして昨年度と今年度は60名であった。献花への意識はある程度、保持されていると思われる。
- ・ 今まででは提出されたミニレポートを冊子化し、それを教員が回覧していたが、今年度よりミニレポートをPDFファイルにし、教職員共有フォルダーに置くことによって、紙や時間などを削減することができた。

2. 聖歌隊について

- ・ 今年度は、コロナ前に戻り、聖歌隊が歌えるようになった。

III. 新たな課題

1. 行事全般について

- ・ 昨年同様、2年生の出席率が極端に低くなっている。

2. 聖歌隊について

- ・ 特に無し。

IV. 次年度に取り組むべきこと

1. 行事全般について

- ・ 特に2年生の出席者数を増やす工夫を考える。
- ・ 仏教行事に参加する一部の学生の態度が良くないので、一般の参加者が見ても恥ずかしくないものにするにはどうしたらいいかを考える。

- ・灌仏会の花を持参する学生数を増やす工夫を考える。
- ・ミニレポートの内容を充実させる工夫を考える。
- ・他大学の仏教行事への取り組み事例を引き続き調べたい。
- ・ご本山への参詣が入学式後の一回のみであるから、さらに回数を増やす手立てを考える。
- ・講師の人選について、学生の関心を引き、新鮮な話が聞ける講師を考える。

2.聖歌隊について

次年度もさらに聖歌隊員を募集し、今年同様に、聖歌隊反省会兼交流会の回数や内容を充実させ、隊員同士を交流させることで隊員間の意思疎通が容易になり、聖歌隊を維持する上でプラスになると思われる。

XIII

ネットワーク委員会

年次報告書

学科長 鷺尾 敦

1. 令和6年度当初の課題

(1) 新入生のノートパソコンの購入状況の把握

令和6年度入学生から各自でノートパソコンを準備することになった。今年度は、自前ノートPCを利用する初めての年にあたり、昨年の準備や対応などがうまくいったのかを検証する必要がある。そのため、実際に新入生がどのようなパソコンを購入したのか、どのような方法で購入したのか、どのような課題があるのか、どのような支援があればよかったのか等について調査をする。

(2) ネットワーク利用手引書の改訂と配布

学生向けネットワーク利用手引書の改訂版をAAAを通じて配布する。

2. 本年度改善されたこと

(1) 新入生のノートPCの購入状況の把握

4月9日~24日までの間に「情報基礎演習」という科目の中で全1年生にアンケートを実施した。

有効回答数は次のとおりである。

子ども学科	136名 / 142名	96%
キャリア育成学科	102名 / 108名	94%
オフィスワークコース	66名 / 68名	97%
介護福祉コース	36名 / 40名	90%
留学生	7名 / 10名	70%
全体	238名 / 250名	95%

アンケート結果は、第1回ネットワーク委員会と9月3日の教授会で報告した。

アンケート結果とノートPCを使う「情報基礎演習」での利用状況から、ネットワーク委員会に報告した概要は次のとおりである。

i) アンケート調査結果から

- ・情報基礎演習の時間にアンケートをとり、PCの導入状況を報告した(別資料参照)。
- ・ヤマダデンキ特設サイトでは46件の購入があり、またサイトで選択できる機種や配布したスペックに対応した機種選択はスムーズに行われた。
- ・マウスを持たない学生が一定程度いる。またプリンターは意外に多くの学生がもっていた(6割)が、持たない学生も多い。

ii) 授業の様子から

- ・授業当初は、Officeの導入トラブル、教室のWi-Fiアクセスポイントにつながらないトラブル、パソコンのログインアカウント及びGoogleやメール等のアカウントトラブル、Oneドライブ設定トラブルなど、これらが複合的に重なり合い、その

対応で授業が進まないときがあった。

- ・ 6、7 回目あたりから授業でのノート PC 利用がようやく落ち着いた。
- ・ 学生の購入機種が、推薦機種といった一定程度の種類に収まったのが良い。一方で、古い機種、古い機種をアップデートした機種などの場合、音声が出ない、マイクが使えない、充電ができない、などトラブルが多発した。
- ・ 授業で薦めてもマウスを購入しない学生が一定程度おり、その学生たちが、PC によって微妙に使い方が異なるタッチパッドの使い方を理解していないため、操作がなかなかできず、授業の進度に遅れてしまう学生が多くあった。来年度はマウス必須としたい。
- ・ また、新規購入者は、パソコンのログインアカウントを、マイクロソフトアカウントにしている。これまでは、本学配布 PC ではローカルアカウントで設定されていたため、授業担当者がこの違いに気づくのが遅かった。また、One ドライブの利用設定にばらつきがあり（使う、使わない、常にバックアップする等）、従来の指導では、触れていなかった点の指導が必要であることがわかった。
- ・ Office のアクティベートをしてない、そもそも導入をしていない、マックを持ち込む学生があった。
- ・ 後半の授業でマイク、スピーカー、カメラなどを扱ったが、デバイスドライバーに不具合があるケースが複数名あり、個別にトラブル対応をせざるを得なかった。
- ・ 子ども学科では、非常勤講師が授業担当をしていることもあり、学生パソコンのトラブルに対応する学校の対応が必要と思われる（PC に関する学生相談、トラブル原因の切り分け、ハード面を除く設定やドライバー等によるトラブル対応など）。
- ・ 学生の自前パソコンが故障しているケースが複数あり、直ってくるまでの間、卒業必須である情報基礎演習の授業をただ聴いているだけの状態となったケースがあった。学生の自前パソコンを使った授業が卒業必須となったが、トラブルの間、学生に貸出できるパソコンが必要ではないか。

（２）ネットワーク利用手引書の改訂と配布

令和 5 年度に、ネットワーク利用手引書が学生に配布できていなかったことがわかり、令和 6 年度に AAA に掲載した。

（３）推奨ノートパソコンの仕様の決定と連絡

昨年に引き続き、ノート PC の仕様を検討した。昨年策定した、「基本スペック」「推奨スペック」を近年の情報機器の状況と来年度 Windows10 のサポート終了も考慮し、修正を加えた。保護者に対しては昨年度と同様の時期、流れで資料を配布した。

昨年に引き続き、ヤマダデンキに購入 Web サイトの購入を依頼した。昨年 46 件に対

し、今年度は 51 件の購入があった。本学への電話相談は、昨年の 12 件から 1 件に激減した。ほかに、学校に別用件で来たついでに「ChromeBook が利用できないか」という相談が 2 件あった。

3. 新たな課題

(1) PC 教室の改善

令和 7 年度予算に、Windows11 を OS とした新たな PC の導入と、それに付随して授業支援システムのアップデート、中央モニターシステムの更新、机・椅子の更新、さらには情報演習室の PC の入れ替えを要望して予算案を提示した。しかし、予算ヒアリングでは、来年度学苑全体として蛍光灯の LED への全交換費用や電気代等の高騰、子ども学科の入学生の減少、今後の学生数の見込み等の懸案から予算に組み入れることができないと、修正を求められた。

情報演習室 PC は廃棄（Windows11 へアップデートできない機種のため）とし、PC 教室の PC は Windows11 へアップデートし、その一部を情報演習室に移設することで、対応をお願いした。授業支援システムはアップデートする。中央モニターシステムは部品が調達できないほど古いので、壊れたら修理できず壊れっぱなしとなる。移動する 10 台分に対応する椅子は悪いものを廃棄、机は移動できる場所にあるものは移動し、そうでないものは、角の修繕のみとなる。

(2) 学生ノート PC での情報系授業の実施について議論

アップデートした PC は、2019 年(令和元年)導入されたものであり、2025 年度で 6 年目である。Windows11 にアップデートできても、OS 等の負荷の増大により利用できてもあと 2 年程度(購入後 7 年)と予想される。

学苑本部は、学生の情報系の学習を学生が購入するノート PC で行うことを希望している。情報系教員からみれば、ノート PC で実務系アプリの活用の指導をするのは、多くの課題を抱えていると考える。また、オフィスワークコースの学生募集の訴求力も弱まり、またオープンキャンパスや公開講座などの多くができなくなるというデメリットがある。それらのことを踏まえて、本当にノート PC を授業で使うかについて、ネットワーク委員会及び情報教員で検討し、本学運営会議に PC 教室の必要性を理解してもらう必要がある。

現状考えられる課題は、次のとおりである。

- ・EXCEL 等のアプリでは細かなポインター操作が必要であり、ノート PC のスクリーンの小ささが課題となる。そのため、外部モニターの設置、モニターにつなげるための個々の PC の違いを考慮した多様なインターフェースに対応したコンバーターを準備する必要がある。

- ・教室の机に情報演習室1のようなコンセントを設置する必要がある。
- ・PC教室にはWi-Fiのアクセスポイントがないので、設置する必要がある。
- ・学生がノートPCを忘れたり、壊れたりした場合の対応方について検討し準備する必要がある（機器の準備、対応窓口、手続きの方法、保険等）。
- ・オフィスワークコースのPC教室を使ったオープンキャンパスができなくなり、高校生への訴求力が弱まる。
- ・地域の公開講座等多くのPC系の講座ができなくなる。

（３）Wi-Fi アクセスポイントの更新

壊れているWi-Fi アクセスポイントの更新と次年度以降のWi-Fi アクセスポイントの更新計画の策定。

４．次年度取り組むべきこと

（１）学生ノートPCでの情報系授業の実施の議論とPC教室PC更新との比較検討

PC教室のPC購入せず、ノートPCでの情報系授業ができるかについて、議論を進め、その場合のデメリットを明確にする。情報系授業をノートPCで行う場合に準備しなければならない事項の費用と、PC更新の費用との比較なども行うことにより、経営的にどちらがいいのかを判断する資料を作成する。その結果を短大で必要な運営会議に提出し、PC教室へのPC入れ替えの必要性についてあらためて短大として方針を決めてもらう必要がある。

（２）PC教室のパソコンのWindows11へのアップデート

Windows11へのアップデートの実施と情報演習室への移動の実施と確認をする。

PC教室のOffice2024へのアップデートの検討、必要であれば実施する。

（３）Wi-Fi アクセスポイントの更新

壊れているWi-Fi アクセスポイントの更新の実施と確認。次年度以降のWi-Fi アクセスポイントの更新計画の策定する。

以 上

XIV

外国人留学生支援委員会

年次報告書

学科長 長谷川 恭子

I. 昨年度までの課題

(1) 外国人留学生の修学および生活指導に関すること

- ・ 修学に必要な日本語能力を有する留学生の獲得
- ・ 留学生の勉学へのサポートの充実
- ・ 日本人との交流、コミュニケーション力の向上
- ・ 健康と安全を守る指導の充実

(2) 国家試験対策に関すること

- ・ 留学生の国家試験合格へのモチベーション向上
- ・ 介護福祉コースと連携しての取り組み

(3) 留学生支援委員会に関すること

- ・ 効率的で計画的な委員会の開催
- ・ オフィスワークコース、介護福祉コースとの連携

II. 本年度改善されたこと

(1) 外国人留学生の修学および生活指導に関すること

- ・ 修学に必要な日本語能力を有する留学生の獲得

今年度介護福祉コースに入学した留学生は、入学時点において殆どが N3 を取得していた。7 月に実施した日本語能力試験において、N2 に 3 名合格、他全て N3 を取得でき、後期からは在籍留学生全てが N3 以上を取得した状態で授業に臨むことができた。

- ・ 留学生の勉学へのサポートの充実

日本語補習講座を月曜 4 限に開講するほか、介護福祉コースの授業で補助が必要なものに日本語補助員を配置した。日本語補助員の配置科目は医学の知識が必要な科目や社会保障制度等国家試験問題にも関わる科目に配置した。また、留学生支援室で出欠の確認、授業・テキストでわからない言葉などのサポート、履修登録の支援などを行った。

日本人学生と留学生が一緒に学ぶ科目においては、日本語能力に応じた留学生用の配布プリントを作成し、必要に応じて個別指導を行った。

- ・ 日本人との交流、日本語を話す機会の拡大

介護福祉コース 2 年生は 38 名中留学生が 6 名、1 年生は 36 名中留学生が 7 名であり、以前のように授業以外はほとんど日本語を使わないという状況は改善された。日本人学生が留学生をサポートする様子も見られるようになった。

- ・ 健康と安全を守る指導の充実

介護実習の前には介護福祉コースでも指導を行い、体調管理やアルバイトの制限など介護実習に控えるための指導を徹底した。結核の既往歴がある学生においては、日常生活及び介護実習に支障はないものの実習先にもご理解いただく為診断書を提示し、学生の安全に努めた。

(2) 国家試験対策に関すること

- ・留学生の国家試験合格へのモチベーション向上

介護福祉コース、留学生支援室で、介護福祉士の資格を取得することにより安定的に日本で働き続けることができること、資格手当等処遇も良くなることなどを伝え、モチベーションの向上に繋がるよう努めた。

- ・介護福祉コースと連携しての取り組み

2年後期火曜2限に留学生向け国家試験対策講座を開講。国家試験対策の授業（介護福祉演習Ⅰ・Ⅱ）では日本人学生も含めての授業であることから、留学生に特化した対策講座を実施した。担当教員は介護福祉コース専任教員4名とし、それぞれの科目を分担して行った。2年は一部の学生のみ参加していたが、1年は空きコマであったことから、ほぼ全員が参加していた。

(3) 留学生支援委員会に関すること

- ・前年度同様、委員会は3回実施した。情報共有が必要な事項についてはメールにて行うことで、対面での委員会を削減、特段大きな支障はなく実施できた。
- ・オフィスワークコース、介護福祉コースの専任教員と学生状況や卒業生の情報共有等行うことができた。

Ⅲ. 新たな課題

(1) 外国人留学生の修学および生活指導に関すること

- ・修学に必要な日本語能力を有する留学生の獲得
- ・留学生の勉学へのサポート
- ・健康と安全を守る指導の充実

(2) 国家試験対策に関すること

- ・留学生の国家試験合格に向けた取り組み・指導強化
- ・介護福祉コースと連携しての取り組み

(3) 留学生支援委員会に関すること

- ・効率的で計画的な委員会の開催
- ・オフィスワークコース、介護福祉コースとの連携

Ⅳ. 来年度の取り組み

(1) 外国人留学生の修学および生活指導に関すること

勉学へのモチベーションを維持向上し、引き続きサポート体制の充実を図っていく。介護福祉コース、オフィスワークコースと連携し、学生の状況を把握しながら、次の事項に重点的に取り組む。

- ・修学に必要な日本語能力を有する留学生の獲得

授業料について、JLPT合格レベルによる減免、または学業成績により減免される制度をアピールし、より日本語能力の高い学生、日本語の修得に意欲を持つ留学生の獲得に繋げる。

- ・留学生の勉学へのサポート

現1年生は全体的に日本語能力が高く、N3レベルの学生であってもN2にチャレンジできるだけの能力を持ち合わせている。新1年については日本語能力がやや低く、入学前から自己学習を進めることが求められる。

補助が必要と考えられる科目については日本語補助員を配置し、サポートを行う。また、専任教員と連携して、留学生支援室で勉学に関する相談に対応していく。

- ・健康と安全を守る指導の充実

介護実習前には特に新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症への注意喚起、指導を徹底していく。既往歴がないか、体調面に不安がないかの聴き取りも定期的に行い、健康管理を行っていく。

(2) 国家試験対策に関すること

- ・留学生の国家試験合格に向けた取り組み・指導強化

- ・介護福祉コースと連携しての取り組み

より早い段階で国家試験を意識させる為の取り組みを介護福祉コースと連携しながら行っていく。引き続き、介護福祉士の資格を取得することにより安定的に日本で働き続けることができること、処遇も良くなることなどを伝え、合格へのモチベーション向上に繋げる。また、次年度も国試対策特別講座を介護福祉コース専任教員にて実施する。留学生の参加も促し、学びの環境を整えていく。

(3) 留学生支援委員会に関すること

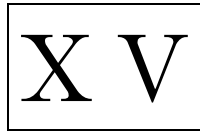
- ・効率的で計画的な委員会の開催

協議が必要な事項のスケジュールを明確にし、メールでの情報共有なども利用し、効率的に委員会を開催する。

- ・オフィスワークコース、介護福祉コースとの連携

オフィスワークコース、介護福祉コースと協力・連携して課題に取り組む。また、留学生の状況を共有し、学生の抱える課題に対処していく。

以上



研究倫理委員会

年次報告書

委員長 大野 照文

I 実施体制

委員 福西朋子、野呂 賢一、生駒 雅之 大野 照文（委員長）
事務局 高臣 亮太

I I 審議の流れ

審査の流れは、以下の通り。

【5月末／11月末まで】

各申請者から申請書類の到着

【申請書類到着後】

- ・倫理審査申請書チェックシートの作成
- ・申請書類の内容確認 →PDF で取込み
- ・ML にて各委員に委員会開催日時の通知、及び資料の送付

＜資料について＞

- ・倫理審査申請書チェックシート
- ・申請書類(申請書、及び論文原稿)
→事務担当者作成
- ・事項書

【研究倫理審査委員会】

実施計画については内容について研究倫理的な観点から問題がないか審査

出版公表原稿については原稿の提出もしてもらい、内容を審査

審査後に承認、条件付き承認、変更の勧告、不承認、非該当のいずれかを決定

条件付き承認については委員会後に対象者に連絡し修正・再提出を依頼

【研究倫理審査委員会後】

- ・議事録作成
- ・答申書(別紙様式2)作成 ※条件付き承認については修正箇所を記載
- ・修正後の申請書を回収

【学長へ資料の提出】

→倫理審査申請書チェックシート、各申請書(修正後のもの)、答申書

以上3点を学長に提出し、承認してもらう

【学長承認後】

- ・結果通知書(別紙様式3)を作成 ※修正した条件付き承認のものも承認とする
- ・起案をして、結果通知書、議事録、チェックシートを添付して決裁

- ・決裁取れ次第、学長印を押印して各教員へ送付

I I I 議事録

1. 令和6年度 第1回研究倫理委員会議事録

1. 日 時： 令和6年6月3日（月）10:40～11:30

2. 場 所： 図書館

3. 出席者： 委員長 大野 照文

委 員 福西 朋子、野呂 健一、生駒 昌之(欠席)

事務局 高臣 亮太

4. 協議内容

(1) 申請の確認 (5 件)

今回の5件の申請について「高田短期大学研究倫理規定」に基づき、申請書について審査を行った。

(2) 審査協議

上記の結果、5件の申請について以下の通り承認することを委員長と出席委員全員の合意により判定した。

No	所属	申請者	結果
No1	キャリア育成学科	教授 中川 千代	条件付承認 関係親族の了解を得ていること
No2	子ども学科	准教授 林 幹士	承認
No3	キャリア育成学科	助教 長谷川 恭子	修正確認後に承認 10(1)(2)の「対象者」を明確に記載
No4	高田短期大学	非常勤講師 村尾 悠	修正確認後に承認 5の1か所の誤記を修正
No5	キャリア育成学科	助教 東海林 藍	承認

5. その他

(1) 研究倫理・公正についての啓発について

研究倫理・公正の啓発について、日本学術振興会が提供している研究倫理eラーニングを参考に検討を行ったが、自己点検評価委員会でも教員全体に受講させる必要がある話が出ていたことから、大野研究倫理委員長より自己点検・評価委員長である学長へ確認することとなった。

(2) 審査時期について

審議は、昨年同様6月・11月及び年度末を予定するが、委員長の判断により急ぐ必要がある申請については、別途、回覧・メールでの審議を行うこととなった。

2. 令和6年度 第2回研究倫理委員会 議事録

1. 日 時： 令和6年12月9日（月）10:40～11:30

2. 場 所： 図書館

3. 出席者： 委員長 大野 照文

委 員 福西 朋子、野呂 健一、生駒 昌之

事務局 高臣 亮太

【協議事項】

1. 審査

(1) 申請の確認（6件）

今回の6件の申請について「高田短期大学研究倫理規定」に基づき、申請書について審査を行った。

(2) 審査協議

No	所属	申請者	結果
No4	子ども学科	古谷 淳	是正(委員会指示)→修正確認後承認 是正内容：10(2)「ただし」以下を削除
No5	子ども学科	古谷 淳	是正(委員会指示)→修正確認後承認 是正内容：10(2)「ただし」以下を削除
No6	キャリア育成学科	伊東 秀幸	承認
No7	キャリア育成学科	伊東 秀幸	承認
No8	キャリア育成学科	上山 由紀子	承認
No9	子ども学科	亀澤 朋恵	承認

2. その他

(1) 研究倫理・公正についての啓発について

組織的に実施できればという方向で確認を行い、研究費申請している教員をし

ているすべての専任教員に対して実施する方向で、内規の改定を目指すこととなった。

(2) 審査時期について

今年度同様6月・12月の年2回を基本として、必要に応じてweb審議を実施することが確認された。

(3) その他

以 上

2. 第2回研究倫理委員会以降に提出の申請

以下の申請は、第2回研究倫理委員会開催後に提出され、3月24日現在審議中である。

No.	所属	申請者	審議途中経過
No1	子ども学科	古谷 淳	是正(委員会指示)→修正確認後承認 是正内容:10(2)「ただし」以下を削除
No2	子ども学科	古谷 淳	是正(委員会指示)→修正確認後承認 是正内容:10(2)「ただし」以下を削除
No3	キャリア育成学科	村尾 悠	

I V今年度申請の一覧

以下に今年度の申請と審査結果一覧を掲載する

No.	所 属	職 名	名 前	審査対象	課 題 名	研究実施予定期間	研究発表先	提出日	審査
1	キャリアア育成学科	教授	野呂 健一	実施計画	間隔・頻度の表現「～おき」「～ぶり」における解釈の揺れ	2024年7月～2024年11月	「高田短期大学紀要」(令和7年9月発行)に投稿予定	7月15日	10月1日 承認済 web審議
2	子ども学科	特任教授	大野 照文	実施計画	三葉虫ワークショップから解析する情動と理性	2024年6月～2025年3月	高田短期大学紀要 (予定)	8月30日	10月1日 承認済 web審議
3	子ども学科	教授	青木 信子	実施計画	保育現場における保育の実践と意識に関する研究	2023年12月～2025年3月	高田短期大学紀要第43号 (2025年3月)	9月20日	10月1日 承認済 web審議
4	子ども学科	助教	古谷 淳	実施計画	保育所経営コンサルタント企業が与える 保育業界への負荷について	2024年11月～2026年3月	日本児童学会・日本家政学会等の学術誌への投稿 (予定)	10月8日	12月27日 承認済
5	子ども学科	助教	古谷 淳	実施計画	保育士向け退職代行企業を対象にした「超早期退職者」の現状に関する調査	2024年11月～2026年3月	日本児童学会・日本家政学会等の学術誌への投稿 (予定)	10月9日	12月27日 承認済
6	キャリアア育成学科	助教	伊東 秀幸	実施計画	観光ホスピタリティ教育に関する調査	2024年8月～2025年3月	日本観光ホスピタリティ教育学会 第24回全国大会 (2025年3月)	11月11日	12月27日 承認済
7	キャリアア育成学科	助教	伊東 秀幸	実施計画	税務会計教育に関する調査	2024年8月～2025年3月	高田短期大学紀要第43号 (2025年3月)	11月11日	12月27日 承認済
8	キャリアア育成学科	講師	上山 由紀子	実施計画	医療的ケア教育の問題と取り組み ～授業の一考察～	2023年4月～2025年1月	高田短期大学介護福祉研究 第11号 (2025年3月)	11月18日	12月27日 承認済
9	子ども学科	講師	龜澤 朋恵	実施計画	保育系短期大学の「表現」と 「コミュニケーション」のとらえ方の意識変化 (仮) ー「保育内容一貫性」の授業実践からー	2024年9月～2027年3月	・育児文化研究センター、日本保育学会等の機関誌、大会等 ・2025年高田短期大学育児文化研究センター「育児文化研究」に投稿 (予定) ・研究成果発表は、調査実施報告を含め3か年にて複数回実施 (予定)	12月2日	12月27日 承認済
10	子ども学科	助教	古谷 淳	実施計画	企業主導型保育事業者における保育所経営の 「生き残り戦略について」	2025年3月～2026年2月	日本児童学会・日本家政学会等の学術誌への投稿 (予定)	2月3日	
11	子ども学科	助教	古谷 淳	実施計画	企業主導型保育事業における助成金不正受給のための スクリーニングについて	2025年3月～2026年2月	日本児童学会・日本家政学会等の学術誌への投稿 (予定)	2月3日	
12	キャリアア育成学科	非常勤講師	村尾 悠	実施計画	特別養護老人ホームにおける転倒歴がある要介護者に フットケアが与える効果の事例検討	2025年4月～2026年4月	第6回日本フットケア・足病医学会年次学術集会 2026年2月27日・28日	2月20日	

V 今年度のまとめと課題

1. 審査書類について

今年度は2回の委員会を開催した。申請書類は、概ね適正に書かれていたが、アンケート調査において、相手方に不利な記載が見受けられるものがあった。具体的には、調査対象者が同意した調査の途中で、不同意に転じた場合、申請者は不同意までのデータを活用することが出来るという項目を含むものであった。そこで、これを不同意の場合は、全てのデータを使用しない形に修正のうえ、承認した。

2. 研究費についての倫理

本委員会では、研究の手法についての倫理的審査を行っているが、研究費の適正な執行についての審査や監査は、任務ではない。そこで、これを補うため、日本学術振興会が提供している研究倫理 e ラーニングの受講を教員全体に義務づける方向での検討が必要である。

XVI

ボランティア活動支援室運営委員会

年次報告書

学科長 野呂 健一

I 昨年までの課題

1. 全体

- (1) 2号館1階から3階に移動後の運営方法について（学生への周知、ボランティア掲示方法など）。
- (2) オフィスワークコース授業「地域実践」授業担当との連携について

2. 子ども学科

- (1) 昨年までのコロナ禍からの移行期であったため、保育施設等からのボランティア要請が予測できない状態にある。ひとつひとつの要請を吟味し対応する必要がある。

3. オフィスワークコース

- (1) 本年度をもってキャリア研究センターが廃止され、イベント等はオフィスワークコースが管轄することとなる。コースとしてこれまでの学生ボランティア活動内容を見直す必要がある。
- (2) ゼミナール単位で活動できるボランティア活動を積極的に取り入れ、地域貢献への意識を高めていく必要がある。

4. 介護福祉コース

- (1) 来年度は日本人学生がさらに増加する。コロナ禍の状況の影響は残るものの、社会貢献の重要性を意識できるようボランティア活動に積極的に参加できる呼びかけや環境作りが必要である。
- (2) 新しい教員を迎え、介護福祉コース、介護福祉研究センターともに活動を見直し、地道に新しい風を吹かせられるよう効率よく効果的な学びの環境作りが必要となる。

II 本年度改善されたこと

1. 全体

- (1) 支援室が3階に移動したのちも、ボランティア募集案内は引き続き、1階キャリア支援センター横に掲示した。また、活動内容別に掲示するなど、目に留まりやすいように工夫をした。3階にもボランティア室への導線を示す表示をした。
- (2) 支援室へ足を運んでもらうように、前期・後期に1度ずつ、簡単なクイズを学生玄関におき、正解者には景品を出す試みを行った。

2. 子ども学科

- (1) 令和6年度は、1年間を通して1回以上のボランティア活動や社会貢献活動（運動会や生活発表会等の手伝いなど）をおこなうこととした。
- (2) 様々な園からのボランティア要請は、「ボランティアの承認基準」に照らして整理されてきている。

3. オフィスワークコース

- (1) 1年生に「地域実践」の積極的な履修を呼び掛け、1人で3回以上の活動に参加する学生が増えた。また、内容に連続性を持たせることによって、学生の資質・能

力を熟練させることができた。

- (2) 「地域実践」の授業で指定する活動を精選したことによって、授業担当者の巡回指導を実現させることができた。また、授業担当者が実態を把握することによって、活動の質も高められた。
- (3) 学生の関心に合った社会課題に関する活動が増え始め、「地域実践」の履修に関わらず、任意で参加する学生が見られた。

4. 介護福祉コース

- (1) 今年度からボランティア室の嘱託職員が「ボランティア論」の授業担当につき、ボランティアの意義を直接伝えることができた。

Ⅲ 新たな課題

1. 全体

- (1) 常駐する職員が1名となるため、不在時の対応が課題となる。
- (2) 学外からのボランティア依頼に対して、半数程度しか応じることができず、本学の評判にも関わる懸念がある。

2. 子ども学科

- (1) 2024年4月から2025年1月までのボランティア活動数が減少した。学生にボランティアの意義を改めて伝える必要がある。

3. オフィスワークコース

- (1) ボランティア活動の経験がない学生が「地域実践」を積極的に履修するきっかけづくりが十分でなく、一斉に周知する機会を設定することが求められる。一方で、「地域実践」を履修する学生や活動の種類が増加すると、巡回指導が難しくなる。また、学期当初や学期末の活動も多く、授業担当者の専任教員が引き受けられる巡回指導に限りがある。

4. 介護福祉コース

- (1) ボランティア論の受講からボランティア参加へ行動を起こした学生が少ないことが課題である。

Ⅳ 次年度取り組むべきこと

1. 全体

- (1) ボランティア室が不在となる場合、学生課で対応してもらうように支援室前及び1階掲示板に案内を行う。また、各種書類に示す電話番号を支援室直通ではなく、短大代表番号とする。
- (2) 新入生オリエンテーションにおいて、従来はボランティアをするための手続き等の説明をしていたが、次年度はボランティアを行う意義について、学生の声を紹介しながら伝えることとする。

2. 子ども学科

- (1) 年度初めにボランティアの意義について学生に伝える機会（短大の新入生オリエ

ンテーションや子ども学科のゼミナール等)を持つ。

(2) 学外、学内両方のボランティア募集内容の周知や申込方法の改善を検討する。

3. オフィスワークコース

(1) 1年生の履修登録時に、ボランティア活動の経験を把握し、「地域実践」の履修につなげる。また、活動の意義を全体に周知するとともに、「スタートアップゼミナール」の授業内容として、ボランティア活動支援室に訪問する機会を設け、参加のきっかけをつくる。

(2) 「地域実践」の授業担当者に支援室嘱託職員を加え、参加する活動の内容や時期にゆとりを持たせる。また、授業担当者数に応じて、担える分野を拡張し、活動の質を向上させる

4. 介護福祉コース

(1) 「スタートアップゼミナール」の授業内容として、ボランティア活動支援室に訪問する機会を設け、参加のきっかけをつくる。

(2) 介護施設からのボランティア依頼があった場合、ゼミ担当教員と連携し、ゼミ学生に参加を働きかけてもらうこととする。

以上



事務局

年次報告書

事務局長 北川 裕之

1. 総務課の業務に関して

(1) 事務連絡会・意見交換会の実施

毎月1回教授会後に全員参加により実施し、教授会報告および各課・センターの次月の行事予定を報告するほか、各自が参加した研修会や学生支援・短大運営等に係る重要事項について発表を行っている。これによりお互いに情報の共有およびスキルアップを図っている。特に課題等はなく、次年度以降も引き続き内容充実に取り組んでいきたい。

(2) エンロールマネジメントについて

エンロールメントマネジメントについてはその内容がアドミッション、カリキュラム、ディプロマの各ポリシーの多岐にわたり、他の部署に関わる内容が多いため、今後の課題としては、学生支援のため引き続き各部署と連携を図る必要がある。

(3) 補助金、各種調査、文書に関する業務、規程改廃について

- ・補助金及び助成金については、私立大学等経常費補助金の他に、科研費、県費補助など適切に申請を行ない、処理することができた。
- ・調査依頼に対しては、提出期限内に回答し、また適正に処理することができた。次年度も引き続き適正な処理を実施していきたい。
- ・文書の接受・発送及び保管に関しては、文書取扱規程および申し合わせに基づき、管理、処理ができた。
- ・学内規則の制定及び改廃については、策定した原案を教授会へ諮り、承認を得た後、学苑本部へ報告している。

(4) 職員の福利厚生及び出張等服務について

- ・教職員の福利厚生については特に問題はなかった。
- ・出張に関しては、旅費請求システムにより、事務の効率化が図られた。
- ・服務上の願い、届け出等の処理、出張に関する書類上の問題は特になかったが、業務がスムーズに行われるためにも、今後とも職員一人ひとりが提出の期限を厳守するよう引き続き促していく必要がある。

(5) 総務課管轄の諸行事について

入学式や卒業証書・学位記授与式については、ほぼ従来型に戻り実施することができた。

また各FD・SDについては、今年度は「私学連携協議会みえ」の当番校であったため、3月に「カスタマーハラスメント」に関するFDSD研修を実施した、その他の諸行事についても問題なく実施することができた。次年度以降も円滑な運営を実施していきたい。

(6) 予算決算及び、会計業務について

- ・毎年、2月頃に部署予算のヒアリングを行っている。今年度は特に問題なく

実施できた。また学生数減少傾向のため収入は減少しているが、支出額は年々増加していることから今後一層の内容を精査し、収支の均衡をとる必要がある。

・承認された部署予算会計業務については、適正な執行に努めた。また、個人研究費についても、規程等に基づき適正に処理した。

(7) 備品、施設設備の整備管理について

- ・大規模事業については、計画的に整備を進めている。
- ・登録・移動・廃棄などの備品管理について、適正な処理に努めている。

(8) 個人情報保護等機密について

・機密文書はシュレッダーや専用の処理サービスを利用するなど漏洩のないよう処分している。なお、情報機器における個人情報保護に関して、FD研修会等を通して、各教職員へ啓蒙している。また、個人情報保護管理委員会に出席し、連携を図り、個人情報の保護に努めている。

(9) 非常災害時への対処について

・防災訓練計画を策定し、避難訓練を実施した。次年度以降も防災意識の高揚に勤めていきたい。

なお、防災管理マニュアルも災害に適切に対応できるよう策定した。

(10) 報道・広報について

・広報については、例年通りパブリシティによる宣伝効果を狙い、各行事等を地元報道関係に記事として取り上げてもらうよう取材依頼をしている。今後とも積極的にPRしていきたい。

2. 教務課の業務に関して

1. 昨年までの課題

新ポータルシステム(ActiveAcademyAdvance)は従来から行ってきた教務関連・学修支援・就職支援などの各業務について広く浅くカバーできているが、それぞれ細部までは行き届いてないところがあるため、業務の整理あるいはカスタマイズ作業によって対応する必要がある。

2. 本年度改善されたこと

令和6年7月12日(金)にカスタマイズを実施し、「レポート課題登録時の時間設定、共有教員設定」、「成績登録後の修正機能追加」、「出席情報入力画面レイアウトの改善」、「レポート課題の出題機能」について改善した。

3. 新たな課題

- (1) ActiveAcademyAdvanceでは、従来から行ってきた教務関連・学修支援・就職支援などの各業務について細部まで行き届いてないところがあるので、業務の整理あるいは追加カスタマイズを加えるなどの対応を考える必要がある。

- (2) 実習担当スタッフの交替により実習業務を再構築している。これまで個人のスキルに偏った管理体制であったため標準的な管理ツールの開発が急務であるが、ActiveAcademyAdvance との連携に至っていない。

4. 次年度取り組むべきこと

- (1) ActiveAcademyAdvance について仕様方法のさらなる習熟を進めつつ、細部についてカスタマイズも含めた工夫改善を検討し、より使いやすいシステムへの醸成を進める。
- (2) 実習業務の再構築について、ActiveAcademyAdvance を利用した標準的な仕様を検討、確立する。

3. 学生課の業務に関して

1. 昨年までの課題

- (1) 学校行事や学生自治会主催イベントに関しては、コロナ後の学生の気質を考慮した内容を新たに構築していく必要がある。
- (2) 学内での駐車違反や日常生活でのマナー等で気になることが多い。学生自治会と共に学生のマナーアップキャンペーンの実施を検討したい。
- (3) 公的な奨学金や補助金等に関する情報について、学生課内で十分理解し、留学生を含めた全学生への周知の徹底を図る。

2. 本年度改善されたこと

- (1) 学校行事および学生自治会主催イベントについては、学祭における飲食を伴う屋台が大幅に増加したこと等コロナ前の規模に近くなった。また、芸人によるお笑いライブ及びアーティストライブも実施できたことでイベントの盛り上がりにつながった。
- (2) 学内の駐車違反については、取締りを強化し、注意文書の貼付及びタイヤロック（13 件 13 名、前年度 5 件 3 名）、反省書の提出等を行った。また、スクールバス利用については、学生バス待ちの並び方の改良、遅延証明書の配布方法変更等を行い、学生利用の円滑化と厳格化を図った。また、学内の喫煙に対する注意文書の貼付、学内での絵具の不十分な後始末に対する注意メッセージ等のマナー向上を図った。
- (3) 学生への周知徹底により、社会福祉協議会の保育士修学資金・介護福祉士修学資金の利用者が大幅に増加した。

給付奨学金	38 件	前年度 37 件
保育士修学資金（三重県）	24 件	前年度 18 件
保育士修学資金（松阪市）	8 件	前年度 3 件
介護福祉士修学資金	20 件	前年度 8 件

3. 新たな課題

- (1) サポートメンバーが早期に確保できなかったことにより、学生自治会主催各種イベント実施のノウハウが継承されない。
- (2) 依然として自動車通学学生の坂上への違反駐車や無登録車両の駐車が後を絶たない。また教室内、靴箱上への私物の放置やカフェテリア等での振る舞いについてもマナーの低下が感じられる。

4. 次年度取り組むべきこと

- (1) 学校行事や学生自治会主催イベントに関しては、教職員の負担や学年歴等の事情により、学生アンケートを参考として金曜日午後に学祭準備と学生イベント、土曜日のみ学祭一般公開とするが、実施内容を充実したものにするよう検討したい。
- (2) 学内での駐車違反や日常生活でのマナー等で気になることが多い。学生自治会と共に学生のマナーアップキャンペーンの実施を検討したい。
- (3) 令和7年度より多子世帯の授業料全額免除が開始される。従来の学生支援機構奨学金及び社会福祉協議会関係の奨学金を含めた情報について、学生課内で十分理解を深め、学生への周知を徹底したい。

4. 学生課（保健室）の業務に関して

1. 昨年までの課題

- (1) 保健担当者不在時の救急搬送も含め、救急搬送時の対応をフローチャート等で明確化する。
- (2) 大学全体での移送、心肺蘇生の手順やAEDの使用法の研修の実施。
- (3) 学生相談室の役割を明確にし、学生が活用しやすい部屋にする。

2. 本年度改善されたこと

- (1) 「保健担当者不在時の緊急対応が必要な場合の対応方法について」の見直しを行った。
- (2) 事務局職員を対象に移送方法の伝達等を実施した。また、学内で学生の捜索が必要な場合のフローチャートが作成された。
- (3) 学生相談における保健室の役割が明確となった。

3. 新たな課題

- (1) 精神面の疾患や課題を抱えた学生の増加に伴い、学内で救急対応が必要な場面が増加している。
- (2) 災害発生時の救急対応に対して大学全体としての取り組みが必要。

(3) 合理的配慮の対象ではないが、持病等がある学生は年々増加している。

4. 次年度取り組むべきこと

- (1) 学内全体で緊急時に対応できるように、研修の実施。
- (2) 持病等がある学生の情報共有のあり方を検討。

5. 学生課（学生相談室）の業務に関して

1. 昨年度までの課題

- (1) 学生支援の体制整備と、学生や教職員への周知。（業務フローの作成、臨床心理士の業務の明確化、教職員との協働体制の整備など）
- (2) 学内における検査態勢の整備を含めた、短大内でのサポート体制の整備。
- (3) 学生相談室について学生への周知を徹底し、より活発な活用を図る。

2. 本年度改正されたこと

- (1) 専用の学生相談室の部屋が整備され、常勤の臨床心理士の担当が配置された。
- (2) 学生相談体制のフローができたことにより、保健室、カウンセリング室、学生相談室を含めた学校全体での学生支援体制における役割分担、および連携の体制が明確化した。
- (3) 学生相談室に常勤の担当がいるため、支援を必要とする学生の居場所ができた。

3. 新たな課題

- (1) 学生相談室の利用方法が学生および教職員に浸透していると言い難く、また、学生や教職員に十分に活用されているとも言い難い。
- (2) 学生相談室に学生がつながった際、具体的な支援に結びつかないことがあったので、今後、学生や教職員から頼られる学生相談室になれるよう、支援内容の充実や工夫を行う必要がある。
- (3) 心理検査体制の整備が遅れている。

4. 次年度取り組むべきこと

- (1) 学生相談室の利用方法や可能な支援など、学生および教職員へ十分周知すること。
- (2) 学生相談室の支援内容について、さらなる充実や工夫を図っていくこと。
- (3) 心理検査体制の整備を行い、実際に検査ができるようにしていくこと。

6. 入試広報課の業務に関して

1 昨年までの課題

- (1) 各学科コースでの安定的な定員確保
- (2) 高校生への早期からのアプローチ
- (3) 出願につながる有益なオープンキャンパスの実施
- (4) 高大教育交流事業の強化
- (5) 委託訓練生の確保
- (6) コロナ禍以降、減少した外国人留学生の確保

2 本年度改善されたこと

- (1) オープンキャンパスの実施回数を増やした。新たに4月に実施したが、この回の参加者の出願率は極めて高く、成果が見られた。
- (2) 新たに県立高校2校と連携協定を締結することができた。1、2年生のキャリア教育や進路学習、探究活動に協力するなど、連携、交流を深めることができた。
- (3) 委託訓練生の募集について、連携協定市である津市の協力により、津市内の公共施設、全保育施設に募集案内を掲示するなど、募集活動を推進することができた。
- (4) SNSによる情報発信の回数が増加、授業内容や学生生活についても積極的に発信することができた。

3 新たな課題

- (1) 高田高校からの受験者が激減し、このことが定員未充足につながった。積極的に連携のための働きかけを行っていく必要がある。
- (2) 短大離れ、保育、介護分野の不人気傾向はさらに進んでいる。短大の強みや魅力を明確にし、それを発信する必要がある。
- (3) 高校生が進学先を十分検討することなく、早期に決定する傾向があることから、その対応・対策が求められる。

4 次年度取り組むべきこと

- (1) 高田高校との連携強化を図る。年度末に実施した高田高校との連携のための意見交換会を受け、本学のキャンパスツアーを含む学年団との懇談会、保育所・幼稚園や介護施設の見学バスツアー、高田高校生を対象としたオープンキャンパスの実施など、新たな取組を進める。
- (2) 高校1、2年生を対象としたキャリア教育や進路学習、探究活動についての連携、協力について企画、各校の進路指導部だけでなく、学年団や専門学科に積極的に提案する。
- (3) オープンキャンパスについて、広報スタッフなど学生主体の企画、運営を推進するなど、高校生、保護者の視点に立ったものとなるよう改善を進める。
- (4) 子ども学科志望者の多い学校と新たに連携協定を結ぶなど、高校との連携、交流を

戦略的に推進する。

- (5) 委託訓練生入試については募集案内のできる期間が1月下旬からの1か月程度に限定されるなど、周知が困難である。今年度の津市につづき、他の連携市にも募集についての協力を仰ぐ。
- (6) 次年度は日本語学校卒業生の増加が予想されることから、県内外の日本語学校に積極的にアプローチすることで、意欲や能力の高い外国人留学生を確保する。
- (7) 保育、介護分野の希望者の減少傾向を食い止めるため、県や市町など、関係機関との連携を進める。新たに他の市との連携協定についても検討する。

7. キャリア支援センターの業務に関して

1 昨年度までの課題

(1) 就職活動全般の早期化

就職活動の早期化による学修時間等の確保への影響は、四年制大学よりも短期大学においてはより深刻である。短期大学における学びを保障しつつ、早期に就職活動への意欲を喚起する働きかけの工夫は引き続き必要である。

(2) 公務員試験対策

早期実施のスケジュールに間に合うような講座等の計画が必要である一方で、従来日程の市町の対策として講座終了後の学力維持の工夫も必要である。また、負担の大きい公務員試験対策に対するモチベーション維持のため、早くから準備を始め、最後まで諦めることなく粘り強く取り組めるよう、支え合う仲間づくりの機会を増やす必要がある。さらに、増加傾向にあるオフィスワークコースの公務員志望者に対して、事務系の公務員試験対策の充実が必要である。

なお、早期実施の市町の中には、9月試験を前に内定を辞退しない旨の誓約書を求めるところがあり、学生に対して志望順位を踏まえた受験方針を立てるよう指導・助言が必要である。

(3) 多様化する学生への支援

子ども学科や介護福祉コースで、資格・免許を取得しない・取得できない学生に対し、早い段階で一般企業の就職活動の流れに乗せるための働きかけが必要である。

発達に特性があるなど支援を要する学生に対し、学生支援委員会を中心に情報共有にとどまらず教職協働により具体的な支援を行うこと、早期から保護者の理解や協力を仰ぐこと、さらに就職後、困難を抱えたり離職したりすることも考えられることから、在学中に学生と専門機関とをつなぐことが必要である。

「働くこと」のイメージが希薄で、就職活動への意欲に欠ける学生に対して、就職講座等で全体指導を行うとともに早期からの個別対応、支援が必要である。キャリア支援

センターへの自発的来所が期待できないことから、キャリア支援委員やゼミ担当教員との連携が不可欠である。

2 本年度の改善点

(1) 就職活動早期化への対策

就職意欲の喚起に関しては、授業に支障がないことを前提に、AAA と掲示、教職員からの声掛けにより就職フェア等への参加を呼び掛けた。また、キャリア支援センター職員と1年生との個人面談については、オフィスワークコースで11月から年内に1度、その後も継続的に実施するスタイルが定着し、子ども学科でも公務員志望者だけでなく1年生全員との個人面談を実施することにより、進路希望の把握と就職活動への意識付けを図ってきた。介護福祉コースでは2年次の早期に個人面談を実施し、実習の進捗状況を見ながら就職活動の支援を進めてきた。また、各学科・コースにおいては、キャリアスタディ（子ども学科）、キャリアガイダンスⅡ（オフィスワークコース）、就職講座（介護福祉コース）等により計画的な指導、支援を続けた。

(2) 公務員試験対策

1年生を対象とした子ども学科キャリアスタディプレ講座「公務員としての保育職」についてのガイダンス、公務員試験（保育教育職）対策ガイダンス、私立志望者も対象とした実技対策講座キックオフイベントを継続実施し、ガイダンスでは、2年生の協力を得てリアルに体験を伝えてもらう機会を設けている。

2年生を対象とした集団討論対策講座、市町別対策講座の実施方法・内容を学生の希望状況に合わせて見直すとともに、その他市町については個別対策を行った。

公務員講座に関しては、出席率維持のため日頃から意識して声掛けをするとともに、数学講座に関しては学生掲示板を活用して回毎に取り扱う問題を予告して課題への取組意欲を高める工夫を行ったり、学生の出席状況に合わせた日程調整を行ったりした。

学校事務や警察事務、警察官などを中心とした公務員試験対策は、個別指導に加え、先輩から後輩への助言の場を設定した。

(3) 多様化する学生への支援

子ども学科で免許・資格を取得しない学生への支援においては、実習担当と連絡を密にし、対象学生の早めの把握、早めの対応に努め、厚生労働省の就職情報提供サイト jobtag の職業適性テスト（Gテスト）などを活用して支援を進めた。

発達に特性があるなど支援を要する学生の就職活動については、学生支援委員会を中心にした全学的な取組のなかで、学生相談室や保健室、カウンセリング室と連携しながら個別対応を進めた。個別の事案にあつては、特例子会社への進路開拓、就労移行支援事業所との連携を始めた。

3 新たな課題

(1)就職活動全般の早期化

1年次に子ども学科、オフィスワークコースの全員に個人面談を実施したことにより、学生の意識がより明確になった。特に、子ども学科で保育士資格、幼稚園教諭免許を取得しない、あるいは取得しても保育職には就かないという意向の学生を一定数把握する結果となり、保育・幼児教育分野よりも早くからスタートする一般企業等への就職活動スケジュールに乗せる手立ての確立が必要になってきている。

(2)公務員試験の早期化に伴う課題

今年度、早期実施した自治体は桑名市、川越町、四日市市、松阪市、多気町、玉城町、志摩市、伊賀市、熊野市、三重県となった。昨年度前期試験を実施した亀山市は、本年度9月の後期試験のみとなった。なお、多気町、玉城町、志摩市は9月に後期試験（志摩市は1月にも追加募集）を、伊賀市は11月と12月に追加募集を実施している。年度ごとの状況変化が大きく、HPや広報も注視しつつ情報収集に努める必要がある。

早期実施の市町の中で9月試験を前に内定を辞退しない旨の誓約書を求めるところについては、学生の進路選択を尊重しつつ、該当市町への丁寧な説明と対応に努めていく必要がある。

また、公務員志望の学生が減少していることから、早くから準備を始め、最後まで諦めることなく粘り強く取り組めるよう、支え合う仲間づくりの機会を増やすとともに、9月試験までのモチベーション維持のために始めたmanabaによる小テスト配信をAAAに移行できなかったため、それに代わる工夫が必要である。

(3)学生の職業観の変化と多様化する学生への支援

学校事務や警察事務などを中心とした公務員希望の増加傾向に対しては、「おしごと説明会」を始めとしたイベントへの誘導のほか、警察関係においてはサイバー防犯ボランティアへの参加が有効であり、積極的な働きかけが必要である。

子ども学科で免許・資格を取得しない学生への支援において、1年次の面談で把握した場合の就職活動プランを確立する必要がある。

発達に特性があるなど支援を要する学生について、従前からの課題を解消するためには、入学前、入学時から修学、就職、就職後に繋がる一貫した支援の流れを創り出す必要がある。

「働くこと」のイメージが希薄で、就職活動への意欲に欠ける学生については、引き続き就職講座等で全体指導を行うとともに、キャリア支援委員やゼミ担当教員との連携のもと、早期からの個別対応、支援に取り組む必要がある。

(4)委託訓練生への支援

介護福祉コースに加え、子ども学科でも委託訓練生が在籍することとなり、多様なライフステージに対応した就職先への就職活動支援が必要になってきている。

4 次年度の取組

(1) 就職活動全般の早期化への対策

個人面談や教員との情報共有により、子とも学科、介護福祉コースで資格を取得しない学生を早期に把握し、一般企業等の就職活動スケジュールに沿った支援を行えるよう努める。

(2) 公務員試験早期化への対策

公務員試験に関して、受験報告の回収を徹底し、受験対策の情報を充実させるとともに、市町の担当課と連絡を密にして実施時期を把握し、計画的に支援を行う。

公務員志望者を対象としたガイダンスや市町別のガイダンスを計画的に実施するほか、個別面談により各学生の希望を把握し、試験対策への不安を取り除けるような指導を行っていく。また、同一市町の受験者を集め、切磋琢磨して受験に臨める仲間づくりを推進する。さらに、manaba に代わる方法により、9月試験までのモチベーション維持に努める。

(3) 学生の職業観の変化と多様化する学生への対応

キャリア支援委員会に向けての学科・コース別事前ミーティングにおいて、発達に特性があるなど支援を要する学生については、特に時間をかけて対応方針を確認するとともに、学生支援委員会との連携を深める。保護者の理解や協力が必要な学生に関しては、ゼミ担当者と協力して対応する。また、発達に特性のある学生を在学中に専門機関とつながることにも注力していきたい。さらに、一貫した支援の流れとなるよう新たな体制となる学生相談室との円滑な連携を構築していきたい。

就職活動への意欲に欠ける学生については、就職講座等で全体指導を行うとともに早期からの個別対応、支援を行う。キャリア支援委員やゼミ担当教員により一層の協力を求め、キャリア支援センターへの来所を促していきたい。

(4) 委託訓練生への支援

多様なライフステージに対応した就職先の情報収集に努め、適切に相談に応じられるよう支援スキルの向上に努める。